

少林山砂防施設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

少林山台遺跡

—後期弥生時代集落・群集墳の調査—

《遺物観察表編》

1993

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	昭和十一年文化財	01-352
	保管	411
No. 94-1364	平成6年9月6日	3(6)

少林山砂防施設工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

しょう りん ざん だい
少 林 山 台 遺 跡

—後期弥生時代集落・群集墳の調査—

《遺物観察表編》

1993

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

遺物観察表目次

1. 弥生時代の遺構出土遺物

(1) 住居

1号住居	1
2号住居	1・2
3号住居	3
4号住居	3～5
5号住居	5・6
6号住居	6
7号住居	6～8
8号住居	8～10
9号住居	10・11
10号住居	11・12
11号住居	12～15
12号住居	15・16
13号住居	16・17
14号住居	17・18
15号住居	18
16号住居	18・19
18号住居	19～21
19号住居	22～24
20号住居	24・25
22号住居	25・26
23号住居	26・27
24号住居	27・28
25号住居	28
26号住居	28・29
28号住居	29～32
29号住居	32
30号住居	33～35
32号住居	35～37

(2) 墓

2号墓	38
5号墓	38

(3) 溝

3号溝	38
-----	----

(4) 土坑

1号土坑	38
------	----

(5) グリッド

グリッド	38～40
------	-------

2. 古墳時代の遺構出土遺物

(1) 古墳

2号墳	41～48
3号墳	48～51
4号墳	51～53
5号墳	53・54
6号墳	54・55
7号墳	55～57
8号墳	57・58
9号墳	58～60
11号墳	60～62
12号墳	62～69
14号墳	69～71
15号墳	71
17号墳	71～75
19号墳	75
21号墳	76・77
22号墳	77

(2) 住居

17号住居	78
21号住居	79・80
27号住居	80～82

(3) 土坑

2号土坑	82
3号土坑	82
4号土坑	82

(4) 墓

10号墓	82
------	----

3. 平安時代の遺構出土遺物

(1) 住居

31号住居	83
-------	----

1. 弥生時代の遺構出土遺物

(1) 住居

1号住居出土遺物観察表 (第26図、図版29)

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 1	鉢	1/2残存 口 (10.0) 高 5.3	南東部 -7 No2	①チャート・粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	小径。口縁部は弧状に立ち上がる。底部は高台状に厚みを持つ。内外面とも粗雑な無で。		内面の一部に炭素吸着。
2 3	甕か	口縁部1/3残存 口 (11.5) 高 (4.1)	P 4内 No16	①粗砂多量 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外傾弱く立ち上がる。内面は横方向の器面調整。	口縁部全面に5~6条1単位の櫛描波状文が5段以上施される。	熱を受けているか。
3 2	台付甕 小型	上半部1/3残存 口 (10.0) 高 (8.5)	P 2・4内 No16	①輝石細粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部は頸部でくびれた後、外傾して立ち上がる。胴部は偏平に張る。内面は横方向の磨き。	頸部に10条の櫛状工具による2連止簾状文を施文後、口縁部に2~3段、胴部に1段7条の櫛描波状文を施文。口縁部文様帯の上位に円形刺突文を伴うボタン状貼付文が付く。	内外面に炭素吸着。外面は被熱による荒れ。
4 5	甕か	胴部~底部破片	北東部 -56 No13	①チャート細砂 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR7/6	胴部外面は棒状工具による縦方向の磨き。底部外面は砂底でザラつく。		外面に炭素吸着。
5 4	台付甕か	台部1/3残存 高 (7.3)	P 2内 No5	①白色鉱物の細砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	ラッパ状に外反し裾部を形成する。外面は丁寧な器面調整。		器面は荒れている。
6 2	砥石	31.9・14.0 11.8	南東部 No20	粗粒安山岩 8650	大型の置砥で、側部の3面を使用している。一部に沈線状の削痕が集中し敲打痕も認められる。		
7 1	すり石 凹石	9.2・4.4 2.1	P 2内 No18	緑色片岩 142	小口の両端は欠損。表裏面はすり面。裏面の一部に敲打痕。側面もすっている。		

2号住居出土遺物観察表 (第29・30図、図版29・30)

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 13	甕 小型	完形 口 8.0 高 5.8	南東部 床直 No47	①細砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は弧状に緩やかに外反する。胴部の張りは弱く最大径は口径と等しい。外面は縦方向の丁寧な無で・磨き。		炭素吸着。内面に付着物。
2 23	高杯か	口縁部破片	南部 +21 No 9	①輝石細砂 ②酸化焰・良好 ③断面淡橙5YR6/4	内外面とも丁寧な磨き。		内面に赤色塗彩。
3 25	甕	口縁部破片	北東部 床直 No28	①灰白色の礫・細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	折り返し口縁。	折り返し部分の直下から下位に櫛描波状文が3段施される。6条1単位か。	変色している。
4 17	甕か	口縁部破片	北東部 +10 No26	①軽石の粗砂少量 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR4/4	折り返し口縁。	折り返し部分を除いて櫛描波状文が充填される。6条1単位で4段認められ、更に下位にも施される。	被熱による変色。
5 33	甕か	口縁部破片	南東部 +30 No48	①細砂状の輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/6	口縁部は緩やかに立ち上がる。		
6 22	壺	胴部破片	中央部 +32 No21	①細砂 ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4		頸部には8条1単位、2連止簾状文が2段施される。その直下には粗雑な櫛描波状文がある。	
7 18	台付甕 小型	上半部破片	P 3内 No 3	①輝石の細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。	胴部上位に8条1単位と思われる櫛描波状文施文後、頸部にやや不規則な等間隔止簾状文を施文。12条1単位か。口縁部文様帯の施文は最後で波状文を3段巡らすか。	外面に炭素吸着。

番号	器種	残存量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
8 21	台付甕	口縁部～胴部上 位1/3残存 口 (12.6) 高 (4.5)	中央部 床直 No27	①細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は短く、緩やかに外反する。	器面の剥離が著しく観察が困難であるが櫛描波状文が施される。	被熱による 変色。
9 16	壺か甕	口縁部1/3残存 口 (17.9) 高 (5.0)	北東部 床直 No25	①白色鉱物・輝石の 細砂 ②酸化焰・良好 ③にふい赤褐5YR 5/4	折り返し口縁であるが返りは弱く、平たい。内面は丁寧な磨き。	全面に振幅の大きい櫛描波状文が充填される。5～7条1単位で5段以上か。	被熱による 変色。
10 15	台付甕	台部欠損 胴部も1/2欠損 口 14.2 高 (11.0)	北東部 床直 No50・51・57	①輝石細砂少量 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	頸部の屈曲は弱く、口縁部は外傾弱く立ち上がる。胴部は偏平。胴部外面及び内面全面は丁寧な磨き。	口縁部上半に7条1単位の櫛描波状文を、頸部には10条1単位、2連止簾状文を、また、その下に波状文を1段施す。	床直とP5 内が接合。 被熱。
11 20	甕又は壺	胴部下半～底部 高 (11.2)	北東部 床直 No33	①細砂 ②酸化焰・良好 ③にふい橙5YR7/4	胴部はやや丸みをもって張る。外面は斜方向の刷毛目を残す。内面は篋撫で。		一部に炭素 吸着。 19と同一個 体。
12 14	甕	口縁部～胴部上 位 口 17.0 高 (14.7)	中央部 床直 No27・67	①白色鉱物の細砂 ②酸化焰・良好 ③にふい赤褐5YR 5/4	口縁部の先端は内側に短く折れる。外面は刷毛状工具による器面調整。内面は篋撫でか。	頸部には6条1単位の2連止左回りの櫛描簾状文を、胴部上位には6条1単位の櫛描波状文を3段施す。	床直とP3 内が接合。 被熱。
13 30	壺	底部 底 9.8	南東部 +22 No45	①白色鉱物の細砂 ②酸化焰・良好 ③にふい赤褐5YR 5/3	大径の平底。		
14 31	壺	胴部下位～底部 高 (9.1) 底 13.4	北東部 床直 No30・65	①粗砂・細砂 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/6	大型品の部位と思われる。		
15 11	高杯か	脚部 高 (7.6)	南西部 +3.5 No1	①黒雲母細砂 ②酸化焰・良好 ③明褐7.5YR5/6	脚部は下位にやや膨らみを持ち外反。弱い裾をつくる。外面は縦方向の丁寧な磨き。内面は横方向の丁寧な撫で。		杯部を打ち 欠いて二次 利用をして いるか。
16 10	高杯	脚部2/3残存 高 (9.0)	南西部 床直 No2	①黒雲母細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	弱く外反し、裾に向けて直線的に開く。外面は縦方向の撫で・磨き。内面は撫で後、斜め横方向の刷毛目。		杯部内面に 炭素吸着。
17 12	高杯	杯部下半～脚部 高 (9.9)	北部 床直 No54	①輝石細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	杯部は斜め上方に立ち上がるか。脚部の裾は小径で外反も弱い。外面は縦方向の磨き。内面は下半に斜め横方向の刷毛目。		被熱。 杯部内面に 黒色付着物。
18 9	甕	口縁部から胴部 上半1/3残存 口 (21.8) 高 (24.2)	P3・4内 No66・70	①粗砂大の赤色粘土 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。先端は折り返し口縁。胴部外面は刷毛目を、内面は刷毛目を消して磨きを重ねる。	口縁部は8条1単位の櫛描波状文を折り返し部分も含め7段施す。頸部には8条1単位2連止の櫛描波状文が巡る。胴部上位の波状文は5段である。	
19 3	すり石 凹石	10.5・6.5 3.7	1号炉内 No60	粗粒安山岩 382	表面は数箇所を、裏面は1箇所を集中して敲打し、片方の側面も敲打している。表裏面とも多少ずっているか。		
20 4	すり石	8.4・5.1 4.2	中央部 No61	粗粒安山岩 257	表裏面とも丁寧にすっている。		
21 6	すり石	8.2・2.5 1.3	埋没土	雲母石英片岩 38	小口部分、特に図の下端は敲打あるいは磨滅の為に平坦になる。表面は裏面と比較して多少すれて平滑になっている。		
22 66	すり石	31.0・18.6 6.6	東壁際 No59	粗粒安山岩 6250	表裏面の一部に使用痕が認められる。		

3号住居出土遺物観察表〈第33図、図版30〉

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 34	高杯	杯部1/3残存	中央部 床直 №13・16	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	大径で、斜め上方に開いて立ち上がる。先端は内側が弱く返る。内外面とも横方向の撫で。		器面が荒れている。
2 7	石鉢	1.7・1.2 0.2	北西部 №30	黒耀石 0.32	凹基。脚部の一端が欠損。表裏面の一部剝離面を磨いている。		

4号住居出土遺物観察表〈第37・38図、図版30・31〉

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 62	蓋	天井部 径 3.2 高 (1.8)	埋没土	①輝石細砂 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	猪口を逆にしたような形状で、つまみが付く。外反して端部に向かうか。		
2 51	鉢	ほぼ完形 口 11.3 高 4.6～5.6	南東部 床直～+8 №14・15・313	①チャート・白色鉱物少量 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	器形は著しく歪む。口縁部は外傾著しく立ち上がる。内外面とも斜方向に丁寧な磨きを重ねる。		内外面に炭素吸着。
3 46	甕	口縁部1/3残存 口 (10.5) 高 (5.4)	南東部 +5 №50	①細砂大の白色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	口縁部は緩やかに立ち上がる。外面は篋撫で。内面は横方向の磨き。		被熱による変色、変質。
4 48	甕	1/2残存 口 (14.1) 高 9.2 底 3.4	南東部 +3 №27	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	漏斗状を呈し、口縁部は弧をなして張る。底部は小径で中央に1.2cmの孔を穿つ。外面は撫で後磨き。内面は丁寧な磨き。		底部外面に炭素吸着。
5 59	台付甕	口縁部～胴部上位破片	西部 +9 №173	①チャート細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR5/4	口縁部は短く、外傾弱く立ち上がる。胴部は偏平か。	口縁部には8条の、胴部上位には11条の櫛条工具による波状文を、頸部には13条の2連止簾状文が施される。口縁部文様帯には刻目文を伴う楕円形の貼付文をみる。	
6 49	台付甕	口縁部～胴部上位 口 (13.8) 高 (6.4)	南東部 +19 №25・33	①白色鉱物粒の細砂 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/6	口縁部は短く、外傾弱く立ち上がる。胴部は偏平か。内面は丁寧な磨き。	器面が剝離しており観察は困難であったが、口縁部から胴部上位に櫛条波状文を施す。口縁部の最上位には円形の貼付文を付ける。	被熱。
7 42	壺	口縁部 口 18.7 高 7.7	貯蔵穴内 +8 №3	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	斜め上方に外反して立ち上がる。外面は斜方向の刷毛目。内面は撫で後横方向の磨き。	頸部に櫛条工具による2連止簾状文が施される。	二次利用されたか。
8 63	高杯	杯部1/3残存 口 (13.7) 高 (4.4)	貯蔵穴内 床直 №7	①輝石の細砂 ②酸化焰・良好 ③	口縁部は弧をなして斜め上方に立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
9 56	高杯か	杯部下位破片	中央部 +19 №35	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	杯部は柄状の突起を残して脚部と接合する。		
10 52	台付甕	台部2/3残存 高 (6.9)	北西部 床直 №155・157	①輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	小型で外反して裾方向に開く。外面は磨き。内面は撫で。		被熱。
11 58	甕	底部 底 6.7	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面は篋撫で後に一部磨き。		
12 57	甕	底部 底 (6.3)	P3内 床直 №77	①輝石・白色鉱物粒 細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は篋撫で。		
13 61	甕か	底部破片		①細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6			

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1455	甕	胴部下位～底部 破片 底 (6.7)	南西部 +11 No90	①チャート・白色鉱物粒・細砂 ②酸化焰・良好 ③黄橙7.5YR7/8	外面は縦方向の丁寧な磨き。内面は篋撫で。		外面に赤色塗彩か。
1545	壺か	底部 底 10.3	南西部P 3内 +27 No78・80・86	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は撫で。		被熱。
1650	甕	胴部下半～底部 高 (8.5) 底 7.0	中央部 +22 No138・260	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	胴部は弱く張る。内外面とも篋撫でに磨きを重ねる。		炭素吸着。熱を受けているか。
1740	壺	胴部上位の破片	南部 +16 No69	①輝石細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	胴部は大きく張り出す。外面の下部は縦方向の磨き。内面は刷毛目。	破片上位に5条1単位の櫛描波状文を充填する。最下位には円形刺突文を伴うボタン状貼付文がみられる。	波状文より下位に赤色塗彩。皿状に再利用か。
1847	甕	口縁部～胴部上半1/3残存	北西部 5～24 No162・279	①白色鉱物粒・石英の細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は外傾弱く立ち上がり、先端は弱く内側に返る。内面は横方向の磨きを重ねる。	頸部に7条1単位の櫛状工具による2連止の簾状文を巡らした後、口縁部及び胴部上位に櫛描波状文を充填する。工具は6条1単位と思われ、口縁部に4段、胴部は3段と思われる。	被熱による変色、変質。
1953	甕	口縁部破片	埋没土	①チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR5/4	口縁部は緩やかに外反する。	口縁部から胴部上位にかけて、9条1単位の櫛状工具による波状文が間隔を保って4段認められる。	
2054	甕か	口縁部破片	南西部 +33 No112	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/6		口縁部には櫛状工具による山形文が描かれ、先端には刻目文が加えられる。頸部には7条1単位と思われる櫛状工具による波状文と2連止+簾状文がある。	
2135	壺	胴部下位 高 (11.1)	北東部 +17 No92・132・133・137	①輝石・白色鉱物粒の細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4		胴部は大きく張り出す形状と考えられる。外面は丁寧な磨き。	
2244	壺	底部 底 12.4	南東部 +5 No23	①礫大の白色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	大型品の底部。内面は指頭による器面調整。		
2339	甕	口縁部～胴部下位 口 18.7 高 (28.1)	P 1内 No294・295・296・297・298・299	①黒雲母細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	胴部の張りは緩やかで、最大径は下位にある。外面は篋撫で下半は斜方向の磨きを重ねる。	頸部から胴部上位に櫛描波状文を重ねる。乱雑で、波形の振幅も大きい。6条1単位で10段が認められる。	外面下半に炭素吸着。
2437	壺	完形 口 14.0 高 22.0	貯蔵穴内 +7 No 4	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	口縁部は緩やかにくびれ外傾弱く立ち上がる。最大径は胴部中位にある。内外面とも丁寧な磨き。		器面は脆弱、変色している。
2536	甕	口縁部～胴部中位 口 14.4 高 (16.8)	貯蔵穴内 +6 No 2	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	頸部のくびれは弱く、口縁部は緩やかに立ち上がる。先端は外側がそげてやや尖る。外面は刷毛目後撫で。下半部は磨き。内面は丁寧な磨き。	頸部から胴部上位に乱雑な櫛描波状文が施される。6条1単位で4段か。	炭素吸着。器面は脆弱。底部の欠損は二次利用のためか。
2643	壺大型	口縁部 口 27.9 高 14.1	貯蔵穴内 +5 No 1・2	①輝石多量 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	ラッパ状に外反し、先端は折り返し口縁。外面は刷毛目、内面は横方向の磨き。	頸部に簾状文が施される。口縁部の先端には貼付文が加えられる。	二次利用されたか。

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
27 41	壺	口縁部2/3残存 口 (16.9) 高 (7.8)	南西部 +7 No73・102・222	①赤色鉱物粒の粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	ラッパ状に大きく外反する。先端は折り返し口縁で、明瞭な段がつく。外面は縦方向の刷毛目、内面は横方向の磨き。	頸部には10条1単位の櫛描横線文に9条1単位の縦方向の直線文が重ねられ、いわゆる丁字文が描かれる。	
28 10	すり石	27.1・13.7 10.5	P3際 No205	粗粒安山岩 5690	表裏面と側面の一部をすり面として使用している。		

5号住居出土遺物観察表〈第41・42図、図版31〉

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 70	蓋	ほぼ完形 口 7.4 高 4.8	1号炉内 No85	①白色鉱物粒細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	小径の天井部に中央の窪むつまみが付く。外面は丁寧な磨き。天井部端近くは磨き。内面は磨き。		被熱による変質、変色。
2 75	高杯か 小型	脚部 高 (5.0)	東部 +11 No78	①白色鉱物の粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR7/8	弱く外反して裾部をつくる。端近くには工具圧痕を残すか。		被熱による変質、変色。
3 71	甕 小型	口縁部～胴部上 半1/4残存 口 (8.1) 高 (5.8)	埋没土	①白色鉱物粒細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は弱く外反、水平方向に延びる。内外面とも丁寧な磨き。		被熱。
4 76	高杯	杯部1/2残存	南東部 床直 No3・84	①輝石細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	カップ状を呈する。杯部はあまり張りを持たず斜め上方に立ち上がる。脚部は小径。脚部内面を除き丁寧な磨き。		杯部内外面脚部外面に赤色塗彩。
5 69	高杯か	脚部 高 (7.7)	埋没土	①白色鉱物粒・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐5YR4/8	裾方向に弱く外反する。器面調整は外面が磨削り後磨きか。内面は斜横方向の磨き。		被熱による変質。
6 73	甕	底部 底 5.4	埋没土	①白色鉱物粒粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面は磨き		
7 65	壺	口縁部大型破片 口 (27.2) 高 (8.1)	北東部 床直 No51	①輝石・金雲母細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	折り返し口縁。外面は刷毛目、内面は横方向の磨き。		内面に赤色塗彩。
8 64	壺	口縁部 口 20.8 高 (11.4)	北東部 床直 No49	①輝石・白色鉱物粒粗砂 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/6	口縁部は外反著しく立ち上がり先端は折り返し口縁。外面の器面調整は刷毛目後磨き。内面は磨き。	折り返し口縁には1単位7条以上の櫛描波状文が加えられる。頸部に2連止麗状文が巡る。櫛歯は12条を数える。	二次利用されてきたか。
9 66	甕	底部2/3残存 底 11.4	南西部 +14 No19	①白色鉱物粒の粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6			外面に編物圧痕。
10 67	壺	胴部下位～底部 高 (5.8) 底 10.4	埋没土	①輝石・白色鉱物粒粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面は丁寧な磨き。		胴部、底部に靱帯圧痕か。
11 68	甕	胴部下位～底部 底 6.5	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は磨き。		被熱による変色。
12 12	すり石	13.7・5.5 3.6	南東部 No47	粗粒安山岩 395	表裏面ともすり面となっている。表面に敲打による凹みが2箇所ある。小口の両端にも多少の敲打痕が認められる。		
13 14	すり石	19.1・5.8 2.2	埋没土 No73	黒色片岩 329	表裏面が使用面であるのか、自然面であるのか不明。表面に1箇所の凹痕がある。小口部分は敲打により磨滅。		
14 15	すり石	15.5・5.4 2.3	東壁際 No74	雲母石英片岩 260	表裏面は自然面か？。小口部に多少の敲打痕がみられる。		
15 16	すり石	34.0・22.3 14.4	貯蔵穴 No77	デイサイト 13900	大型の置砥で、表裏面と側面に4箇所の使用面が残る。部分的に沈線状の削痕がある。石質は比較的細粒である。		

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
16 17	凹石	8.6・7.5 3.2	埋没土	粗粒安山岩 300	表裏面とも敲打とすり面に使用している。側面にも敲打痕が認められる。		

6号住居出土遺物観察表〈第44図、図版31〉

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 83	壺	胴部上位の破片	南東部 +10 No85	①細砂 ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/6		頸部の2連止簾状文の直下に櫛描波状文を充填する。刺突文は区画を伴わない鋸歯文を構成するか。	一部に赤色塗彩。
2 84	壺	胴部上位破片	中央部 +29 No51	①輝石細砂 ②酸化焙・良好 ③にぶい橙5YR6/3		6条1単位の櫛描波状文の下には斜方向に横線文を充填する。鋸歯状文が配されると思われる。	
3 78	高杯	脚部上半 高(6.5)	南東部 埋没土	①輝石細砂 ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR7/6	脚部は弱く外反して裾部をつくったか。		外面に赤色塗彩。二次利用されたか。
4 77	甕	口縁部～頸部2/3残存 口(22.9) 高(11.6)	中央部 床直 No49・167	①チャート・輝石の粗砂 ②酸化焙・良好 ③淡橙5YR8/4	口縁部は緩やかに外傾弱く立ち上がる。先端は内側に短く折れる。外側がそげ尖る。内面は丁寧な磨き。	頸部に6条1単位のと考えられる櫛状工具による等間隔簾状文を施す。口縁部には櫛描波状文を施したか。	被熱。内面に炭素吸着。
5 79	壺	胴部下位～底部1/3残存 底(16.0)	北東部 +18 No61・62	①チャート礫・粗砂 ②酸化焙・良好 ③橙5YR7/8	大型品の底部。		
6 80	壺	底部1/3残存 底(9.7)	南西部 床直 No137	①輝石・白色鉍物粒 細砂 ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6	大型品の底部。外面は丁寧な磨き。		
7 18	すり石	20.2・5.9 5.9	南西隅 No165	粗粒安山岩 906	すり面Aは長・幅とも平坦に使用し、原形の稜が完全になくなっている。B・Cの両面も磨耗し、B面には長軸方向に幅2mm程の削痕が残っているか。両小口の先端は敲打により潰れている。		

7号住居出土遺物観察表〈第46図、図版32・33〉

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 109	蓋	つまみ	南東部 +28 No52	①細砂大の輝石・白色鉍物粒 ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	つまみの上端部は平坦である。天井部は大きく外反か。外面は篋撫で。		
2 95	甕か 小型	2/3残存 口(7.6) 高5.2	南西部 +7 No124	①粗砂 ②酸化焙・良好 ③にぶい橙5YR7/4	短い口縁部は強く屈曲、先端は水平方向に延びる。底部は安定した平底。内外面とも丁寧な磨き。		外面及び内面の口縁部に赤色塗彩。内面に炭素吸着。
3 88	台付甕 小型	口縁部～胴部 口8.7 高6.6	P2内 +21 No126	①粗砂大の赤色粘土粒・チャート ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/8	口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。胴部は浅い。内外面とも丁寧な磨き。	頸部に7条1単位の櫛状工具による2連止簾状文を巡らした後、口縁部及び胴部上位に5～7条1単位の櫛描波状文を施す。	一部に炭素吸着。
4 110	台付甕か	台部上半	埋没土	①粗砂大の白色鉍物粒 ②酸化焙・良好 ③にぶい赤褐2.5YR6/4	外面は磨き。内面は刷毛目、篋撫で。		
5 102	高杯か	脚部1/2残存 高(8.5)	南西部 床直 No112	①粗砂大のチャート・白色鉍物粒 ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面は縦方向の磨き。内面は斜方向の篋撫で。		

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
6 111	台付甕か	台部下半1/2残 存	南西部 床直 No.140	①粗砂大のチャ ート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面は縦方向に篋削り、篋撫で。 内面は篋撫で。		
7 94	台付甕か	台部	南部 床直 No.105	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	外面は縦方向に磨き。内面は丁 寧な篋撫でか。		
8 93	高杯	部2/3残存 高 (8.7)	南東部 + 7 No.67	①粗砂大のチャ ート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	内面は斜方向に篋撫で。外面は 丁寧な器面調整か。		被熱による 変色。
9 89	甕 小型	口縁部1/2残存 口 8.3 高 9.3	東部 + 9 No.14	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は緩やかにくびれ、外傾 弱く立ち上がり、最大径を持つ。 口縁部は器面調整の刷毛目を残 す。胴部は磨き。	口縁部先端と胴部上位に櫛描 波状文、頸部には8条1単位 と思われる2連止櫛描簾状文 が施される。	炭素吸着。 器面の磨減 ・剝離が著 しい。
10 107	甕か	底部破片	中央部 +10 No.92	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8			
11 113	甕	底部破片	北東部 埋没土 No.4	①粗砂大の石英・白 色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	小型の鉢状を呈していたか。中 心に径1.2cm程の小孔が穿って ある。内面は丁寧な磨き。		
12 91	鉢	口縁部は一部分 のみ残存 口 14.1 高 7.6	南西部 埋没土 No.135	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部は外反弱く斜め上方に立 ち上がる。内外面とも篋撫で後 磨きか。内面には指頭圧痕が認 められる。		一部に炭素 吸着。
13 90	鉢	ほぼ完形 口 14.9 高 7.4	P 2 内 + 4 No.123	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は上半に至り膨らみ弱く、 内湾ぎみに立ち上がる。内外面 とも丁寧な磨き。		内外面に赤 色塗彩。
14 98	高杯	口縁部破片 口 (15.7) 高 (7.1)	P 4 内 +16 No.36・47	①精選、細砂の輝石 少量 ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4	口縁部の先端は外側がそげてや や尖る。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤 色塗彩。
15 96	高杯	杯部1/3残存 口 (18.6) 高 (7.2)	南部 +15 No.98	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	内外面とも横方向の丁寧な磨き。		内外面に赤 色塗彩。
16 97	高杯	口縁部1/3残存 口 (17.0) 高 (7.9)	P 3 内 +24 No.73	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	内外面とも横方向の丁寧な磨き		内外面に赤 色塗彩。
17 87	壺	口縁部～胴部上 位 口 28.9 高 19.8	南東部 + 3 No.57・69・153	①粗砂大の白色鉱物 粒多量 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/6	口縁部は強くくびれる頸部から 外反強く立ち上がる。先端は折 り返し口縁。口縁部の外面には 器面調整のための刷毛目を残す。	頸部から胴部上位には幅広の 櫛描横線文に縦方向で2本1 単位の直線文が重ねられ、い わゆる丁字文が描かれている。	器面は磨減 が著しい。 二次利用さ れたか。
18 92	甕	口縁部～胴部上 位 口 14.2 高 (11.2)	南東部 +12 No.78	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4	口縁部は頸部で屈曲後、直線的 に立ち上がる。内面及び胴部外 面は丁寧な磨き。	頸部に8条1単位と思われる 2連止櫛描簾状文を施した後、 口縁部の全面と胴部上位に櫛 描波状文を充填する。	被熱。一部 に炭素吸着。

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
19 86	台付甕	ほぼ完形 口 16.3 高 29.6	南東部 +17 No99・101・102	①細砂大の輝石・白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部はくの字状に外傾、端部は内側に短く折れる。胴部は強く張り球形を呈する。台部は低く、ハの字状に外反する。口縁部外面には刷毛目を残すが、他は内外面とも丁寧な磨き。	口縁端部に櫛描波状文、この上に3単位、円形刺突文を伴うボタン状文を貼付する。頸部には11条1単位の櫛状工具による2連止簾状文を巡らす。胴部上位には9条1単位の櫛描波状文が2段あり、文様帯の下位には、口縁端部同様のボタン状文が6単位貼付される。	炭素吸着。
20 85	甕	完形 口 15.1 高 22.0	南東部 +7 No93	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部はラップ状に外反、先端は折り返し口縁。胴部の張りは弱く、最大径は下位にある。器面は丁寧な磨き。		器面の荒れが著しい。外面及び内面の口縁部に赤色塗彩。
21 105	台付甕	口縁部破片	南東部 +11 No68	①細砂大の輝石・白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8		7条1単位と思われる櫛描波状文が2段認められる。	
22 99	甕	口縁部～胴部上位 口 (18.8) 高 (12.2)	北東部 埋没土中 No23・26・27	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4	口縁部は屈曲してくの字状に外反する。胴部の張りも強い。内面は丁寧な磨き。	口縁部は全面に波形の乱れた櫛描波状文を充填する。胴部上位にも波状文。頸部には9条1単位の櫛状工具による2連止簾状文が施文される。	
23 100	台付甕	口縁部～胴部上位 口 (16.0) 高 (6.8)	南東部 +11 No71・91	①粗砂大の赤色粘土粒・細砂の白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は短く、外傾弱く立ち上がる。口縁部の外面には器面調整の刷毛目が残る。内面は丁寧な磨き。	口縁部先端は、4条1単位の櫛描波状文を巡らした後、刺突文を伴うボタン状貼付文が付く。頸部には9条1単位と思われる2連止簾状文を、胴部上位には4条1単位の波状文を2段巡らす。	
24 101	甕	口縁部破片	南西部 埋没土 No136・138	①粗砂大の白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR5/4	先端は外側がそげ、弱く尖る。		被熱による変色、変質。
25 103	壺	口縁部破片	南西部 床直 No109	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/4	ラップ状に大きく外反していたか。		
26 104	壺	口縁部破片	北東部 埋没土 No2	①細砂 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/6	先端は幅広の折り返し口縁。		
27 19	異形石鉢	2.3・0.8 0.35	埋没土	玉髄 0.85	凹基。くりこみが著しく脚部欠損後、欠損部を二次調整。		

8号住居出土遺物観察表《第49図、図版33》

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2 127	台付甕か 小型	口縁部～胴部上位破片	西部 床直 No10	①細砂大の白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は強く屈曲、先端は水平方向を向く。	口縁部の先端に刻目文が施される。	外面及び口縁部内面に赤色塗彩。
3 122	甕か	口縁部1/3残存	南西部 +3 No48	①細砂大の白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外反して立ち上がる。内面は丁寧な磨き。	口縁部上半に10条1単位の櫛描波状文を2段施す。頸部には1単位5条以上の簾状文がみられる。	

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
4 123	台付甕か	口縁部～胴部上 位の破片	南西部 床直 No23	①礫・粗砂のチャー ト・粗砂大の白色鉾 物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4	口縁部は短く、外傾弱く立ち上 がる。	波形の乱れた櫛描波状文を充 填する。	被熱。
5 125	壺か	口縁部破片 口 (23.1) 高 (6.1)	南西部 床直 No24	①チャートの礫・細 砂の白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	先端は外側がそげ薄くなり尖る。 内面は丁寧な磨き。	波形の乱れた櫛描波状文を充 填する。9条1単位か。	一部に炭素 吸着。
6 120	甕	口縁部1/2残存 口 (20.0) 高 (8.5)	南東部 -2.6、+0.2 No35・36・39	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4	外反弱く立ち上がる。内面は磨 き。	口縁部の端部には刻目文が施 文される。以下には振幅が大 きく、波形の乱れた櫛描波状 文が充填される。8条1単位 で8段以上巡る。	床直とP2 内が接合。 炭素吸着。
7 126	壺か	口縁部破片 口 (18.2) 高 (7.4)	南西部 +11 No34	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	内面は丁寧な磨き。	口縁部上半に櫛描波状文2段 による文様帯がある。9条1 単位か。頸部簾状文は4条以 上の櫛状工具による。	二次被熱。
8 124	台付甕 小型	口縁部～胴部上 位 口 9.9 高 (5.2)	南西部 床直 No22	①粗砂大の白色鉾物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	胴部は浅く偏平な形状か。内面 は丁寧な磨き。	頸部に9条1単位の櫛状工具 による2連止簾状文施文後、 口縁部と胴部上位に櫛描波状 文2段による文様帯を配する。 口縁部にはボタン状貼付文を 5単位付す。	
9 118	台付甕	口縁部～胴部は 1/2残存 台部下半欠損 口 15.7 高 (15.6)	東部 +5 No. 72	①粗砂大の赤色粘土 粒・白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	口縁部は短く、胴部は偏平で深 みがない。	口縁部と胴部上位に櫛描波状 文を施文する。頸部には12条 の2連止簾状文が巡る。	被熱。
10 131	高杯	杯部下半～脚部 高 (9.3)	西部 床直 No10	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面は縦方向に丁寧な磨き。内 面は筥撫で。		杯部内外面、 脚部外面に 赤色塗彩。
11 132	高杯か	脚部 高 (8.0)	南西部 +床直 No49	①粗砂大の輝石・白 色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	基部は細くしまり、裾方向に向 けて弱く開く。		二次被熱に よる変色、 変質。
12 119	甕	口縁部～胴部中 位1/2残存 口 (17.1) 高 (20.2)	西部 床直 No 8・9	①粗砂大のチャー ト ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は緩やかに外反、先端は 折り返し口縁。胴部下半と内面 全体は丁寧な磨き。	頸部に7条1単位の櫛状工具 による2連止簾状文が巡る。 その直下から胴部上位は幅広 く櫛描波状文の文様帯となる。 8条1単位で4段巡る。	炭素吸着。
13 117	甕	ほぼ完形 口 14.8 高 25.2	中央部 床直 No50	①粗砂大のチャー ト・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/8	口縁部は外傾弱く立ち上がり、 先端は外面の器肉が薄くなる。 内面は丁寧な磨き。	器面が荒れており観察に困難 を極めた。口縁部の先端と頸 部から胴部上位にかけて櫛描 波状文を施す。頸部以下のそ れは4～5段か。	被熱による 変色、変質。
14 128	甕	胴部下位～底部 底 7.5	南東部 +17 No57	①粗砂大の白色鉾物 粒 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/4			外面に赤色 塗彩。
15 129	甕か	底部1/2残存 底 (9.0)	南西部 +11 No32	①粗砂大の赤色粘土 粒・細砂大の白色鉾 物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐2.5 YR4/4	内外面とも丁寧な磨き。		

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
16 130	甕	胴部下位～底部 底 4.5	東部 +5 No72	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	底部は円盤状の台部。		
17 121	甕か	胴部上半2/3残 存 高 (10.2)	P 4 内 No123	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	やや丸みを帯びる。内外面とも 横方向に丁寧な磨き。	頸部に6条以上を1単位とする 櫛状工具による2連止簾状 文が巡る。その後胴部上位に 6条1単位で2段施文する。	床面に埋設 されていた。 炭素吸着。
1 20	管玉 パート シェンナー	1.6・0.25 0.3	南西部 No 5	赤色珪質岩 0.14			

9号住居出土遺物観察表〈第52・53図、図版34・35〉

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 142	鉢か 小型粗製	口縁部一部欠損 口 4.5 高 2.7	中央部 +21 No12	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	偏平の形状。口縁部は直立ぎみ に立ち上がり、器肉は薄い。器 面は比較的丁寧な撫で。		
2 137	鉢	完形 口 13.2 高 6.6	南東部 +9 No 2	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は弧をなさず、斜め上方 に直線的に立ち上がる。底部は 小径の平底。内外面とも丁寧な 磨き。		
3 138	碗	口縁部1/3残存 口 (9.6) 高 9.3	1号炉内 +5 No 5・14	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/6	口縁部は内湾して立ち上がる。 甕の下半を切り取ったような形 状を呈する。外面は丁寧な篋撫 で磨きか。内面は磨きか。		内外面に赤 色塗彩。
4 141	台付甕か	口縁部～胴部上 位2/3残存 口 8.9 高 (7.4)	埋没土	①チャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部はくの字状に屈曲、胴部 は球形を呈する。口縁部は横撫 で。胴部は磨き。内面は篋撫で。		
5 144	壺	口縁部1/2残存 口 (13.0) 高 (5.6)	北西部 床直 No 5・13	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は短く、斜め上方に立ち 上がる。	頸部に10条1単位と思われる 櫛状文が巡る。2連止か。	被熱による 変質、変色。
6 147	甕	口縁部破片	埋没土	①粗砂大の輝石・ チャート ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/4	先端は内側に短く折れる。外面 には斜方向の刷毛目を残す。	先端に4条1単位の櫛描波状 文を施し、その上に円形刺突 文7個を伴うボタン状貼付文 を付す。	
7 149	甕	口縁部破片	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6			
8 140	壺	口縁部 口 21.3 高 (9.5)	北東部 床直 No 1	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は折り返し口縁で強く外 反する。	折り返し口縁部分には1単位 7条以上と思われる櫛描波状 文が巡る。頸部には1単位5 条以上の2連止簾状文が施文 される。	内面の一部 に炭素吸着。
9 143	壺	胴部1/4残存 高 (18.9)	1号炉内 No17	①粗砂大の白色鉱物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	胴部は無花果状を呈する。外面 は丁寧な磨き。	胴部上位には櫛描波状文によ る文様帯が構成される。直下 に篋描鋸歯文を配し、内部に は斜行する直線文を充填する。 両文様帯の境には刻目文を伴 う長円形のボタン状貼付文を 付す。	
10 139	甕	口縁部～胴部上 位 口 14.7 高 (10.8)	南東部 -6 No 6	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にふい褐7.5YR 6/3	内面は丁寧な磨き。	施文は全体に粗雑。頸部に7 条1単位の2連止櫛描簾状文 施文後、口縁部全面と胴部上 位に櫛描波状文を充填する。 口縁部は4段、胴部は3段か。	被熱。 内面は炭素 吸着。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
11 145	甕か	底部1/3残存 高 (5.5) 底 (4.9)	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	胴部は小径の底部から丸みをも って張り出すか。内外面とも 丁寧な磨き。		
12 136	台付甕	口縁部～胴部 (胴部は1/2残 存) 口 12.9 高 (11.8)	南東部 + 3～60 № 8・9	①粗砂大のチャー ト・細砂大の白色鉍 物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は短く外反弱く立ち上 がる。胴部は偏平である。外面胴 部下半と内面全面は丁寧な磨き。	頸部に5条1単位の2連止櫛 描簾状文を施文後、口縁部に 2段、胴部上位に1段、櫛描 波状文を施文する。6本1単 位の施文具か。	内面に炭素 吸着、黒み を帯びる。
13 146	高杯か	底部1/2残存 高 5.6	中央部 + 2～18 №11	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	脚部は下位に弱い膨らみをも って立ち上がる。外面は磨き。内 面は篋撫で。		外面の一部 に炭素吸着。
14 150	壺か	口縁部1/4残存 口 (7.0) 高 (2.0)	埋没土	①粗砂大のチャー ト・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	先端は折り返し口縁で、弱い押 圧が加えられる。		
15 133	壺	口縁部2/3残存 口 22.6 高 36.2	南東部 + 8 № 5	①粗砂大のチャー ト・白色鉍物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	頸部は細くくびれる。口縁部は 斜め上方に外反し、先端は折り 返し口縁。胴部は中位に最大径 を有し、算盤玉状を呈する。口 縁部と胴部上・中位には刷毛目 が、胴部下位には磨き。	折り返し口縁部分には9条1 単位の櫛描波状文が重ねられ る。頸部の簾状文は11条1単 位の櫛状工具による2連止で ある。胴部上位には11条1単 位の櫛描波状文が3段巡る。	胴部下位に 炭素吸着。
16 134	甕	完形 口 20.3 高 34.0	南東部 + 6 № 4	①礫大のチャー ト・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	口縁部の外反は緩やかで先端は 幅広の折り返し口縁。胴部下半 と内面全面は丁寧な磨き。	口縁部から頸部をへて胴部上 位までを櫛描波状文で充填す る。施文具は8条1単位の櫛 状工具と思われるが部分的に 4～8本が器面にあたっている 。文様は波形の振幅が強く、 各段が重複している部分也多 い。	
17 135	壺	口縁部は一部 のみ残存 口 (18.9) 高 32.0	南東部 + 24 № 3	①礫大のチャー ト・細砂の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	133と比較して口縁部の立ち上 がり低く、大きく外反する。 先端は折り返し口縁。胴部は中 位のやや下に最大径を有し、算 盤玉状を呈する。口縁部外面は 細かな刷毛目、胴部下半は磨き。	折り返し口縁部分には粗い刻 目文を重ねる。頸部には10条 1単位の櫛状工具による2連 止簾状文が施される。胴部上 位には10条1単位の櫛描波状 文を3段配している。	胴部外面に 炭素吸着。 底部外面は 著しく磨耗 している。
18 21	すり石	18.1・10.9 6.2	1号炉内 №19	粗粒安山岩 1807	小口的一端が敲打によって潰れている。		

10号住居出土遺物観察表〈第54図、図版35〉

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 158	台付甕	口縁部～胴部破 片	南西部 + 8 №52	①細砂大の輝石・赤 色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は短く外反する。胴部は 偏平である。内面は丁寧な磨き。	頸部に9条1単位の櫛状工具 による横線文を施す。止めの 有無は不明。	
2 157	罎	口縁部1/2残存 口 (12.0) 高 (3.9)	埋没土	①礫大のチャー ト・粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は底部との間に弱い稜を 持つ。器肉は薄い。		被熱。 土師器であ る。
3 159	碗か	口縁部破片	埋没土	①細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	内外面とも丁寧な磨き。		
4 164	台付甕	台部 高 (5.7)	中央部 + 31 № 8	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	低い器高で、緩やかに外反する。 外面は丁寧な撫で磨き。内面 は横方向の撫で。		
5 165	台付甕か	台部 高 (3.5)	埋没土	①粗砂大の白色鉍物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/4	小型で器高は低い。内外面とも 篋撫で。		

番号	器種	残存量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
6 152	鉢	完形 口 15.7 高 8.2	北東部 -4 No36	①粗砂多量 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は外傾弱く斜め上方に立ち上がる。器面は粗い撫でか。		
7 156	鉢	上半は1/5残存 口 (15.8) 高 7.1	中央部 +18.5 No15	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は小径の底部から弧をなして斜め上方に立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。		内面に炭素吸着。
8 153	甌	口縁部1/2残存 口 (15.9) 高 11.2 底 4.3	北東部 床直 No41	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR6/6	器形は歪んでいる。器高は深く、弧状に丸みをもって立ち上がる。底部は中央に径1.3×1.0cmの長円形の穿孔がなされる。内外面とも丁寧な磨きか。		被熱。 脆弱になる。
9 155	鉢	口縁部2/3残存 口 12.9 高 5.9	中央部 +5 No31	①粗砂大の白色鉱物粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は斜め上方に立ち上がり先端が弱く内折して終わる。円板状の底部が付く。外面は磨き状の磨きか。		底部外面に炭素吸着。 内面は剝離している。
10 154	甕	胴部～底部 高 13.0	2号炉内 床直 No35	①粗砂大のチャート・細砂大の輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	胴部外面には斜方向のタッチの弱い刷毛目。内面は横方向の磨きか。		二次利用しているか。
11 160	甕か	底部 底 6.3	東部 +57 No44	①石英・チャートの礫・細砂の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明黄褐10YR8/6	外面は丁寧な磨き。		一部に炭素吸着。
12 162	甕か	底部 底 5.7	中央部 +15 No21	①粗砂大の輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③に ぶい 橙 7.5YR 7/4	外面は磨きか。		外面に炭素吸着。
13 163	壺か	底部2/3残存 底 (8.3)	中央部 +13 No32	①細砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は磨きか。		
14 161	甕か	底部 底 7.6	中央部 +55 No33	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面は凸状を呈する。		器面は磨耗している。
15 22	すり石	12.0・7.0 4.4	埋設土	粗粒安山岩 551	表裏面の一部をすり面として使用。小口の先端に敲打痕。		

11号住居出土遺物観察表〈第59～61図、図版35～37〉

番号	器種	残存量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 179	蓋	完形 口 8.7 高 5.0	南西部 +4 No71	①粗砂大の白色鉱物粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	つまみは中央部が楕円状にへこみ、径4mm程の小孔が貫通する。外面は刷毛目、磨きか。端部は横磨きか。		一部に炭素吸着。
2 178	鉢	口縁部1/2欠損 口 (11.8) 高 6.0	南東部 床直 No40	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③に ぶい 橙 7.5YR 7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がり先端は強く内折する。口縁部は横磨きか。外面は磨きか。内面は磨きか。指頭圧痕を残す。		内外面に炭素吸着。
3 180	鉢	口縁部2/3欠損 口 (15.2) 高 6.5	北西部 +6 No67	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③に ぶい 橙 7.5YR 7/3	口縁部は小径の底部から外傾著しく立ち上がる。		被熱。 炭素吸着。

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
4 181	鉢	1/3残存 口 (17.2) 高 9.0	南東部 + 4 No25	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/3	他と比較して法量が大である。 口縁部は弱く張り、斜め上方に 立ち上がる。内外面とも丁寧な 磨き。		外面に炭素 吸着。
5 194	高杯	杯部1/3～脚部 上位 口 (18.2) 高 (14.5)	北部 床直 No51・58・59・ 63	①粗砂大の赤色粘土 粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/3	口縁部は弧をなして斜め上方に 立ち上がる。口縁部の外面は横 あるいは斜方向の刷毛目後、粗 雑な磨きを重ねる。脚部は丁寧 な磨き。		
6 196	台付壺か	台部 高 (5.4)	南西部 + 7 No70	①粗砂大の白色鉱物 粒と輝石 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	台部は低く、小径である。		被熱。
7 197	高杯か	脚部1/4残存 高 (7.0)	P 2 内 床直 No 5	①粗砂大の白色鉱物 粒と輝石 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面は篋撫でに磨きを重ねる。		
8 191	高杯か	脚部か 高 (6.0)	北東部 床直 No49	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/6	小径。基部は接合部分で剝離し ている。外面は丁寧な磨き。内 面には篋撫でが残る。		外面に赤色 塗彩。内面 は炭素吸着。 黒色みを帯 びる。
9 192	高杯か	脚部 高 (7.0)	西部 床直 No69	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	脚部は裾近くになり外反の度合 を増す。内面は横方向に篋撫で。		熱のためか 器面は荒れ ている。
10 189	台付壺か	胴部最下位～台 部 高 (8.2)	中央部 床直 No46	①粗砂大のチャー ト・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	台部は低く、斜め外方に開く。 外面は丁寧な磨き。台部内面 には刷毛目を残す。		一部に炭素 吸着。
11 195	台付壺か	胴部下位～台 部 高 (7.6)	北西部 + 3 No68	①細砂大の白色鉱物 粒と輝石 ②酸化焰・良好 ③赤10R6/6	外面は丁寧な篋撫で。内面の下 位に刷毛目を残す。		上端は接合 部分で脱落 しているが、 二次利用に より剝離面 を調整して いるか。
12 172	台付壺	口縁部～胴部下 位 口 9.5 高 (8.9)	P 6 内 No12	①輝石・細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/3	他の同器種の形状と比較して、 胴部の張りが弱い割に深みがあ る。器形の最大径は口縁部にあ る。	口縁部の下半から胴部上位に 5条1単位の櫛描波状文、4 段による文様帯を配する。	被熱。
13 176	台付壺	口縁部～台部上 位 口 11.0 高 10.6	北部 床直 No62	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 7/3	胴部は偏平で下半の丸みが無い。	頸部に8条1単位、2連止の 簾状文を施した後、口縁部と胴 部上位に各1段、6条1単位 の櫛描波状文を巡らす。	被熱。 脆弱になり、 炭素吸着に より黒みを 帯びる。
14 173	台付壺	口縁部～台部は 1/2欠損 口 (9.2) 高 (12.5)	南東部 床直 No39・96	①粗砂大のチャー ト・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	胴部は偏平ながらも13と比較す るとやや深みがある。胴部中位 以下の外面は篋撫で後磨きを施 す。内面は胴部に磨き。台部に 篋撫で及び刷毛目。	口縁部には10条1単位の櫛描 波状文が巡る。頸部には10条 1単位、2連止の櫛描簾状文 を施し、その後胴部上位に 同じ施文具で波状文を加える。	外面に炭素 吸着。
15 186	台付壺	口縁部～胴部 中位1/3残存 口 (12.3) 高 (5.6)	埋没土	①粗砂大の白色鉱物 粒・チャート・細砂 大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	内面は丁寧な磨き。	全ての施文に10条1単位の櫛 状工具を用いる。頸部に2連 止簾状文施文後口縁部と胴部 上位に各1段、波状文が巡る。	炭素吸着。 被熱。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
16 169 171	台付甕	口縁部～台部 (上位は1/2欠 損) 口 (15.6) 高 19.5	P 2 内 床直 No 5・25	①チャート礫・粗砂 大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は短く外反する。胴部は 上位で張る。	頸部に9条1単位2連止の櫛 描簾状文施文後、胴部上位に 櫛描波状文を巡らす。	器面は荒れ ている。
17 193	台付甕	口縁部～胴部 口 (14.6) 高 (12.7)	北部 床直 No63	①粗砂大の赤色粘土 粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/3	口縁部は外傾弱く立ち上がる。 外面の胴部下半と内面全面は丁 寧な磨き。	口縁部は櫛描波状文3段で充 填され、先端に円形のボタン 状貼付文がある。3単位か。 頸部には8条1単位2連止の 簾状文が巡る。胴部上位には 櫛描波状文2段があり、文様 帯下端にボタン状貼付文がみ られる。	炭素吸着。
18 183	台付甕	口縁部～胴部中 位 口 13.1 高 8.0	東部 床直 No43・45	①粗砂大の白色鉱物 粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は短く、外反して立ち上 がる。胴部は偏平か。内面は丁 寧な磨き。	口縁部は上半に7条1単位と 思われる櫛描波状文を2段配 す。頸部の櫛描簾状文は7条 1単位で2連止。胴部上位の 波状文は3段である。	外面に炭素 吸着。
19 187	台付甕	口縁部～胴部中 位1/2残存 口 (14.6) 高 (7.7)	南東部 床直 No26・30	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4	口縁部が緩やかに立ち上がり、 全体形状に深みを感じられる。 胴部上位の外面及び内面全面に 丁寧な磨き。	頸部には10条1単位2連止の 櫛描簾状文が施文され、その 直下の胴部上位に櫛描波状文 が巡る。	被熱。
20 174	甕	口縁部～胴部中 位 口 11.4 高 (9.0)	東部 床直 No41	①粗砂大のチャ ート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は緩やかに立ち上がり、 胴部はあまり張らない。外面に は刷毛目を残すが、内面は丁寧 な磨き。	頸部には9条1単位の2連止 櫛描簾状文を施文する。8条 1単位の櫛描波状文は口縁部 に1段、胴部上位に2段施さ れる。	一部に炭素 吸着。
21 184	甕	口縁部～胴部上 位 口 13.5 高 (7.6)	北東部 床直 No50	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/3	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。内面は丁寧な磨き。	口縁部は7条1単位の櫛描波 状文3段で充填する。頸部も 7条1単位2連止の櫛描簾状 文が巡る。胴部上位の櫛描波 状文は1段か。	炭素吸着。
22 177	甕	口縁部～胴部上 位 口 14.2 高 (9.8)	南東部 床直 No38	①粗砂大の赤色粘土 粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 6/4	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。	口縁部から胴部上位までを櫛 描波状文で充填する。5条1 単位を7段配するか。間隔を あけ、波形も乱れている。	被熱。
23 175	甕	口縁部～胴部上 位 口 13.1 高 (12.0)	南東部 + 4 No27	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/6	口縁部は頸部で弱く屈曲、長く 立ち上がる。口縁部の外面には 刷毛目を残すが、内面は丁寧な 磨き。	口縁部上半には10条1単位の 櫛描波状文が2段巡る。頸部 の簾状文は10条1単位の2連 止である。胴部上位には口縁 部文様帯と同様の波状文を2 段施文する。	内面に炭素 吸着。
24 185	甕	口縁部～頸部1/ 3残存 口 (15.2) 高 (9.4)	P 6 内 床直 No10	①粗砂大の白色鉱物 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4	口縁部は外反弱く立ち上がる。 内面は刷毛目後粗雑な磨き。	全ての施文に14条1単位の櫛 状工具を用いる。口縁部には 櫛描波状文を2段、頸部には 2連止簾状文を施文する。胴 部上位には1段が残存する。	内面は炭素 吸着で黒色 みを帯びる。
25 182	壺	口縁部～頸部 口 (14.4) 高 (8.9)	南西部 床直 No72	①粗砂大の白色鉱物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③赤7.5YR4/6	口縁部は外反して立ち上がる。 内外面とも丁寧な磨き。		脆弱になり、 器面が剥離 している。 外面と口縁 部内面に赤 色塗彩。

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
26 167	甕	口縁部～胴部 口 18.9 高 (14.5)	P 3 内 No 7	①輝石・赤色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は頸部下位で弱く屈曲、緩やかに立ち上がる。先端は折り返し口縁。外面は刷毛目、内面は刷毛目後横方向の丁寧な磨き。	折り返し口縁部分には6条1単位の櫛描波状文を施す。頸部には6条1単位、2段の櫛描横直線文を3本1単位の縦直線文で切っている。胴部上位の文様帯は8条1単位と思われる櫛描波状文4段を配する。	内面に黒色の付着物。
27 166	壺	口縁部 口 27.7 高 (17.0)	南東部 床直 No26	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は外反著しく立ち上がり、先端は2段の折り返し口縁。(中央は寛描沈線で分割したか)外面には刷毛目を残すが、内面は丁寧な磨き。	折り返し口縁部分は櫛描波状文施文後、円形刺突文を8、9個併うボタン状貼付文を5単位付す。更に上段には粗い刻目文を加える。頸部は10本1単位で2連しの櫛描簾状文を施す。	二次利用したか。一部に炭素吸着。
28 168	壺	口縁部 口 27.8 高 (10.3)	P6内、南東部 床直 No 8・13・22・33	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③淡赤橙2.5YR7/4	口縁部は著しく外反して立ち上がり、先端は折り返し口縁。内外面とも丁寧な磨き。	折り返し口縁部分には1単位6条以上の櫛描波状文を巡らす。頸部には2連しの櫛描簾状文を施す。	
29 170	甕	口縁部～胴部破片	P6内、南東部 + 3 No19・33	①礫大の赤色粘土粒・粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	口縁部は緩やかに外反、先端は内側に弱く肥厚する。胴部上位の外面には刷毛目を残す。内面は丁寧な磨き。	頸部に9条1単位、2連し櫛描簾状文を施文後、口縁部及び胴部上位の櫛描波状文に移る。口縁部の波状文は5段、胴部は1段である。	炭素吸着。
30 188	壺	口縁部と胴部の破片	北部 床直 No30・34・52・54・95	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR5/4	口縁部の先端は折り返し口縁。胴部は算盤玉状を呈するか。胴部中位～下位の外面は磨き。	頸部には8条1単位の3連し簾状文が巡る。口縁部と胴部上位には幅広く8条1単位の櫛描波状文による文様帯が配される。口縁部は5段、胴部は4段が重複か。	被熱。
31 24	くぼみ石	11.8・7.3 5.3	西壁際 No79	粗粒安山岩 465	敲打による凹みが表面に5箇所、裏面に2箇所認められる。側面は多少すり面として使用しているか。小口部も若干敲打している。		
32 27	すり石	29.5・14.6 14.4	南東部 No101	デイサイト 6660	断面三角形の円礫の2側面及び、その面により形成される稜の部分すり面としている。特に稜の部分は平滑である。		
33 23	砥石	22.3・12.1 7.3	P 2 際 No 6	砂岩 2940	大型の置砥と考えられる。器面の磨耗が著しいが、使用面が1面と部分的に敲打痕が認められる。		
34 28	打製石斧	19.6・10.2 4.0	北西隅 No80	硬質泥岩 930	片面に自然面を残す。側部の中央に弱いくりこみがある。刃部に二次調整による剝離痕が認められる。		
35 25	くぼみ石 すり石	11.1・8.9 6.1	北東部 No82	粗粒安山岩 686	凹み石。すり石に両用。小口端部をはじめ側面も若干敲打に使用している。		
36 26	すり石	19.6・9.6 5.0	南東部 No86・88	粗粒安山岩 1338	表裏面とも広い面をすり面に使用。小口の両端は若干敲打している。側面も敲打か?。被熱。		

12号住居出土遺物観察表 (第62図、図版37)

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 205	台付甕	口縁部～胴部上位破片	北西部 + 4 No44	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR6/3		口縁部先端に波状文を施す。頸部に9条1単位の波状文が巡る。胴部上位にも波状文が1段みられる。	外面に炭素吸着。
2 207	甕	口縁部破片	埋没土	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/8		口縁部は乱れた櫛描波状文を充填する。	被熱。
3 208	甕	口縁部破片	南西部 + 9 No41	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明褐7.5YR5/4		口縁部は波形の振幅の大きい櫛描波状文を充填する。	被熱。

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
4 212	壺か	口縁部破片	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③にふい褐7.5YR5/3	先端は折り返し口縁。	折り返し口縁部分に1単位6条以上の櫛描波状文を施す。	炭素吸着。
5 206	高杯	口縁部破片	南西部 床直 No19	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③黄橙7.5YR7/8	口縁部の先端は屈曲して外反、水平方向に延びる。		内外面に赤色塗彩。被熱。
6 218	高杯か	脚部破片	南西部 床直 No16	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③明黄褐10YR6/7	内外面とも撫で。		
7 217	蓋か	つまみ部～天井部 高(4.0)	中央部 +4 No52	①粗砂大の白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③にふい赤褐5YR5/4	つまみはリング状を呈し、焼成前に内外両面から穿孔を試みているが、貫通していない。外面には刷毛目、内面には篋撫でを残す。		内面に炭素吸着。被熱。
8 213	甕か	底部破片 底(6.7)	北西部 床直 No47	①粗砂大の赤色粘土粒・白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③明褐7.5YR5/6	外面は篋撫で。		外面に炭素吸着。
9 214	甕か	底部破片 底(8.9)	北西部 床直 No48	①粗砂大の白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は撫で。		一部に炭素吸着。
10 29	凹石	12.3・8.0 4.5	南西部 No53	粗粒安山岩 517	表裏面とも敲打による凹みが連結している。中核の凹みは表裏面とも各6箇所側面を敲打している。図示した側面の一部はすり面として使用。		

13号住居出土遺物観察表〈第66図、図版37〉

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 226	鉢	口縁部 口13.9 高7.0	P1内 No9	①粗砂大のチャート・白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は斜め上方に立ち上がる。先端は外側の器内が薄くなる。内外面とも篋撫で後磨き。		一部炭素吸着。二次利用されたか。
2 225	台付甕	口縁部～胴部下位 口14.3 高(12.4)	南東部 床直 No14・18	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙5YR7/4	胴部は深みがあり、丸く張る。内面は丁寧な磨き。	口縁部と胴部上位に櫛描波状文。胴部の櫛状工具は6条1単位。頸部には10条2連しの櫛描波状文が巡る。	外面に炭素吸着。被熱。
3 223	台付甕	口縁部～脚部中位 口8.9 高(11.0)	南東部 床直 No17	①粗砂大の白色鈹物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/8	小径。胴部はやや丸みを帯び、深みがある。	口縁部から胴部上位に櫛描波状文による文様帯が配される。波状文は4条1単位で3段が巡っていると思われる。	被熱による剝離。内外面に炭素吸着。
4 227	甕か	底部 底6.4	埋没土	①粗砂大の白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③にふい橙7.5YR6/4			被熱。
5 229	甕か	底部破片 底(7.6)	南東部 +16 No19	①礫大の白色鈹物粒・粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6			外面の一部に炭素吸着。
6 228	台付甕か	台部 高4.6	2号炉内 No6	①粗砂大の白色鈹物粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	小径。大きく外反して裾部を形成する。		被熱。

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
7 230	壺	胴部破片	南東部 -3 No16	①精選、細砂大の白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6		形のくずれた篋描沈線による鋸歯文内に円形刺突文が充填される。	鋸歯文区画内を除いて赤色塗彩。内面に炭素吸着。
8 231	甕	頸部～底部 高 20.5 底 6.8	北西部 床直 No 1	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③明褐7.5YR5/6	胴部は最大径を上位に有して張る。内外面とも丁寧な磨き。一部に刷毛目を残す。	頸部には10条1単位2連止の櫛描簾状文が巡る。胴部上位には9条1単位の櫛描波状文3段による文様帯が構成される。簾状文の直上に6段波状文が施文されていたと思われる。	外面の一部に炭素吸着。
9 224	壺	口縁部～胴部上位(口縁部上端欠損) 高(21.0)	北部 床直 No 3	①粗砂大の赤色粘土粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	頸部は細くくびれ、ラッパ状に外反する口縁部と算盤玉状の胴部に続くと思われる。口縁部の外面は刷毛目、胴部は磨き。	頸部には10条1単位、間隔の狭い2連止が巡る。胴部文様帯は上位に櫛描波状文、その直下に篋描沈線による鋸歯文が配される。波状文は4段か。鋸歯文の内部は斜行直線文で充填される。	二次利用の可能性あるか。
10 30	すり石	11.3・4.0 3.6	埋没土	粗粒安山岩 259	小口の両端を敲打している。側面は自然面の可能性がある。		

14号住居出土遺物観察表(第69図、図版37)

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 238	台付甕か	台部 高(6.0)	北西部 +6 No29	①細砂大の白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	小径。裾方向に外傾弱く開く。外面は丁寧な磨き。		被熱。
2 235	甕か	口縁部破片	南西部 +4 No11	①粗砂大の白色鈹物粒・石英 ②酸化焰・良好 ③褐7.5YR5/4	先端は折り返し口縁。		被熱による変色、変質。
3 236	壺か	口縁部破片	南西部 +4 No11	①細砂大の白色鈹物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	先端は折り返し口縁。		
4 234	甕	口縁部～頸部 口(22.0) 高11.8	南西部 床直 No12	①細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	先端は折り返し口縁。施文が粗雑で下地に器面調整のための刷毛目を残す。	口縁部は折り返し部分も含め櫛描波状文を重ねる。胴部上位も波状文である。頸部には11条1単位の簾状文が巡る。止めは不明。	被熱。
5 240	甕	口縁部～胴部上位1/4残存 口19.2 高21.5	南西部 +4 No11	①礫大のチャート・粗砂大の白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は外反弱く長い。	口縁部は上半に7か8条1単位の櫛描波状文を3段巡らす。頸部には8条1単位2連止簾状文を施文する。胴部の櫛描波状文は3か4段と思われる。	炭素吸着。被熱。
6 232	甕	口縁部～胴部上位1/3残存 口(13.3) 高(7.6)	西部 +10 No 4	①粗砂大の赤色粘土粒・白色鈹物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部はくの字状に屈曲後外傾弱く立ち上がる。	口縁部の上半、頸部から胴部上位に櫛描波状文が配される。9条1単位である。	被熱。
7 237	壺か	胴部下位～底部 高(3.7) 底5.8	埋没土	①細砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面は丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。炭素吸着。
8 233	壺	胴部下半～底部 高12.6	南西部 +6.3 No 6・7・17	①粗砂大の白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR7/4	外面は篋撫で、磨き。内面は丁寧な撫で。		破碎後炭素吸着。

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
9 31	くぼみ石	10.8・5.8 2.9	南壁際 No26	牛伏砂岩 251	板状の礫を使用したものか。表裏面とも中央に凹部が各1箇所認められる。器面は平滑で、すり面に使用したと考えられる。		
10 32	台石	29.2・21.6 7.5	南東部 No27	粗粒安山岩 7140	器面の一部に磨耗痕が認められるが、砥石として使用されたとは考え難い。		

15号住居出土遺物観察表〈第72図〉

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 249	蓋か 小型	つまみ部分 高(2.4)	埋没土	①粗砂大の白色鉱物 ②酸化焰・良好 ③にふい褐7.5YR 6/3	つまみは小径で、斜め上方に立ち上がる。破片で詳細に観察できないため小型の高杯の可能性もある。		
2 248	高杯	杯部下位～脚部 高(9.0)	埋没土	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③赤10R4/6	杯部は小径の脚部から斜め上方に大きく立ち上がるか。		杯部内外面と脚部外面に赤色塗彩。
3 245	甕か	底部 底 5.1	P1内 No1	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にふい褐7.5YR 5/3	小径である。		炭素吸着。
4 241	甕か	口縁部破片	北東部 +5 No13	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③にふい褐7.5YR 5/3	先端は内側に弱く折れる。	口縁部の先端と残存部下端に櫛描波状文を施す。先端は5条1単位である。	炭素吸着。
5 244	壺か	口縁部破片	東部 +12 No47	①粗砂大の白色鉱物 粒・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③にふい橙5YR6/4	先端は折り返し口縁。		被熱。
6 243	壺	口縁部破片	埋没土	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にふい橙5YR7/4	先端は折り返し口縁。	折り返し口縁部分には粗い刻目文を施す。	内面は赤色塗彩。外面も同様か。
7 242	甕	口縁部破片	中央部 床直 No10	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		口縁部は10条1単位の櫛描波状文を4段重ねて充填する。頸部には2連止簾状文が施文されたと思われる。	

16号住居出土遺物観察表〈第74図、図版38〉

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2 252	蓋	つまみ部 高(3.8)	南部 床直 No2	①輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙5YR6/4	他と比較するとやや大型品となるか。つまみはリング状で中央部がへこみ、内面から径4.5mm程の焼成前の穿孔がなされる。内外面には刷毛目が残る。		炭素吸着。
3 251	甕	胴部上半の破片	南西部 +10 No3	①細砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にふい褐7.5YR 5/4	緩やかに張る。内外面とも丁寧な磨き。	胴部上位に7条1単位の櫛描波状文が4段巡る。	炭素吸着。
4 250	甕	口縁部1/3残存 口(24.6) 高(7.5)	1号炉内 No41	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は外反して立ち上がり、先端は明瞭な折り返し口縁。内面は丁寧な磨き。	口縁部に4条1単位の櫛描波状文5段が巡るが、波形、走向とも不統一でアランダムである。頸部には簾状文が配される。	

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
5 253	壺	口縁部は1/2欠損 口 24.9 高 51.7	南東部 床直 No1	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/8	口縁部は大きく外反し、先端は折り返し口縁。胴部は丸みを帯びて張る。口縁部外面に刷毛目を残す。胴部外面は磨き。	頸部から胴部上位に10条1単位と思われる櫛状工具による横線文3段が施され、その直下に同じ施文具により波状文3段による文様帯が配される。その後、横線文は2条1単位2本の縦直線文により6箇所が区切られる。	
1 34	台石	28.4・19.5 13.1	北東部 No37	粗粒安山岩 12400	表面中央部は径3cm程の円形に剝離している。敲打によるものか熱のためか不明。器面は原形面も含めて平滑であるが、表面をはじめ滑面として利用されたか。		

18号住居出土遺物観察表《第76～78図、図版39》

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 271	鉢 小型粗製	1/2残存 口 (6.8) 高 3.6	南部 +20 No45	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がる。成形はやや粗雑である。内外面とも篋撫で。		炭素吸着。熱を受けているか。
2 304	蓋	1/3残存 (端部欠損) 高 (8.5)	南西部 +16 No12	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	天井部は外反著しく口縁部方向に開く。つまみは大きく、中央部はくぼみ、径5mmの小孔が内面に貫通している。外面の天井部は刷毛目、その他は撫で。		内面に炭素吸着。
3 272	鉢	1/2残存 口 (13.6) 高 5.3	南西部 +19 No140・144	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は弱い弧をなして斜め上方に向けて立ち上がる。口縁部は先端を横撫で。以下は篋撫で。		
4 276	高杯	杯部1/4残存 口 (12.0)	埋没土	①精選、細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/4	杯部は弱く弧をなし、斜め上方に立ち上がる。		内外面に赤色塗彩。
5 291	台付壺か	台部下位	中央部 +23 No82	①細砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR6/8	小型品。内面は篋削り。		被熱。
6 264	高杯	口縁部～脚部3/4残存 口 10.6 高 10.1	南西部 +21 No34	①礫大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部は斜め上方に短く立ち上がる。口径は小さく、裾部分の径を僅かに上回る程度である。外面及び杯部内面は丁寧な磨き。脚部内面は斜方向の粗い刷毛目。		炭素吸着。
7 290	高杯か	脚部1/3残存 高 8.3	中央部 +9 No138	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	脚部は裾方向に大きく外反する。外面は篋撫で後磨き。内面は篋削り、篋撫でか。	二次利用しているか。	
8 289	高杯	脚部 高 (7.5)	南西部 +25 No16	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③赤10R4/6	裾部分は小径で、外反の度合は弱い。外面は縦方向の磨き。		外面に赤色塗彩。炭素吸着。二次利用しているか。
9 278	高杯か	口縁部破片	中央部 +12 No115	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は弱い弧をなして斜め上方に立ち上がる。内外面とも磨き。		炭素吸着。
10 280	高杯か	口縁部破片	中央部 +11 No112	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面は篋撫で。内面は磨いているか。		炭素吸着。

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
11 279	高杯か	口縁部破片	中央部 +22 No177	①細砂大の白色鈹物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR 6/4	内外面とも丁寧な磨き。		炭素吸着。
12 297	台付甕	口縁部破片	埋没土	①細砂大の白色鈹物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/3	S字状口縁。		
13 300	甕	胴部～底部 高 (10.5)	埋没土	①礫大・粗砂大の チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	胴部は長球形を呈する。胴部は 内外面とも篋撫で後磨いており、 底部近くには撫でが残る。		
14 265	台付甕	口縁部～胴部 口 12.6 高 (8.2)	1号炉内 +13 No120	①細砂大の白色鈹物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。胴部はやや偏平である。 器面調整は口縁部が篋撫で。胴 部下半は磨き。	口縁部上半は櫛描波状文施文 後ボタン状貼付文を4単位重 ねる。頸部には5条1単位2 連止櫛描簾状文施文後、直上 と直下に櫛描波状文を1段づ つ配する。胴部上位のそれ には口縁部と45°ずらせてボタ ン状貼付文が4単位付される。	炭素吸着。
15 273	台付甕	口縁部～胴部中 位 口 (12.9) 高 8.5	北西部 +21 No116	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/3	外面の胴部下半は刷毛目後磨き。 内面は横方向に磨き。	口縁部は6条1単位の櫛描波 状文を3段施文か。同じ施文 具で胴部上位に2段施文。頸 部には7条1単位、2連止の 簾状文が施される。	炭素吸着。
16 266	台付甕	胴部上位～台部 高 (13.8)	南西部 +12 No39・41	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/3	胴部は上位に最大径を有し、や や偏平な球形を呈する。外面は 丁寧な磨き。脚部内面には刷毛 目が残る。	胴部上位には7条1単位の櫛 描波状文が2段認められ、文 様帯の下位には円形刺突文を 3～6個併うボタン状貼付文 4単位が付される。	炭素吸着。
17 267	甕	口縁部～胴部中 位 口 15.2 高 (14.4)	中央部 +9 No126・130・ 139	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は緩やかに外反、胴部も 弱く張る。	口縁部は櫛描波状文を充填す る。施文具は11条1単位で、 4～5段で文様帯を構成する か。頸部には11条1単位2連 止の簾状文が巡る。胴部文様 帯は11条1単位の櫛描波状文 2段を配する。	炭素吸着。
18 277	甕	口縁部1/4残存 口 (17.8) 高 (7.3)	中央部 +20 No145	①細砂の白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 6/4	外面は刷毛目後、粗雑な磨き。 内面は丁寧な磨き。	頸部に1単位6条以上の等間 隔簾状文が巡る。	炭素吸着。
19 274	甕	口縁部破片	中央部 +19 No66	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/4	緩やかに外反して立ち上がる。	先端を除いて5条1単位の振 幅の大きな櫛描波状文を充填 する。	被熱。
20 269	壺	口縁部～胴部中 位 口 19.5 高 (25.0)	南西部 +12 No147	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/8	口縁部は屈曲して外反する。胴 部は中位が著しく張り、算盤玉 状を呈する。口縁部外面には刷 毛目を残す。胴部外面は磨き。	頸部に9条1単位2連止の櫛 描簾状文を2段巡らす。胴部 上位には8条1単位と思われ る櫛描波状文を2段施す。	
21 299	甕	口縁部～胴部中 位1/3残存 口 (18.8) 高 (19.0)	中央部 +15 No61・65・66・ 69	①細砂大のチャ ート・白色鈹物粒・輝 石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。胴部はあまり張らない。 内外面とも丁寧な撫で。		被熱。 炭素吸着。
22 298	甕	胴部下半～底部 高 (15.2) 底 (10.8)	1号炉内 +5 No123・146・ 176	①礫大・粗砂大の チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	大型品。内外面とも刷毛目後磨 き。		被熱。 炭素吸着。

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
23 301	甕	胴部下位～底部 1/2残存 高 (11.0) 底 7.8	南西部 +5 No167	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	内外面とも丁寧な磨き。		炭素吸着。
24 270	甕	胴部下位～底部 高 (3.1)	西部 +20 No94	①細砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は篋撫で。内面は刷毛目を残す。		炭素吸着。
25 275	甕か	胴部下位～底部 高 (6.5)	中央部 +12 No115・422	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/4	外面は磨き。		炭素吸着。
26 284	甕か	底部1/2残存 底 (5.3)	南東部 +27 No50	①粗砂大の白色鉱物粒・チャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6			被熱。
27 268	壺	底部 底 13.2	中央部 +11 No23・46・78・ 126・134・ 140・167	①チャートの礫・粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	大型品。算盤玉状の胴部を呈するか。		内面は剥離。外面に炭素吸着。
28 282	壺	底部1/2残存 底 (13.2)	南部 +8 No75	①細砂大の輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR7/3	大型品と考えられる。		炭素吸着。
29 281	壺	底部1/4残存 底 (16.8)	西部 +22 No98	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	大型品と考えられる。		
30 283	壺か	底部 底 8.7	埋没土	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6			
31 286	壺か	底部1/4残存 底 (12.4)	中央部 +12 No133	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/4			
32 285	甕か	底部2/3残存 底 (7.6)	中央部 +12 No119	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4			被熱。
33 302	甕	胴部下位～底部 高 (13.5)	1号炉内 +7 No112・118・ 123・130・ 146・153	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	大型品。内外面ともに丁寧な磨き。		
34 39	石匙	4.4・2.3 0.7	埋没土	珪質頁岩 8.28	欠損品。刃部は肉厚であるが調整は丁寧。器面は使用により磨耗が著しい。		
35 37	石鏝	1.3・1.3 0.35	中央部 No183	黒耀石 0.4	平基であるが、ごくわずかにくりこんでいる。		
36 38	管玉	2.7・0.6 0.6	埋没土	珪質凝灰岩 1.39	木賊色。		

19号住居出土遺物観察表 (第82・83図、図版39・40)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 324	台付甕	口縁部～胴部上 位 口 (9.8) 高 (5.0)	埋没土	①精選、細砂大の白 色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	外面、胴部上位は篋削り後撫で、 磨き。内面は丁寧な磨き。	口縁部には7条1単位の櫛描 波状文を重ねている。頸部は 7条1単位2連止の簾状文で ある。胴部にも櫛描波状文を 配す。	炭素吸着。
2 318	甕	口縁部～胴部上 位 口 (10.7) 高 (6.5)	南部 +29 No. 14	①粗砂大のチャ ート・白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	内面は篋削り後丁寧な磨き。	頸部に6条1単位2連止の櫛 描簾状文が巡る。口縁部と胴 部上位に6条1単位の櫛描波 状文が各1段施文される。	炭素吸着。 被熱。
3 344	高杯	口縁部破片	埋没土	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	先端は屈曲して、水平方向に短 く延びる。		
4 345	高杯	杯部破片	埋没土	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	小径、あまり深みはないか。		内外面に赤 色塗彩。
5 322	高杯	杯部破片	北西部 +9 No.36	①粗砂大の白色鉾物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	弧をなして斜め上方に立ち上 がる。		炭素吸着。
6 321	台付甕	口縁部～頸部破 片	埋没土	①細砂大の白色鉾物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は短く、外傾弱く立ち上 がる。外面は縦方向に篋撫で。 内面は丁寧な磨き。	口縁部上半には振幅の小さい 6条1単位の櫛描波状文が巡 る。頸部には8条1単位と思 われる2連止簾状文が施文さ れる。	炭素吸着。
7 312	壺	口縁部破片	中央部 +17 No.20	①粗砂大のチャ ート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	先端は折り返し口縁。	折り返し口縁部分には櫛描波 状文が施される。	
8 310	壺	口縁部破片	南東部 +39 No.11	①粗砂大のチャ ート・白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	口縁部は大きく外反して立ち上 がる。		
9 309	高杯	杯部1/4残存 口 (25.2) 高 (9.5)	南西部 +8 No. 34	①精選、細砂大の白 色鉾物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	大型品の杯部。口縁部は外傾強 く立ち上がり、先端は屈曲し水 平方向に延びる。		内外面に赤 色塗彩。 被熱。
10 323	甕	口縁部～頸部 口 (10.7) 高 (5.6)	埋没土	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4		施文は粗雑。頸部には7条1 単位2連止簾状文を施す。そ の直下には振幅の小さい櫛描 波状文が配される。	被熱。
11 317	甕	口縁部～胴部上 位 口 (12.0) 高 (8.6)	埋没土	①粗砂大のチャ ート ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は外傾弱く立ち上がる。 内面は磨き。	口縁部から胴部にいたるまで 櫛描波状文を充填する。1単 位は6か7条と思われる7段を 重ねるか。	被熱。 炭素吸着。
12 320	甕	口縁部破片	中央部 床直 No.16・21	①粗砂大の白色鉾物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐6/4	口縁部の先端は外側がそげ器肉 が薄くなる。	口縁部は櫛描波状文5段を重 ねて充填する。1単位は8条 と思われる。頸部には1単位 9条以上の2連止簾状文を施 文する。	炭素吸着。 被熱。

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
13 336	甕	口縁部～胴部1/4残存 口 (11.2) 高 (10.0)	埋没土	①細砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙 7.5YR 6/4	胴部は丸く張る。内外面とも撫で。	5条1単位の波状文を口縁部上半に2段、頸部から胴部上位に2段施す。	被熱。
14 306	壺	口縁部2/3残存 (口縁端部欠損) 高 (9.0)	P 1内 No. 50	①細砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙 7.5YR 6/6	口縁部は外反して立ち上がる。外面は細かい刷毛目、内面は磨き。	頸部には1単位5条以上の2連止簾状文を施す。	内面に炭素吸着。
15 334	高杯	脚部 高 (6.0)	埋没土	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③にふい橙 7.5YR 6/4	外面は丁寧な磨き。内面は撫で。		外面に赤色塗彩。
16 332	高杯か	脚部 高 (6.4)	埋没土	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙 2.5YR 6/6	小径、器高も低い。外面は磨き、内面は撫でによる器面調整か。		
17 331	高杯	脚部 高 (9.7)	P 3内 No. 26	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙 7.5YR 7/4	器高の高い脚部は外反弱く裾方向に開く。外面は丁寧な磨き。内面は刷毛目後丁寧な撫で。		
18 333	高杯	脚部 高 (9.0)	南東部 床直 No. 7	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にふい橙 5YR 7/4	脚部の外面は丁寧な磨き。内面は篋削り。		被熱。
19 319	壺か	口縁部1/2残存 口 (24.8)	埋没土	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙 10YR 8/3	外面には刷毛目を残す。内面には丁寧な磨き。	口縁部の先端に4条1単位の櫛描波状文が施文される。	炭素吸着。
20 313	壺	胴部上位1/4残存	中央部 +10 No. 16	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙 7.5YR 7/6		胴部上位に8条1単位の櫛描波状文が3段施される。	炭素吸着。
21 308	甕	頸部～底部 高 (13.2) 底 (7.8)	中央部 +6 No. 20・21	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にふい橙 7.5YR 7/3	胴部は長球形を呈する。外面は篋撫で後一部磨き。内面は磨き。	頸部は9条1単位2連止簾状文が巡る。その直下、胴部上位には9条1単位と思われる波形のくずれた櫛描波状文を3段施す。	被熱。
22 311	壺	口縁部破片	南西部 +21 No. 33	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい黄橙 7/3	頸部でくびれる。胴部は算盤玉状に張り出すか。	頸部は6条1単位2連止の櫛描簾状文を2段重ねる。その直下には櫛描波状文が巡るか。	
23 305	甕	口縁部～胴部中位1/4残存 口 (16.7) 高 (17.5)	南東部 +4 No. 5	①礫大のチャート・細砂大の石英・輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙 7.5YR 6/4	口縁部は屈曲して外傾弱く立ち上がる。口縁部の上半は横撫で。口縁部下半と胴部外面は丁寧な篋撫で。一部に刷毛目を残す。胴部内面は磨き。		外面に炭素吸着。
24 329	甕 小型	底部1/2残存 底 (3.8) 高 (2.1)	P 1内	①細砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙 5YR 7/3	底部外面の周縁部分のみが使用により磨耗している。		炭素吸着。
25 325	甕か	底部 底 5.8	埋没土	①細砂大の輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にふい黄橙 10YR 7/4	外面は丁寧な磨き。		
26 330	壺	底部1/2残存 底 (9.8) 高 (3.4)	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③にふい橙 7.5YR 7/4	底部は円板状の台をなす。		被熱。

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
27 328	甕	底部1/3残存底(6.0)	埋没土	①粗砂大の白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	外面は撫で。		被熱。
28 327	甕	底部～胴部下位1/3残存底(5.6)高(3.2)	P4内+8 No38	①粗砂大のチャート・白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	外面は丁寧な撫で。		
29 316	壺	胴部下位～底部高(9.4)底11.5	1号炉内+10 No30	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/4	大型品。胴部は大きく張るか。外面は撫で、磨き。		内面は剥離。
30 342	甕か	胴部下位～底部底7.2	南東部床直 No4	①粗砂大の白色鉾物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR6/4			被熱。脆弱になっている。
31 326	甕	底部2/3残存底(5.2)	埋没土	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR6/6	内外面とも丁寧な磨き。		炭素吸着。
32 307	甕	1/2残存口(17.0)高27.4	中央部+1.0 No16	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は外傾弱く立ち上がり、先端は外側の器面がそげ薄くなる。胴部は弱く張る。器面調整は刷毛目後磨きを加える。外面の胴部下位、内面の口縁部と胴部上位に刷毛目を残す。	口縁部は櫛描波状文5段を充填させる。頸部は9条1単位2連止の櫛描簾状文が巡る。胴部上位にも櫛描波状文3段が巡る。	被熱。
33 347	甕	胴部一部欠損口19.8高30.7	中央部埋没土 No18	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。胴部は球形を呈する。口縁部を縦方向、胴部を斜方向に細かい刷毛目。胴部にはその後粗雑な磨きを加える。下位ほど丁寧になる。内面も刷毛目後磨き。		炭素吸着。
34 346	甕	ほぼ完形口18.2高30.2	貯蔵穴内 No48	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR5/4	胴部は長球形に張る。口縁部の内面には刷毛目を残す。胴部は内外面とも磨き。	口縁部は1単位6条と思われる櫛描波状文を重ねる。8、9段を配するか。頸部には10条の2連止簾状文7単位が巡る。胴部上位は波状文4段からなる文様帯である。	炭素吸着。
35 40	すり石	13.5・9.9 6.7	北部 No43	粗粒安山岩 1334	表面の中央部分を中心にすり面として使用している。側面を若干敲打しているか。		
36 41	石皿	24.0・15.8 6.6	不明 No46	粗粒安山岩 3900	表面のすり面はあまり使用されていないか？。すり面以外の器面は丁寧な敲打により仕上げられている。		

20号住居出土遺物観察表(第85図、図版40)

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 348	台付甕	口縁部～胴部下位口(14.7)高(13.7)	北東部+5 No6・7・9・10・17	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR7/4	口縁部は直立ぎみに立ち上がる。先端の外側はそげ、尖り、内傾する。胴部は偏平な球形を呈する。外面は刷毛目後磨き。内面は丁寧な磨き。	頸部には12条の等間隔簾状文が施される。口縁部と胴部上位には櫛描波状文の文様帯が巡る。	炭素吸着。被熱。
2 349	台付甕	口縁部～胴部中位破片	北東部+7 No10・17	①細砂大の白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR7/4	口縁部の先端は尖り、弱く内傾する。外面は刷毛目後磨き。内面は丁寧な磨き。	頸部には13条の2連止簾状文が巡る。口縁部と胴部上位には櫛描波状文が配される。	炭素吸着。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
3 350	鉢	口縁部破片	南部 +1.3 No11	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/3	先端は内湾して立ち上がる。端 部間近に2箇所径3mmの焼成前 穿孔の小孔がある。内外面とも 篋撫で。		内面に炭素 吸着。
4 352	甕	底部 底 4.6	北部 +5.5 No 4	①粗砂のチャート・ 細砂大の白色鉱物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	内外面とも丁寧な磨き。		炭素吸着。
5 351	甕	底部2/3残存 底 5.6	南部 +1.5 No11	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面は撫で。		被熱。
6 45	剥片	5.8・4.7 1.5	埋没土	頁岩 36	使用痕ある剥片。		

22号住居出土遺物観察表 (第87・88図、図版41・43)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 355	高杯	杯部1/2残存 口 (15.5) 高 (6.0)	中央部 床直 No 6・15	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は弧をなして斜め上方に 立ち上がり、先端は内側に弱く かえる。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤 色塗彩。
2 356	台付甕	口縁部～胴部中 位 口 (9.7) 高 (5.0)	中央部 床直 No 6	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 4/4	小径。口縁部は屈曲後短く立ち 上がる。胴部中位と内面は磨き。	口縁部と胴部上位に櫛描波状 文を施文する。頸部には8条 1単位と思われる2連止櫛描 波状文が巡る。	炭素吸着。
3 359	高杯か	脚部 高 (7.0)	1号炉内 +6.5 No38	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	脚部は外反弱く裾方向に開く。 外面は篋撫で。内面には刷毛目 を残す。		被熱。
4 357	台付甕	口縁部破片	埋没土	①粗砂大の白色鉱物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		口縁部は櫛描波状文施文後先 端に円形のボタン状貼付文を 付している。頸部には灑状文 が巡る。	被熱。
5 363	甕か	口縁部破片	1号炉内 埋没土	①細砂大の白色鉱物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	小径。口縁部は屈曲して弱く外 傾する。		被熱。
6 554	鉢か	底部 底 4.0	埋没土	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	外面は丁寧な磨き。		底部外面を 除き赤色塗 彩。
7 358	甕	底部1/2残存 底 (5.9)	中央部 床直 No 7	①粗砂大の白色鉱物 粒・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③褐7.5YR	外面は撫で。		被熱。
8 361	甕か	底部 底 (7.0)	埋没土	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6			被熱。

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
9 354	甕か	口縁部～胴部下位 口 (17.2) 高 (28.1)	南西部 +10 No14・19・21・ 25・26・28・ 29・30・31	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙10YR7/4	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。胴部は張り出しの強い形状を呈する。口縁部の内外面には器面調整の刷毛目を残す。	口縁部は先端をあげ上半部に粗雑な8条1単位の櫛描波状文を3段重ねる。頸部と胴部文様帯の最下位には止めの間隔が不均等な8条1単位2連止の簾状文が各1段巡り、その間には櫛描波状文3段が充填される。	炭素吸着。
10 353	壺	胴部下半は3/4欠損 口 25.8 高 61.8	南西部 +8 No1・5・13・ 14・16・18・ 22・23・24・ 26・32・33	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙5YR6/4	口縁部は屈曲後大きく外反、先端は折り返し口縁。胴部は中位やや下方に最大径を持つ球形を呈する。内外面とも丁寧な磨き。	折り返し口縁部分には櫛描波状文を施文する。頸部に12条1単位2連止の櫛描簾状文を1段巡らす。その下位には10条1単位と思われる櫛描波状文4段からなる幅広い文様帯が続く。下端には毘描鋸歯文13単位が配され、内部を斜行線文により充填される。	炭素吸着。
11 365	壺	頸部以下胴部下半	1号炉内、南西部 +7 No2・14・16・ 33・39	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	大型品。頸部はくびれる。胴部は大きく張り算盤玉状を呈する。	頸部に8条の2連止櫛描簾状文を巡らす。直下の胴部上位には櫛描波状文を重ねる。	器面は磨耗している。
12 364	甕	口縁部～胴部上位破片	P2内、北西部 床直 No8・9・12・ 34	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にふい橙7.5YR7/4	口縁部は緩やかに外反、先端は外側の器肉が薄くなり尖る。	口縁部は先端に振幅の弱い櫛描波状文を1段施文後、以下に5条1単位で振幅の大きい波状文を4段重ねる。頸部の簾状文は2連止と思われる。胴部にも波状文が巡る。	炭素吸着。
13 48	打製石斧	20.7・10.4 3.8	南西部 No26	硬質泥岩 768	基部は欠損。		

23号住居出土遺物観察表〈第90図、図版42・43〉

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 371	鉢か 小型粗製	1/2残存 口 (5.6) 高 3.3	埋没土	①細砂大の赤色粘土粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙5YR7/4	口縁部はやや歪み波状を呈する。外傾弱く立ち上がり、先端は尖る。内外面とも撫で。		底部外面に炭素吸着。
2 368	台付甕	口縁部～胴部中位 口 14.0 高 (11.3)	中央部 +8 No3	①礫大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は短く外傾弱く立ち上がる。胴部は器高が高くやや深みがある。内面は刷毛目後磨き。	口縁部上半に1段、胴部上位に2段櫛描波状文が巡る。頸部には9条1単位の2連止簾状文を施文する。	炭素吸着。
3 367	台付甕	口縁部～胴部中位 口 14.0 高 (11.5)	P2埋没土	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にふい橙5YR6/4	小径。口縁部は弱く外反する。内面は丁寧な磨き。	口縁部と胴部上位に櫛描波状文が各1段巡る。頸部には7条1単位2連止の簾状文が施文される。	被熱。 炭素吸着。
4 366	甕	口縁部～胴部中位 口 19.2 高 (23.0)	P2内 No.11	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は外反弱く立ち上がり、先端は折り返し口縁。胴部外面、及び内面全面は丁寧な磨き。	折り返し部分を含め口縁部には櫛描波状文が充填される。6段で8条1単位である。頸部には11条1単位2連止簾状文が巡る。胴部にも櫛描波状文が2段施される。	外面に炭素吸着。
5 369	壺	底部 底 (17.5)	南東部 +8 No4	①礫大のチャート・軽石・細砂の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	大型品。		内面は剥離している。

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
6 370	壺	上半は1/2欠損 口 25.3 高 66.0	北西部 +8 No.1	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部の先端は折り返し口縁。胴部は上半が大きく丸く張るが下半は底部に向かって急速に径をせばめる。外面の器面調整は口縁部に刷毛目を残すが胴部は磨き。	頸部から胴部上位にかけて、10条1単位の櫛状工具による横線文を重ね幅広の文様帯を配す。これを縦方向の直線文で区切り、その下端には刺突文を伴う円形のボタン状貼付文を付している。	下半に炭素吸着。

24号住居出土遺物観察表 (第94図、図版43)

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 372	甕 小型	口縁部1/3欠損 口 7.5 高 7.0	南東部 床直 No.86	①細砂のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR5/4	小型品。口縁部は短く外傾して立ち上がる。胴部は上位で張る。外面は丁寧な磨き。内面は丁寧な磨き。	口縁部から胴部上位にかけて櫛描波状文を3段施す。	炭素吸着。 胴部上半には焼成後の穿孔を施す。
2 381	蓋か	天井部 高 (8.2)	南西部 床直 No.46	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	天井部は大きく外反して端方向に開く。外面は丁寧な磨き。内面は丁寧な磨き。		
3 382	甕	胴部1/2欠損 口 11.9 高 9.4	北西部 +7 No.5	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は屈曲して緩やかに外反する。胴部は中位に最大径を持つ偏球形を呈する。底部は丸底。	口縁部は8条1単位と思われる櫛描波状文を重ねる。頸部には12条の等間隔止簾状文が施されるが7条1単位を2段重ねたものか。胴部にも櫛描波状文が重ねられている。	炭素吸着。 被熱。
4 555	台付甕	口縁部～胴部上位1/3残存 口 (14.0) 高 (5.6)	埋没土	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は外傾弱く立ち上がる。内面は丁寧な磨き。	口縁部から胴部上位にいたるまで5条1単位の櫛描波状文を充填する。	炭素吸着。
5 373	甕	口縁部～胴部上位 口 14.6 高 (10.6)	北西部 +7.5 No.2	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。	口縁部の上半には6条1単位の櫛描波状文3段による文様帯が配される。頸部は6条1単位2連止の櫛描簾状文が配され、その直下の胴部上位には波状文2段が重なる。	被熱による変色、変質。
6 556	甕	口縁部・底部を欠損 高 (22.0)	埋没土	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	胴部は中位に最大径を有し、算盤玉状に近い。内外面とも丁寧な磨き。	頸部は7条1単位2連止の櫛描簾状文が1段巡り、その直上には波状文が加えられる。胴部上位には7条1単位の櫛描波状文が2段施される。	炭素吸着。
7 375	甕	底部 底 7.3	南東部 +9 No.84	①粗砂大の白色鉱物粒・チャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面は磨で。		
8 376	甕	底部 底 5.2	西部 +16 No.12	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR6/4			被熱。 炭素吸着。
9 377	鉢か	底部 底 4.3	埋没土	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/3			底部外面を除いて赤色塗彩。
10 378	甕	底部 底 (6.6)	南部 床直 No.53	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR7/4	外面に刷毛目を残す。		外面に炭素吸着。

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
11 379	甕か	底部 底 (7.6)	北西部 床直 No 4	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR5/4	器面調整は粗雑である。胴部は粘土紐の接合部分で剥離している。		炭素吸着。
12 380	壺	底部 底 11.1	南西部 +4.2 No38	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/4	大型品。		被熱。
13 49	すり石	20.3・17.7 5.5	中央部 No102	粗粒安山岩 3515	表裏面にすり面が認められる。		
14 50	剥片石器	9.8・3.8 1.8	埋没土	細粒安山岩 62	一部に剥離痕が認められる。		

25号住居出土遺物観察表《第95図、図版44》

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 386	高杯か	脚部上半 高 (6.2)	埋没土	①粗砂大の赤色粘土粒・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	脚部は外反弱く裾方向に開くか。		被熱。
2 385	甕	底部 底 7.0	東部 床直 No 2	①粗砂大のチャート・細砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6			被熱。
3 392	甕	口縁部～胴部上位 口 (17.5) 高 (14.5)	南東部 +3.5 No 5・6・8	①細砂大の輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	内外面とも丁寧な磨き。	頸部には8条1単位と思われる2連止櫛描簾状文が巡る。その直下の胴部上位には櫛描波状文2段が配される。被熱による変質、変色。	
4 383	甕	胴部下位～底部 高 (10.0) 底 (7.8)	南部 +3.5 No 8	①細砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	胴部は長球形を呈したか。内外面とも丁寧な磨き。		内面に炭素吸着。
5 384	壺	底部 底 (12.6)	南東部 +8.5 No 8	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/3	大型品。外面は磨き。		内面に炭素吸着。
6 51	凹石 すり石	11.9・7.9 3.2	埋没土	粗粒安山岩 442	表裏面ともすり面。裏面の2箇所に数個の敲打痕が集中して認められる。浅い側面もすっている。小口の両端も使用面か。		
7 52	すり石	12.2・6.4 5.0	埋没土	粗粒安山岩 552	裏面は剥面部分が多い。熱のためか。炭素吸着。		
8 53	打製石斧	8.6・6.6 2.0	埋没土	頁岩 147	基部寄りの一部が残存する。刃部に向かって横幅を増す形状と考えられる。		

26号住居出土遺物観察表《第97図、図版44》

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 388	壺	口縁部～胴部上位破片	南東部 +3 No 1	①粗砂大の赤色粘土粒・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	頸部は大きくくびれ、算盤玉状の胴部に続くか。	頸部から胴部上位には櫛描の横線文を重ねた文様帯を配し、これを12条1単位の縦直線文で区切っている。その直下には12条1単位の櫛描波状文が続く。	被熱。
2 391	台付甕か	脚部 高 (2.3)	南東部 床直 No11	①粗砂大の白色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	台部は外反弱く開く。内面には刷毛目を残す。		被熱による変質、変色。

番号	器種	残存法 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
3 54	打製石斧	9.3・3.3 1.2	埋没土	砂岩 383	短冊型を呈する。剥離は粗雑で使用痕はあまり顕著ではない。		

28号住居出土遺物観察表〈第101～104図、図版44～47〉

番号	器種	残存法 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 420	鉢か 小型精製	1/2残存(先端は 欠損) 高(2.5)	埋没土	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄褐10YR 5/4	口径に比較して器高は低く、偏 平である。内外面とも撫で。		被熱。
2 414	甕か	1/4残存 口(7.2) 高(9.7) 底 4.3	中央部 +11 No.144	①粗砂大のチャー ト・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は直立ぎみに立ち上がり、 先端は折り返し口縁。器面は篋 削り後部分的に撫で、磨き。		上半部と底 部を図上復 元。
3 403	甕 小型	完形 口 9.9 高 11.7	P3内 No.2	①粗砂大の白色鉱物 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/3	器形の歪みから器高が著しく異 なる。口縁部に最大径を持ち、 胴部は張らない。口縁部は横撫 で。胴部外面は篋削り、篋撫で。 内面は磨き。	頸部には9条1単位2連止の 簾状文が巡る。施文は非常に 粗雑である。	炭素吸着。
4 409	高杯	杯部～脚部上位 口 13.6 高(10.5)	P3内、東部 床直 No.1・2	①細砂大の白色鉱物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	杯部は浅く、斜め上方に弧をな して立ち上がる。脚部内面は篋 除いて赤色削り、その他は丁寧 な磨き。		脚部内面を 塗彩。杯部 内面に炭素 吸着。
5 416	甕	底部 底 4.9	P5内 +6 No.118	①粗砂大のチャー ト ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4	外面は磨き。		被熱。 炭素吸着。
6 419	甕	底部 底 5.8	3号炉内 +8 No.108	①粗砂大の白色鉱物 粒・石英 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面の一部は磨き。		内面に炭素 吸着。
7 421	甕	底部 底 5.4	3号炉内 床直 No.74	①粗砂大のチャー ト・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/4			
8 417	甕	底部 底 5.9	北西部 +10 No.116	①粗砂大のチャー ト・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③灰黄褐10YR6/2	外面の一部は磨き。		炭素吸着。
9 418	甕か	底部 底 10.3	南西部 +32 No.65	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR 5/3	外面は篋撫で。		外面に炭素 吸着。
10 423	台付甕	台部 高(6.8)	西部 +3 No.111	①礫・粗砂大の チャート ②酸化焰・良好 ③明黄褐10YR7/6	器高は低く、脚部は外反弱く裾 方向に開く。		被熱。
11 422	台付甕か	台部 高(8.3)	西部 +6 No.97	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 6/4	器高高い脚部は裾方向に至って 外反の度合をやや強める。外面 は磨き。内面には刷毛目を残す。		胴部内面に 炭素吸着。 二次利用し ているか。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
12 411	高杯	杯部 口 22.6 高 (10.2)	中央部 +12 No14・16・32	①精選、細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	大径。基部は細くくびれる。口縁部は斜め上方に立ち上がり、先端は屈曲、水平方向に短く延びる。基部剝離面には脚部との接合のためのぼぞ状の突起が認められる。内外面とも丁寧な磨き。	口縁部の先端に粗い刻目文を施す。	内外面に赤色塗彩。
13 410	高杯	杯部(先端は欠損) 高 (7.5)	中央部 +11 No. 38・45	①精選、細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	杯部は大径でやや偏平な碗状を呈する。先端は屈曲し大きく外反する。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
14 400	台付壺	口縁部～胴部破片	中央部 +10 No15・39	①粗砂大の赤色粘土粒・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は短く、外反弱く立ち上がる。胴部は偏平となるか。内面は丁寧な磨き。	頸部は9条の2連止簾状文が巡る。口縁部と胴部上位に櫛描波状文を2段ずつ重ねる。1単位は7条か。	炭素吸着。
15 399	台付壺	口縁部～胴部中位 口 (11.6) 高 (6.5)	北東部 +11 No. 11	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は弱く外傾する。胴部はやや深みを持つか。	口縁部から胴部上位にかけてを櫛描波状文で充填する。	被熱。 炭素吸着。 磨耗している。
16 405	台付壺	口縁部～胴部 口 (10.0) 高 (11.5)	北東部 +7 No 6	①粗砂大のチャート・細砂の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	胴部は上位に最大径を有し、下位は膨らみに欠ける。内外面とも磨き。	口縁部と胴部には櫛描波状文を各2段配している。頸部には9条の2連止簾状文が巡る。	炭素吸着。
17 404	台付壺	口縁部～胴部 口 14.8 高 (11.0)	北東部 +5 No 4・5・7・8・9・10・138	①粗砂大のチャート・細砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部は頸部でくびれ外反して立ち上がる。胴部は最大径の位置がやや下がり、若干膨らみを保つ。器面は丁寧な磨き。	口縁部は上半に櫛描波状文を施した上に刻目文を伴う楕円形の貼付文を4単位重ねている。頸部は10条の2連止簾状文が巡る。胴部上位には10条1単位の櫛描波状文を配し、その最下位に口縁部とは45°位置をずらし、貼付文を付している。	炭素吸着。
18 401	台付壺	ほぼ完形 口 11.0 高 17.9	2号炉内 床直 No175・176	①粗砂大のチャート・赤色粘土粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	胴部は偏球形を呈するが、402と比較すると下位にやや膨らみをもつ。脚部の器高は高く、外反弱く楕方向に開く。胴部の内外面は磨き。脚部外面は篋蓋で、内面には刷毛目を残す。	口縁部には7あるいは8条1単位の櫛描波状文を2段施す。頸部には9条1単位2連止の櫛描簾状文が巡る。胴部上位にも波状文が2段配されている。	被熱。 炭素吸着。
19 402	台付壺	上半部一部欠損 口 (11.3) 高 15.7	北東部 +13 No 7・8	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	胴部は上位に最大径を有し、以下は台部との接合部分に向けて急速に細くなる。台部は401よりもやや低く、外反の度も強い。	口縁部の上半と胴部上位に櫛描波状文が各1段巡る。頸部には7条1単位と思われる2連止簾状文が配される。	被熱。 炭素吸着、 変質。
20 413	壺	胴部上位破片	埋没土	①精選、粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	器面は丁寧な磨き。	頸部には9条以上の2連止簾状文が巡る。胴部文様帯は上位には10本1単位と思われる櫛描波状文を重ねる。その直下に篋描鋸歯文を配し内部を刺突文で充填する。	鋸歯文の間を赤色塗彩。
21 412	壺	口縁部上半 口 (27.6)	埋没土	①精選、粗砂大の石英・輝石 ②酸化焰・良好 ③淡赤橙2.5YR7/4	外反著しく立ち上がり先端は折り返し口縁。		内外面に赤色塗彩。

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
22 408	甕	口縁部～胴部上位 口 (11.6) 高 (9.2)	P 6 内 -20 No177	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/3	口縁部は外反弱く立ち上がる。内面は丁寧な磨き。	頸部には8条の2連止櫛描簾状文(4条1単位を2段か)を施文する。その直上の口縁部下半、直下の胴部上位には櫛描波状文2段が巡る。	被熱による変質、変色。
23 407	甕	1/2残存 口 (11.4) 高 (15.3)	北西部 +7 No112	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は短く、屈曲して外反する。胴部は中位に最大径を有して張る。全体の器肉は厚い。外面は丁寧な磨き。		口縁部の内外面と胴部外面に赤色塗彩。
24 397	壺	頸部～胴部下位 1/3残存	南西部 +4 No44・83・89・90・94・95	①精選、細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	胴部はやや細身ながら算盤玉状を呈して張る。外面は丁寧な磨き。	頸部には1単位7条以上の2連止簾状文を施文。胴部上位には8条1単位の櫛描波状文を3段配し、幅広い文様帯をつくる。	
25 396	壺か甕	上半部1/3欠損 口 (17.3) 高 (29.6)	北西部 +4 No113・114	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は緩やかに外反し、先端は折り返し口縁。胴部は球形を呈する。内外面とも丁寧な磨き。	口縁部は7条1単位と思われる櫛描波状文5段を充填している。頸部には8条1単位3連止の簾状文が施文され、直下の胴部上位には櫛描波状文が2段続く。	炭素吸着。
26 398	甕	3/4残存 口 15.3 高 23.9	中央部 +6 No43・44・45・47・48・51・113・142	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7/4	口縁部は外反弱く立ち上がり先端は折り返し口縁。胴部は中位に最大径を持ち大きく張る。外面は磨き。内面は篋撫で磨き。	頸部には7条1単位2連止簾状文を施文した後、口縁部、胴部上位に施文したことが認められる。口縁部には折り返し部分に1段、以下に2段、7条1単位の櫛描波状文を配する。胴部には波状文3段が巡る。	炭素吸着。被熱。
27 394	甕	完形 口 18.0 高 27.3	北東部 +10 No4・5・11	①粗砂大の赤色粘土粒・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	頸部から短く直立する口縁部はその後、外反弱く立ち上がる。器面は丁寧な磨き。	口縁部は8条1単位の櫛描波状文を7、8段充填する。頸部には9条1単位2連止の簾状文を配す。胴部上位の櫛描波状文は4段である。	炭素吸着。被熱。
28 415	台付甕	台部 高 (5.6)	中央部 +6 No44・57・138・139	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/3	低く、外面がやや膨らみをもってハの字状に開く。外面には縦方向の刷毛目を、内面には一部に刷毛目を残し、指撫を施す。		
29 406	壺	胴部上半1/2残存 高 (13.7)	2号炉内、南部 +6 No43・45	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	胴部は大きく張り出し球形を呈する。胴部外面は篋撫で後粗雑な磨き。	頸部には2連止の櫛描簾状文が巡る。胴部上位には7条1単位の櫛描波状文が4段重ねられる。	炭素吸着。
30 395	甕	3/4残存 口 (20.8) 高 30.8	北西部 床直 No107・108・110・113・114・118・119・120・121・124・138	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石・石英 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部はくの字状に屈曲して立ち上がる。胴部は中位に最大径を持ち算盤玉状に張る。口縁部の内面は刷毛目を残す。	口縁部は先端を除いて振幅の大きな櫛描波状文4段を粗雑に巡らす。施文具は7条1単位か。胴部上位にも3段巡る。頸部の簾状文は8条で3連止である。	炭素吸着。
31 393	壺	胴部1/3欠損 口 23.0 高 41.6	中央部 +3 No13・22・24・28・31・33・36・96	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③	口縁部の先端は折り返し口縁。胴部は中位が大きく張り算盤玉状を呈する。口縁部外面は刷毛目。他は磨き。	頸部から胴部上位にかけては8条1単位の横線文を3段重ね、これを4箇所2本1単位4本の縦直線文で区切っている。その直下には8条1単位の櫛描波状文2段が続いている。	破碎後炭素吸着。
35 426	壺	口縁部上半欠損、胴部上半1/2欠損 高 59.6	南西部 +7 No60・61・82・86・90・95・96・98・123・138・178	①粗砂大のチャート・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	胴部は縦長の算盤玉状に張り、中位やや下方に最大径を有する。	頸部に9条1単位2連止の櫛描簾状文を2段配し、その直下に櫛描波状文2段を巡らしている。	一部に炭素吸着。

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
32 57	すり石	21.6・11.4 7.5	東壁際 No.171	粗粒安山岩 2800	器面の一部をすり面として使用している。小口部分の欠損は敲打によるものか。		
33 55	すり石	13.9・7.6 3.2	2号炉際 No169	粗粒安山岩 532	表裏面ともすり面として使用している。側面を多少敲打しているか。小口は両端とも敲打により潰れている。		
34 56	すり石	10.7・8.2 2.7	P1際 No170	砂岩 376	表裏両面をすり面として使用している。側面・小口面で点描を行っていない面は、使用面としての判断が困難な部分である。		

29号住居出土遺物観察表（第107図、図版47）

番号	器種	残存量 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 438	鉢	1/2残存 口(15.0) 高 6.0	埋没土	①精選、粗砂大の チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部は小径の底部から浅く立ち上がる。先端は尖る。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
2 428	鉢	上位1/2欠損 口(13.6) 高 6.9	南東部 +43 No43	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/8	口径に比較して器高を有し、深みがある。外面は丁寧な撫で。		被熱。 炭素吸着。
3 439	高杯	杯部1/3欠損 口 12.7 高 10.0	埋没土	粗砂大のチャート・白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	杯部は浅く、弧をなし斜め上方に立ち上がる。脚部は小径、外反弱く裾方向に開く。脚部内面を除いて丁寧な磨き。		被熱。
4 430	高杯	脚部 高(10.3)	南西部 床直 No18	①礫・粗砂大のチャート・長石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	脚部は器高を有し、裾方向に開く。基部は外面に稜をなした後杯部に続いている。脚部内面は撫で。		被熱。 炭素吸着。
5 427	壺	口縁部 口 12.7 高(5.0)	南東部 +33 No11	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR7/4	外反して立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。欠損後炭素吸着。
6 435	台付甕	口縁部破片	東部 +13 No6	①粗砂大のチャート・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		口縁部には櫛描波状文を施し、先端に刻目文を伴うボタン状貼付文を付す。頸部には1単位9条以上の2連止簾状文を施す。	器面は磨耗する。
7 433	壺か	口縁部破片	1号炉内 +14 No4	①粗砂大のチャート・白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR6/4	先端は折り返し口縁。	折り返し口縁部分に櫛描波状文を施す。	
8 429	壺	頸部～胴部上位 破片	北東部 床直 No23	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	胴部は大きく張るか。	頸部には6条1単位2連止櫛描簾状文を2段重ねる。胴部上位には櫛描波状文を4段重ねる。	
9 431	甕	口縁部破片	南西部 +7 No16	①礫大のチャート・細砂大の白色鉾物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR6/4	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。先端は外側の器肉が薄れ尖る。	5条1単位の櫛描波状文を5段重ねる。最上位のみ振幅が弱い。	被熱。
10 60	すり石	18.2・6.1 3.2	埋没土	粗粒安山岩 510	裏面はすり面となっていたか。1箇所凹みが認められる。先端の剥離は敲打によるものか。旧事欠損である。		
11 59	砥石	10.0・7.4 3.9	埋没土	牛伏砂岩 281	表面はすり面として使用されているが、裏面については全体が剥離し、細かな凹凸が見られる。側面は旧事欠損の部分を除いてすり面となっている。		

30号住居出土遺物観察表 (第110~112図、図版47~49)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 448	鉢 小型粗製	1/2残存 口 (5.2) 高 3.6	埋没土	①粗砂大の赤色粘土 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/3	口縁部の先端は短く外反する。 内外面とも撫で。		底部外面に 炭素吸着。
2 465	台付壺か	胴部下位の破片	北部 床直 No38	①粗砂大の赤色粘土 粒・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	内外面とも丁寧な磨き。		
3 450	鉢	1/2残存 口 (12.2) 高 5.6	東部 + 4 No27	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がる。 先端は直立きみに起きる。内外 面とも丁寧な磨き。		内面と外面 の一部に炭 素吸着。
4 446	鉢	1/2残存 口 (15.8) 高 8.1	北東部 床直 No.9	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 7/3	口縁部は器高高く、斜め上方に 立ち上がる。先端はやや起き上 がる。外面は篋撫で後磨き。内 面は磨き。		
5 445	高杯か	口縁部破片	北東部 床直 No18	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 7/4	杯部の破片となるか。大径、斜 め上方に向けて立ち上がる。内 外面とも丁寧な磨き。		
6 454	高杯か	口縁部破片	北東部 -1.1 No.4	①粗砂の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	大径。斜め上方に立ち上がる。 内外面とも丁寧な磨き。		炭素吸着。
7 452	高杯	杯部下半~脚部 高 (16.5)	南西部 + 4 No48	①粗砂大の輝石・白 色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 7/4	脚部は外反著しく裾方向に開く。 杯部は大径で深みを有していた と思われる。器面は丁寧な磨き。	外面に赤色塗彩。	
8 449	台付壺	口縁部~胴部下 位 口 (11.7) 高 10.7	北東部 床直 No.3	①粗砂大のチャー ト・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐 7.5YR 5/4		火熱のため器面は剥離してお り観察が困難であったが口縁 部に櫛描波状文を、頸部に櫛 描簾状文を施す。	被熱による 変色。
9 456	台付壺	ほぼ完形 口 9.8 高 12.5	北東部 床直 No18	①粗砂大の赤色粘土 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい褐 7.5YR 6/4	胴部の器高を有し深みがある。 下位は成形が稚拙で丸みを失っ ている。外面は篋撫で。		炭素吸着。
10 459	高杯か	口縁部~胴部 1/3残存	北東部 床直 No22	①精選、細砂大の白 色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は内湾して立ち上がる。 先端は屈曲して強く外反するか。 内外面とも丁寧な磨き。		外面及び内 面の上位に 赤色塗彩。
11 470	高杯	脚部 高 (5.8)	南西部 +3.2 No46	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/4	脚部は低く小径である。外面は 丁寧な撫で。内面は篋削り、撫 で。		杯部内面に 赤色塗彩。
12 472	高杯か	脚部 高 (7.0)	東部 +2.6 No31	①粗砂大のチャー ト・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 7/4	裾方向に外反著しく開く。外面 は丁寧な磨き。		被熱。
13 473	高杯か	脚部 高 (8.3)	北東部 + 5 No.1	①粗砂大のチャー ト・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	脚部は外反弱く裾方向に開く。		被熱。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
14 451	甕	胴部は1/2欠損 口 15.6 高 (18.3)	南東部 床直 No34	①粗砂大のチャート・白色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③	口縁部は緩やかに外反し先端は弱く返る。胴部はあまり張らない。		被熱による変質、変色。
15 453	壺	口縁部破片	埋没土	①粗砂大のチャート・白色鉍物粒・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部は大きく外反して立ち上がり、先端は折り返し口縁。		
16 455	壺	口縁部破片	南東部 床直 No34	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/4	口縁部は大きく外反し、先端は折り返し口縁。外面は刷毛目後粗雑な磨き。		炭素吸着。
17 460	甕	胴部下位～底部 高 (5.3)	北東部 +1.0 No 7	①粗砂大の白色鉍物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は磨き。一部に刷毛目を残す。		炭素吸着。
18 461	壺	底部 底 14.2	南西部 +7.2 No40	①粗砂大の白色鉍物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	大型品。		
19 462	甕か	底部 底 8.7	埋没土	①粗砂大の赤色粘土粒・チャート ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8			被熱。
20 464	甕	底部 底 6.7	北東部 +7.0 No 5	①粗砂大の白色鉍物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐7.5YR5/6	外面の一部は磨き。		炭素吸着。
21 466	鉢か	下半部1/4残存 高 (4.9) 底 (4.1)	埋没土	①粗砂大の白色鉍物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は小径の底部から斜め上方に弧をなして立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。		
22 463	甕か	底部 底 8.5	南東部 +3.8 No35	①粗砂大の輝石・チャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8			器面は磨耗している。
23 468	甕	胴部下位～底部 底 5.9	北東部 -2.8 No15	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は磨き。		
24 469	甕	底部 底 (6.0)	北東部 -1.3 No 8	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4			被熱による変色。
25 467	甕	胴部下位～底部 高 (5.8) 底 6.5	北東部 床直 No19	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR5/4	外面は丁寧な磨き。内面は撫で。		被熱。 炭素吸着。
26 457	甕	底部 底 4.5	P 2内 床直 No24	①礫大の赤色粘土粒・粗砂大の白色鉍物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR5/4			被熱。 脆弱になる。 二次利用されたか。

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
27 471	台付甕	台部2/3残存 高 (5.2)	埋没土	①精選、細砂大の白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③にふい橙 7.5YR 7/4	台部はやや内湾ぎみにハの字状に開く。外面は丁寧な撫で後半部に刷毛目。内面は指頭による撫でと思われる。		炭素吸着。
28 447	甕か	口縁部～胴部中位1/4残存 口 (11.8) 高 (13.5)	南西部 +4.1 No45	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR7/6	口縁部は直立ぎみに外反弱く立ち上がり、先端は折り返し口縁。胴部は大きく張り球形を呈したか。	口縁部から胴部上位までを櫛描波状文を充填する。8条1単位の櫛状工具で7、8段重ねたか。	
29 443	甕か	胴部2/3残存 高 (20.6)	北西部 床直 No50・51・53	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	胴部はやや張るか。胴部は丁寧な磨き。	頸部には14条の等間隔止櫛描波状文が巡る。胴部上位には5段の櫛描波状文を施す。	
30 442	壺	3/4残存 口 (12.6) 高 21.8	南部 床直 No34・43・44	①粗砂大のチャート・白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は外反して立ち上がり、先端は折り返し口縁。胴部は球形を呈する。胴部外面は粗雑な篋削り。	頸部には9条1単位と思われる2連止櫛描波状文が巡る。胴部には櫛描波状文3段を重ねた文様帯を配す。	炭素吸着。
31 444	壺か	口縁部欠損、胴部は2/3残存 高 (17.0)	南西部 +5.2 No43	①粗砂大のチャート・白色鈹物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	胴部は球形を呈する。胴部外半は撫で後粗雑な磨き。	頸部に9条の3連止櫛描波状文を施文する。胴部中位やや上には8条櫛描波状文を巡らせ文様帯の下端を画している。この間、胴部上位には5条1単位の櫛状工具により横位の羽状文が配される。	炭素吸着。
32 441	甕	上半部一部欠損 口 19.1 高 33.4 底 9.2	北東部 床直 No18	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙 7.5YR 7/3	口縁部は屈曲し緩やかに外反して立ち上がる。胴部は上位に最大径をもち張る。器面は丁寧な磨き。	口縁部と胴部上位に櫛描波状文による文様帯を配す。櫛状工具により8条1単位で口縁部に3段、胴部に4段施している。頸部には8条1単位2連止の櫛描波状文を施す。	一部に炭素吸着。
33 481	甕	口縁部は先端を1/2欠損 口 (22.6) 高 42.1	北東部 +3 No13	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は緩やかに立ち上がり先端は内側に折れ返る。胴部は長球形を呈する。口縁部は刷毛目、胴部外面は磨き。	口縁部先端は櫛描波状文施文後円形貼付文を付す。頸部には13条2連止の櫛描波状文を施す。胴部上位には9条1単位の櫛描波状文を3段巡らし、文様帯の下端に7個の刺突文を伴う円形貼付文5単位を付す。	炭素吸着。 被熱。
34 478	甕	ほぼ完形 口 19.5 高 36.2	西部 床直 No52	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は全体形状に比較してやや短く、緩やかに外反する。胴部は中位やや上で張り出す。器面調整は刷毛目後撫で、磨き。口縁部内外面には刷毛目を強く残す。	口縁部の上半に9条1単位と思われる櫛描波状文を3段巡らす。頸部には7条1単位2連止の波状文を右回りに巻き上げるように2段施文している。胴部上位には11条1単位と思われる櫛描波状文を3段巡らす。	一部に炭素吸着。
35 62	すり石	26.6・7.5 7.2	東壁際 No63	粗粒安山岩 1950	小口面はすり面として使用したか。また、稜の部分は敲打により潰れている。		
36 61	すり石	12.7・6.2 4.6	南壁際 No57	粗粒安山岩 556	表裏両面ともすり面となる。裏面の上位は敲打している。また、小口の両端はともに敲打により潰れている。		
37 63	石匙	6.5・3.3 0.95	埋没土	チャート 18.82	縦長剥片の側面を剝離調整。		

32号住居出土遺物観察表 (第115～117図、図版49～51)

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 500	鉢	3/4残存 口 (11.3) 高 5.0	北部 +5 No43	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい橙 7.5YR 7/4	小径。口縁部は内湾ぎみに斜め上方に立ち上がる。底部外面を除き丁寧な磨き。		底部外面を除き赤色塗彩。

番号	器種	残存法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2 458	甌	胴部下位～底部 高 (4.5) 底 5.3	南東部 +19 No37	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	底部のほぼ中央に径1.6cmの穿孔がなされている。内外面とも丁寧な撫で。		
3 489	甕か	底部 底 5.8	南西部 +16 No61	①礫・粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 6/4	底部外面に木葉痕が認められる。		
4 493	蓋 小型	脚部 高 (4.7)	南東部 + 3 No34	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	つまみは逆載頭円錐形を呈し、上端の径は4.2cmである。内外面とも撫で。		炭素吸着。
5 499	高杯	完形 口 13.8 高 13.0	中央部 床直 No40	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	鼓状を呈するが、口径が裾部分の径を上回る。脚部内面に刷毛目を残すが、その他は丁寧な磨き。		脚部内面を除き赤色塗彩。脚部内面に炭素吸着。
6 487	台付甕	口縁部～胴部中位 口 (12.0) 高 (8.0)	南西部 +36 No47	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部は屈曲して外反、緩やかに立ち上がる。	頸部に8条1単位2連止の櫛描簾状文を施文後、口縁部と胴部上位に櫛描波状文を加える。	被熱。 炭素吸着。
7 498	台付甕	口縁部～台部上位 口 10.5 高 (13.6)	南西部 -17 No86	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	小型品。口縁部は短く、屈曲して外反する。器面は丁寧な撫で後、弱い磨き。	頸部に10条1単位2連止櫛描簾状文を施文後、口縁部と胴部上位に櫛描波状文を2段巡らす。	内外面に炭素吸着。
8 497	台付甕	口縁部～胴部下位 口 (16.6) 高 (14.0)	+16	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/4	器面は内外面とも非常に丁寧な磨き。	頸部に9条1単位2連止簾状文を1段巡らす。胴部上位には櫛描波状文2段が施される。	台部欠損後も使用か。
9 496	台付甕	口縁部～台部上位 口 13.6 高 (16.0)	南西部 +33 No79・84	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部は弱く外反する。胴部は他と比較してやや膨らみを持つか。	頸部に10条1単位2連止櫛描簾状文を1段巡らした後、口縁部と胴部上位に各2段櫛描波状文を施す。	被熱による変色、変質。 炭素吸着。
10 495	台付甕	上半部の一部欠損 口 (15.2) 高 21.2	東部 + 6、-10 + 4、床直 No 7・14・16・20	①粗砂大の白色鉱物粒・粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は直立ぎみに立ち上がる。器面調整は刷毛目後磨きを施すが、胴部内面を除き刷毛目の残存が顕著である。	頸部に8条1単位2連止の櫛描簾状文を1段巡らした後、口縁部と胴部に櫛描波状文を各2段施す。	P5・P6 が接合。口縁部・胴部の内外面に炭素吸着。
11 486	壺	口縁部破片	南西部 +15 No62	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	大きく外反して立ち上がり先端は折り返し口縁。内面は丁寧な磨き。		炭素吸着。
12 490	甕か	底部 底 9.0	南東部 + 4 No33	①細砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 6/4			外面に炭素吸着。
13 491	壺	底部 底 16.2	南西部 床直 No72	①細砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	大型品の底部。		炭素吸着。
14 492	壺	底部 底 16.2	埋没土	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	大型品の底部。		

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
15 488	壺か	胴部下位～底部 高 (5.3) 底 9.2	南西部 +19 No47	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/3	胴部は内外面とも丁寧な磨き。		
17 485	甕	胴部下位～底部 高 (14.5)	北東部 床直 No19	①粗砂大のチャー ト・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR 6/3	外面は刷毛目後、撫で・磨き。		被熱。 炭素吸着。
18 483	壺	胴部中位～底部 高 (12.4)	中央部 床直 No44	①粗砂大のチャー ト・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	胴部は大きく張り、算盤玉状を 呈していたか。外面は丁寧な磨 き。		炭素吸着。
19 482	甕か	胴部上半2/3残 存 高 (19.2)	南西部 + 5 No77・80	①粗砂大の輝石・礫 大の軽石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	胴部は径が細く長胴を呈してい たか。胴部外面は丁寧な磨き。 内面も磨いているが器面に指頭 によると考えられる縦方向の調 整痕が強く残る。	頸部には12条の2連止簾状文 が巡る。胴部には9条1単位 の櫛描波状文を3段重ねる。	
20 484	壺か	頸部～胴部下位 の破片	南西部 +19 No64・69・74	①粗砂大のチャー ト・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/4	胴部は下位に最大径を有してい たか。内面に刷毛目を残す。	頸部に11条1単位と思われる 2連止櫛描波状文が巡る。そ の直下、胴部上位には7条1 単位の櫛描波状文3段が施文 される。	炭素吸着。
21 479	壺	胴部下半は1/3 欠損 口 28.3 高 64.7	南部 床直 No 1・2・6・ 24・26・29・ 32・35・59・ 80	①粗砂大のチャー ト・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	口縁部の先端は折り返し口縁。 胴部は大きく張り出すが最大径 は下位にある。器面調整は刷毛 目後磨きを加えるが、口縁部は 刷毛目を残す。	折り返し口縁部には櫛描波状 文を施す。頸部には11条1単 位2連止の櫛描簾状文を1段 巡らす。胴部の文様帯は1条 の沈線波状文で下端を画し頸 部簾状文との間に10条1単位 の櫛描波状文6段を充填する か。	炭素吸着。
22 480	壺	ほぼ完形 口 25.0 高 64.6	西部 床直 No 5	①粗砂大の輝石・ チャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/8	口縁部は短く立ち上がり先端は 折り返し口縁。胴部は下位に最 大径を有し下膨れに張る器面調 整は口縁部に刷毛目を残し、胴 部は磨き。	口縁部は先端に櫛描波状文を 施す。頸部には8条1単位等 間隔止櫛描簾状文が2段巡る。 胴部上位には8条1単位の櫛 描波状文3段を配し、文様帯 の下端には刺突文を伴う円形 の貼付文を付す。	
16 65	石鉄	1.4・1.15 0.2	埋没土	黒耀石 0.21	有基。弱い舌を作り出している。		剥離が粗雑で形状が歪んでいる。

(2) 墓

2号墓出土遺物観察表(第120図・図版56)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 960	台付甕	完形 口 6.8 高 10.5	No 1	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	小型。胴部は球形を呈し、深みがある。内外面とも丁寧な磨き。	頸部に6条1単位の2連止櫛描簾状文を施文後、口縁部、胴部にそれぞれ2段ずつ櫛描波状文を施す。	炭素吸着。
2 961	高杯?	完形 口 8.3 高 7.7	No 2	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	小型。杯部の口縁部分は強く屈曲して立ち上がり、先端は水平方向に開く。器面は丁寧な撫で、磨き。	杯部の口縁部分に刻目文が施される。	一部に炭素吸着。
3 962	鉢	3/4残存 口 13.8 高 6.2	No 3	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	口縁部は弱く内湾して斜め上方に立ち上がる。器面は非常に丁寧な磨き。		底部外面を除き赤色塗彩。

5号墓出土遺物観察表(第123図・図版56)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 964	高杯	ほぼ完形 口 14.4 高 14.6	底面密着	①粗砂大のチャート・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	杯部は浅く、先端は屈曲して水平方向に開く。脚部は外反弱く開く。脚部内面を除き磨きによる器面調整。	杯部の先端に刻目文が施される。	
2 963	鉢	ほぼ完形 口 15.3 高 6.7	底面密着	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は弱く内湾しながら斜め上方に立ち上がる。底部は小径である。器面は丁寧な磨き。		

(3) 溝

3号溝出土遺物観察表(第126図・図版56)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 966	壺	口縁部1/2残存 口 (14.1) 高 20.1	埋没土	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	口縁部は外反して立ち上がり、先端は折り返し口縁。胴部は球形を呈する。外面には丁寧な磨き。	頸部には9条からなる2連止簾状文が巡り、その直下の胴部上位には波状文が2段施される。	炭素吸着。

(4) 土 坑

1号土坑出土遺物観察表(第127図・図版56)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 957	壺か	胴部下半~底部 高 (12.9)	No 1	①粗砂大の赤色粘土粒・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面は横あるいは斜方向の刷毛目。内面は横方向の撫で。		

(5) グリッド

G-18グリッド出土遺物観察表(第129・130図・図版56)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 951	高杯	杯部 口 12.6 高 (4.5)	No.33	①粗砂大の赤色粘土粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	口縁部は斜め上方に向かって立ち上がる。器面は丁寧に磨かれていたと思われる。		内外面に赤色塗彩。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
2 948	鉢か壺?	口縁部1/3残存 口 (17.7) 高 (7.8)	No83	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	先端は折り返し口縁。内外面とも丁寧な磨き。		炭素吸着。
3 950	高杯	脚部2/3残存 高 (8.2)	No40	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	脚部は外反して裾方向に開く。外面は丁寧な磨き。内面は撫で。		内面に黒色付着物。赤色塗彩の顔料が変化したのか。
4 952	高杯か	杯部下位～脚部 高 (7.3)	No1	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	脚部は外反弱く開く。内面には撫でが強く残る。		
5 954	高杯か 台付甕	口縁部上位1/3 残存 口 (19.5) 高 (7.2)	No57	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は先端が強く外反する。屈曲する部分には焼成前穿孔の径5mmの小孔が2個穿ってある。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
6 946	台付甕	胴部破片	No91	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	扁平な球形を呈していたか。	頸部には6条以上の2連止簾状文を施す。胴部には6条1単位の櫛描波状文を2段巡らし、下段にはボタン状貼付文を重ねる。	炭素吸着。
7 949	甕	口縁部～胴部上 半	No35・59	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。内面は丁寧な撫で、磨き。	口縁部の上半に10本1単位の櫛描波状文が2段配される。頸部には10本1単位の2連止簾状文が巡る。胴部には波状文が3段配される。	炭素吸着。
8	甕	口縁部破片	No59	①白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は緩やかに外反する。		7と同一個体か。
9	甕	口縁部破片	No73	①細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6			
10 947	壺	胴部破片	埋没土	①細砂大の輝石・白色 鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4		櫛描横線文(簾状文)の下位に篋描鋸歯文を配し、内側には刺突文を充填させる。	
11 953	甕	口縁部下半～胴 部上半1/2残存 高 (12.4)	No34・70・71	①礫大のチャート・粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は緩やかに外反する。	頸部に9条の2連止簾状文を1段巡らしたほかは櫛描波状文を充填させる。	熱を受けているか。
12 956	甕	底部 底 9.7	No46	①礫大のチャート・粗砂大の輝石・白色 鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6			割れ口は全てが均等に磨滅しており二次利用されたか。
13 955	甕	胴部下位～底部 高 (6.5)	No76	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	胴部は緩やかに張ったか。内外面とも丁寧な撫で、磨き。		
14 945	甕	胴部下位～底部 高 (10.7)	No87・118	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	胴部は弱く張るか。内外面とも丁寧な磨き。		炭素吸着。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
15 944	甕	胴部下位～底部 1/2残存 高(9.9)	No118	①粗砂大の白色鉱物 粒・赤色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR6/8	胴部の膨らみは大きい。外面 は丁寧な磨き。内面も撫で、磨 き。		炭素吸着。
16 133	磨製石斧	11.0・6.4 3.6	18号墳 Q-25	変輝緑岩 781	乳棒状を呈する。両刃。		
17 1358	鉄剣	長さ 6.5	I-19		端部欠損。刃部幅2.5cm・茎幅1.8cm。茎に木質が付着し、鉄目釘が残る。		
18 1359	管玉	径 0.65 長. 2.4	K-14	珪質凝灰岩 1.7	両側から穿孔。灰緑色。		

2. 古墳時代の遺構出土遺物

(1) 古 墳

2号墳出土埴輪観察表〈第141～143図・図版96～98〉

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 967	形象 人物 腰～基部	高 (60.3) 底 23.8	テラス 埴輪列 No1	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面 12	衣服の裾の表現が認められる。外面 縦刷毛。円形透孔(4.0×4.5)。内面 丁寧な縦方向指ナデ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
2 968	形象 人物 基部	高 (37.7) 底 19.1	テラス 埴輪列 No2	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 12	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔(4.3×4.1)。内面 縦方向指ナデ。底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
3 969	形象 人物 基部	高 (36.0) 底 20.4	テラス 埴輪列 No3	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR6/4	外面 11	外面 縦刷毛。円形透孔(4.8×4.1)。内面 縦方向指ナデ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
4 970	形象 人物 基部	高 (35.1) 底 21.8	テラス 埴輪列 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 11	外面 縦刷毛。剝離が著しい。内面 縦方向指ナデ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	外面に九字 状窠記号 胎土No2
5 971	形象 人物 基部	高 (24.5) 底 17.2	テラス 埴輪列 No5	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR6/4	外面 10	外面 縦刷毛。内面 縦方向指ナデ。基部篋削り調整。底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
6 972	形象 基部	高 (22.9) 底 18.1	テラス 埴輪列 No6	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12 内面 13	外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。底面 接合方向不明。	
7 973	形象 基部	高 (26.4) 底 15.4	テラス 埴輪列 No7	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 6 内面 7	外面 縦刷毛。内面 縦刷毛。縦～横方向指ナデ。底面 右回り接合。細かい植物後痕。	
8 974	形象 基部	高 (31.0) 底 14.6	テラス 埴輪列 No.8	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。内面 縦刷毛。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
9 975	形象 基部	高 (29.1) 底 14.3	テラス 埴輪列 No9	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 13	外面 縦刷毛。内面 縦刷毛後に雑な縦方向指ナデ。底面 右回り接合。	
10 976	形象 基部	高 (28.8) 底 14.9	テラス 埴輪列 No10	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 6 内面 6	外面 縦刷毛。内面 縦刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
11 977	形象	高 (22.7) 底 14.7	テラス 埴輪列 No11	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 7 内面 8	外面 縦刷毛。内面 縦方向刷毛後に縦方向指ナデ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
12 978	形象	高 (21.7) 底 12.6	テラス 埴輪列 No12	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 13	外面 縦刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。内面 左上がり斜め刷毛。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
13 979	円筒	高 (14.5) 底 12.4	テラス 埴輪列 No16	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12	外面 縦刷毛。基部削り調整。内面 縦方向刷毛後に丁寧な指ナデ。底面 接合方向不明。	
14 980	円筒	高 (20.8)	東側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		外面 縦刷毛。基部削り調整。内面 縦方向刷毛後に丁寧な指ナデ。底面 接合方向不明。	
15 981	円筒 胎土No1	高 (14.8) 底 9.2	テラス 埴輪列 No17	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍赤褐5YR5/4	外面 9 内面 10	外面 縦刷毛。基部削り調整。内面 縦方向刷毛後に丁寧な指ナデ。底面 接合方向不明。	
16 982	朝顔	高 (43.2) 底 15.1	テラス 埴輪列 No14	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 12 内面 8	外面 縦刷毛。縦長の半円形透孔(5.2×8.5、4.5×4.5)。肩部以上に赤色塗彩。内面 縦方向指ナデ。底面 接合方向不明。植物圧痕。	3号墳の遺 物の可能性 が高い
17 983	円筒	高 (11.6) 口 23.2	テラス 埴輪列 No28	①緻密 ②酸化焰・良好 ③赤褐5YR4/8	外面 9 内面	外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛。	口縁部外面 に窠記号 「>」
18 984	円筒	高 (3.9)	周堀覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6		口唇部破片。	

19 985	円筒	高 (3.4)	東側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	内面 14	口唇部破片。	
20 986	円筒	高 (5.2)	東側周堀	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤5YR5/6	外面 11 内面 12	口唇部破片。	
21 987	円筒	高 (4.1)	周堀覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		口唇部破片。	
22 988	円筒	高 (5.6)	テラス 埴輪列 No9	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 11 内面 10	口唇部破片。	
23 989	円筒	高 (4.7)	テラス 埴輪列 No8	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 9 内面 11	口唇部破片。	
24 990	円筒	高 (3.1)	墳丘北	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10	口唇部破片。	
25 991	円筒	高 (3.7)	テラス 埴輪列 No9	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 内面 12	口唇部破片。	
26 992	円筒	高 (6.4)	東側周堀	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 12	口唇部破片。	
27 993	朝顔	高 (8.2)	テラス 埴輪列 No3	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 内面	口唇部破片。	
28 994	朝顔	高 (13.3)	テラス 埴輪列 No1・7・9	①緻密 ②酸化焰・良好 ③赤褐5YR4/8	外面 6 内面	口唇部破片。	

2号埴出土人物埴輪観察表(第144図・図版98~101)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 995	形象 人物 女子頭部	高 (19.7)	テラス 埴輪列 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10	額部まで巻き上げ成形した後に粘土板の鬘を貼り付けている。	
2 996	形象 人物 女子頭部	高 (14.2)	テラス 埴輪列 No5	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/8	外面 12	額部まで巻き上げ成形した後に粘土板の鬘を貼り付けているが、中央部には補修痕が認められる。耳飾りの剝離痕が残る。	
3 997	形象 人物 男子頭部	高 (11.9)	テラス 埴輪列 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 11	頭頂部まで巻き上げ成形。鉢巻と右側の下げ髻・眉毛の一部が残る。	
4 998	形象 人物 性別不詳	高 (7.8)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③黄橙7.5YR7/8		口と鼻の一部が残る。刺突により鼻孔を表現している。	
5 999	形象 人物 頸部	高 (3.7)	テラス 埴輪列 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10	首飾りの表現が認められる。	
6 1000	形象 人物	高 (9.5)	テラス 埴輪列 No2	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/8		下げ髻。	7と対の可能性が高い
7 1001	形象 人物	高 (9.7)	玄室内	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/8		下げ髻。	6と対の可能性が高い
8 1002	形象 人物	高 (6.7)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		下げ髻。	9と対の可能性が高い
9 1003	形象 人物	高 (8.1)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 14	下げ髻。	8と対の可能性が高い

10 1004	形象 人物	高 (5.8)	前庭	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		下げ髷。	
11 1005	形象 人物	高 (11.0)	テラス 埴輪列 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR6/4	外面 12	右腕。腰部付近に掌を置くと考えられる。	12と対の 可能性が高い
12 1006	形象 人物	高 (11.4)	テラス 埴輪列 No3	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12	左腕。腰部付近に掌を置くと考えられる。	11と対の 可能性が高い
13 1007	形象 人物	高 (9.3)	テラス 埴輪列 No5	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		右腕。胸部付近に掌を置くと考えられる。	14と対の 可能性が高い
14 1008	形象 人物	高 (8.9)	前庭	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		左腕。胸部付近に掌を置くと考えられる。	13と対の 可能性が高い
15 1009	形象 人物	高 (5.1)	テラス 埴輪列 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/8		左手。掌に何かを握っていた痕跡が認められる。	
16 1010	形象 人物	高 (14.9)	周堀覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		右腕。腰部付近に掌を置くと考えられる。	17と対の 可能性が高い
17 1011	形象 人物	高 (8.5)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		左腕。腰部付近に掌を置くと考えられる。	16と対の 可能性が高い
18 1012	形象 人物	高 (12.2)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 14	腕。左右・姿態不明。	
19 1013	形象 人物	高 (10.7)	テラス 埴輪列 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		体部に差し込まれた腕の接合部。左右不明。	
20 1014	形象 人物	高 (13.2)	北側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR6/4		体部に差し込まれた腕の接合部。左右不明。	
21 1015	形象 人物	高 (9.0)	テラス 埴輪列 No3	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		大刀を表現した部分が剝離したものと考えられる。	

2号埴出土埴輪観察表 (第145~150図・図版101~109)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/ 2 cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1016	形象 髷	高 (20.9)	前庭、西側墳 丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 11		
2 1017	形象 大刀	高 (10.6)	北側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 14	勾金の上部。表面には三輪玉の剝離痕が残り、裏面には補強の粘土隆帯が認められる。	
3 1018	形象 大刀	高 (4.1)	周堀	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6		矢視の上面に貼り付けたものの可能性が考えられるが詳細は不明。	
4 1019	形象 大刀	高 (9.5)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 11	勾金の下端部。三輪玉の一部が残る。	
5 1020	形象 大刀	高 (15.2)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		勾金の下端部。三輪玉が1個残る。	
6 1021	形象 大刀	高 (7.3)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12	勾金の下端部。三輪玉が1個残る。	
7 1022	形象 大刀	高 (14.8)	南側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		勾金の下部。三輪玉が1個残る。	
8 1023	形象 大刀	高 (7.7)	墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 9	勾金の上部。鈴が1個残る。	

9 1024	形象 大刀	高 (7.0)	前庭	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		勾金の下部。鈴と紐の表現が1個残る。	8とは別個 体と考えら れる
10 1025	形象 大刀	高 (6.5)	周堀覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR6/4		矢視の接合部と考えられる。	
11 1026	形象 大刀	高 (18.3)	テラス 埴輪列 №9	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12	大刀の鞘部と考えられる。	
12 1027	形象 不明	高 (12.0)	東側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR6/4	外面 8	凸帯より上部は剥離しているが、種別不明。	
13 1028	形象 大刀	高 (11.2)	南側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12	矢視。上面には何も付かないと考えられる。	
14 1029	形象 槍	高 (45.0)	羨道部	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/8	外面 10	円筒形の柄の上部を狭めて別作りの鎗身を差し込んで接合している。	
15 1030	形象 槍	高 (7.8)	周堀覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		鎗身の破片。	
16 1031	形象 槍	高 (28.8)	墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 9	鎗の柄部分と考えられる。	
17 1032	形象 靱	高 (36.5)	テラス 埴輪列 №15	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 8	背負い紐は線刻で表現し、結び目のみ粘土紐を貼り付けている。	18とは同一 個体
18 1033	形象 靱	高 (19.0)	東側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10	線刻により4本の鎌を表現している。裏面には篋ナデ痕が明瞭に残る。	17と同一個 体
19 1034	形象 靱	高 (11.2)	トレンチ	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 8	線刻により4本の鎌を表現し、両脇は粘土隆帯を貼り付けている。裏面には篋ナデ痕が明瞭に残る。	
20 1035	形象 靱	高 (7.4)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 7	線刻による鎌が2本認められる。裏面は剥離している。	
21 1036	形象 靱	高 (18.7)	南側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 9	線刻により4本の鎌を表現している。裏面には補強の粘土隆帯の一部がほぼ並行して残る。	
22 1037	形象 靱	高 (8.5)	テラス 埴輪列 №2	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 11	左側部破片。線刻による鎌の茎部が2本残る。裏面には補強の粘土隆帯が認められる。	
23 1038	形象 靱	高 (11.2)	北側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12 内面 12	線刻による4本の鎌が認められる。裏面には補強の粘土隆帯の剥離痕が1箇所残る。	
24 1039	形象 靱	高 (70.0)	テラス 埴輪列 №12	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 7	矢筒部分には背負い紐の他にも線刻が認められる。	
25 1040	形象 靱	高 (20.8)	北側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 10	左側上部の翼。	
26 1041	形象 靱	高 (23.5)	テラス 埴輪列 №9	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR6/4	外面 10	右側上部の翼。	
27 1042	形象 靱	高 (51.0)	墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 9	矢筒部の上端に線刻と粘土隆帯による装飾が認められる。	
28 1043	形象 靱	高 (31.9)	墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 8	矢筒の下部。	

29 1044	形象 靱	高 (13.0)	南側墳丘 東側墳丘	①緻密 ②酸化焙・良好 ③鈍褐7.5YR5/4	外面 8	右側上部の翼破片。	
30 1045	形象 靱	高 (17.5)	北側墳丘	①緻密 ②酸化焙・良好 ③明褐7.5YR5/6	外面 11 内面 11	右側上部の翼破片。	
31 1046	形象 盾	高 (18.5)	北側墳丘	①緻密 ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/8	外面 9	Aタイプの破片。	
32 1047	形象 盾	高 (10.2)	東側周堀	①緻密 ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6	外面 12	Aタイプの破片。	
33 1048	形象 盾	高 (8.5)	東側周堀	①緻密 ②酸化焙・良好 ③明赤褐5/8	外面 9	Aタイプの破片。	
34 1049	形象 盾	高 (13.9)	テラス 埴輪列 №9	①緻密 ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6	外面 9	Aタイプの破片。	
35 1050	形象 盾	高 (14.9)	テラス 埴輪列 №37	①緻密 ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10	Bタイプの破片。	
36 1051	形象 盾	高 (8.5)	南側墳丘	①緻密 ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6	外面 12	Cタイプの破片。	
37 1052	形象 盾	高 (10.3)	南側墳丘	①緻密 ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6		Cタイプの破片。	
38 1053	形象 盾	高 (10.8)	周堀覆土中	①緻密 ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 7	右側の下端部破片。	
39 1054	形象 盾	高 (12.0)	周堀覆土中	①緻密 ②酸化焙・良好 ③橙5YR7/6	外面 8	右側の下端部破片。	
40 1055	形象 髻	高 (55.0)	東側墳丘	①緻密 ②酸化焙・良好 ③鈍橙7.5YR6/4	外面 10	筒状の柄を挟めて別造りの粘土板を接合し、中央の円孔の周り及び周縁部に粘土紐を貼り付けている。裏面にはY字状の補強の粘土隆帯が認められる。	
41 1056	形象	高 (13.3)	南側墳丘	①緻密 ②酸化焙・良好 ③鈍赤褐5YR5/3	外面 11	髻の基部と考えられるが詳細は不明。	

2号墳出土遺物観察表(第151~153図、図版145・146)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 557	須恵器 坏蓋	□ 13.4	前庭部 №.18	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③灰10Y6/1	右回転ロクロ整形。体部上半回転篋削り。口縁部横ナデ。	
2 558	須恵器 坏蓋	□ 12.9 底 6.3	テラス面 №2	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。体部上半回転篋削り。口縁部横ナデ。	
3 559	須恵器 坏身	□ 11.0 高 3.6	前庭部 №22	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。口縁部横ナデ。	
4 560	須恵器 坏身	□ 12.8	前庭部	①細砂を含む ②還元焙・硬質 ③灰白10Y7/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。口縁部横ナデ。	
5 561	須恵器 坏身	□ 11.6	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。口縁部横ナデ。	
6 562	須恵器 坏身	□ 12.9	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。口縁部横ナデ。	

7 563	須惠器 坏身	口 11.2	前庭部 No3・4	①白色鈹物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰5Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。口縁部横ナデ。	
8 564	須惠器 坏	口 11.6 高 3.3	前庭部	①細砂を多く含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。口縁部横ナデ。	
9 565	須惠器 坏	口 10.6 高 4.0	前庭部 No9	①白色鈹物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。口縁部横ナデ。	
10 566	須惠器 坏	口 13.0	前庭部	①白色鈹物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。口縁部横ナデ。	
11 567	須惠器	口 8.4	北東部墳丘	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。2条の沈線の上に8条1単位の櫛描波状文を施す。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
12 568	須惠器 高坏	口 18.0	東側墳丘	①砂粒を含む ②還元焰・やや軟質 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。体部が2段になる。脚部の3方向に透孔。	
13 569	須惠器 高坏	口 12.7	南側墳丘	①白色鈹物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。6条1単位の櫛描波状文を施す。脚部の3方向に2段の透孔。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
14 570	須惠器 高坏	底 11.0	北東部墳丘	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。脚部の3方向に長方形透孔。	
15 571	須惠器 高坏	口 14.3 底 12.0	墳丘	①緻密 ②還元焰・軟質 ③鈍い黄褐色10YR5/4	体が摩耗している。右回転ロクロ整形。脚部の3方向に透孔。	
16 572	須惠器 蓋	口 9.8	前庭部	①白色鈹物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部と肩部に2条の沈線を施す。	17とセットをなすか
17 573	須惠器 脚付 短頸壺	口 6.8 底 11.7 高 18.5	テラス面 No3	①白色鈹物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。肩部の沈線の間 に列点刺突を施す。焼締まり、降灰釉が掛かる。	16とセットをなすか
18 574	須惠器 罍	破片	北東部墳丘	①白色鈹物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転ロクロ整形。8～10条1単位の櫛描波状文を2段巡らす。焼締まり、降灰釉が掛かる。	19と同一個体か
19 575	須惠器 罍	破片	北東部墳丘	①白色鈹物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗オリーブ灰	右回転ロクロ整形。肩部に列点刺突を施す。穿孔の周囲は平坦。焼締まり、降灰釉が掛かる。	18と同一個体か
20 576	須惠器 短頸壺	口 10.2 高 10.9	テラス面 No1	①黒色鈹物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下端手持ち篋削り。良く焼締まり、降灰釉が厚く掛かる。	
21 577	須惠器 短頸壺	口 8.4 高 12.4	前庭部 No1・16	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
22 578	須惠器 提瓶	口 9.9 胴 20.8	前庭部 No2・12・26	①砂粒を多く含む ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。頸部に列点刺突を施す。体部 回転篋削り。裏面 回転篋削り。弱いカキ目。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
23 579	須惠器 提瓶	口 7.6 底 14.6	前庭部 No37	①緻密 ②還元焰・やや軟質 ③灰白7.5Y8/2	全体が摩耗している。右回転ロクロ整形。体部 回転篋削り。内面 篋ナデ。	
24 580	須惠器 提瓶	破片	前庭部 No9・6	①白色鈹物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。裏面 回転篋削り。カキ目。列点刺突。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
25 581	須惠器 平瓶	口 6.2 高 17.3	前庭部 No1・5・8・9・14・27・29	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	環状の耳2個。右回転ロクロ整形。底～体部回転篋削り。口縁部及び肩部に2条の沈線を巡らす。良く焼締まり、厚い緑色の降灰釉が掛かる。	
26 582	須惠器 平瓶	破片	北西部墳丘	①砂粒を多く含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5G6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。	

27 583	須恵器 平瓶	破片	前庭部 No12	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転削り。焼締まり、降灰軸が掛かる。口縁部に別の個体が膠着している。
28 584	須恵器 甕	口 47.6	東側墳丘 前庭部 No36・37	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	外面 平行叩き。口唇部に櫛描波状文。口縁部を縦線文で埋める。 内面 青海波文。
29 585	須恵器 甕	口 18.9	東側墳丘	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗オリーブ灰	外面 平行叩き。口唇部に櫛描波状文。 内面 青海波文。
30 586	土師器 坏	口 12.5	前庭部	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 体部手持ち篋削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。

2号墳出土遺物観察表(第154図、図版155)

番号	器種	残存 法量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 698	ガラス玉	6.3×5.1 重さ 0.338	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、扁平な形を呈する。	
2 699	ガラス玉	3.8×3.0 重さ 0.06	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
3 700	ガラス玉	4.0×2.1 重さ 0.039	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
4 701	ガラス玉	3.9×2.3 重さ 0.047	玄室中	マリンプルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
5 702	ガラス玉	3.5×1.8 重さ 0.037	玄室中	マリンプルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
6 703	ガラス玉	3.6×1.4 重さ 0.037	玄室中	マリンプルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
7 704	ガラス玉	3.5×1.5 重さ 0.037	玄室中	シアン。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
8 705	ガラス玉	3.6×2.0 重さ 0.017	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、扁平な形を呈する。	
9 706	ガラス玉	4.8×3.0 重さ 0.1	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
10 707	ガラス玉	3.4×1.5 重さ 0.034	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
11 708	ガラス玉	3.7×2.6 重さ 0.075	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
12 709	ガラス玉	3.9×1.2 重さ 0.033	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
13 710	ガラス玉	4.0×2.0 重さ 0.044	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
14 711	ガラス玉	3.7×2.3 重さ 0.047	玄室中	ターコイスグリーン。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
15 712	ガラス玉	4.1×4.4 重さ 0.097	玄室中	黄色。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
16 713	ガラス玉	4.2×3.0 重さ 0.065	玄室中	黄色。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、扁平な形を呈する。	
17 714	ガラス玉	3.9×3.0 重さ 0.066	玄室中	ブルジャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
18 715	ガラス玉	3.8×1.9 重さ 0.03	玄室中	青緑色。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
19 716	ガラス玉	4.2×2.4 重さ 0.049	玄室中	ピーコックブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
20 717	耳環	18.70×16.95 重さ 4.3	玄室中	径4.0×4.5mmの楕円形の銅棒に筒状の金の薄板を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、1.5mm程の切れ目を持つ珠状に曲げたもの。	
21 718	鉄器	13×30	玄室中	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。軸の一端欠損。	
22 719	鉄器	17.5×18.5	玄室中	花卉状を呈し、中央に穿孔が認められるが、用途不明。	
23 720	鉄鏃	27×9.5	玄室中	長頸鏃の破片。	

24 721	鉄鏝	78×10	玄室中	長頸鏝の茎部。	
25 722	刀	20×35	玄室中	平造。棟幅6.5mmで、丸棟か？	
26 723	鉄器	78.5×15	玄室中	錆化が著しく、詳細不明。刀子或は長頸鏝の破片と考えられる。	
27 724	鉄器 刀装具		玄室中	鏝と考えられる。長さ22mmで、25×34mmの倒卵形を呈し、中央部に刀身形の透孔が認められる。	
28 725	鉄器 刀装具		玄室中	長さ9mmで、15×21mmの倒卵形を呈すると考えられる。刀子の柄口金具の可能性が高い。	
29 726	鉄器 馬具		玄室中	鉸具立開素環鏡板付轡。長さ約164mmの二連銜の先環に鏡板と一本引手を取り付ける。左側が全体に大振りで、引手長167mm、鏡板最大幅64.2mm、銜長94.65mm。	

3号墳出土埴輪観察表 (第158~166図・図版109~120)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1057	円筒	高 (17.2) 底 14.3	テラス 埴輪列 No1	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
2 1058	円筒	高 (12.2) 底 15.4	テラス 埴輪列 No2	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③黄橙7.5YR8/8	外面 16	外面 縦刷毛。剝離が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
3 1059	円筒	高 36.4 口 24.3 底 14.0	テラス 埴輪列 No3	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③鈍橙7.5YR7/3	外面 11 内面 9	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.2×7.0)。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
4 1060	円筒	高 (17.2) 底 13.1	テラス 埴輪列 No4	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙10YR8/4	外面 9 内面 7	外面 縦刷毛。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
5 1061	円筒	高 32.0 口 27.0 底 14.9	テラス 埴輪列 No5	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙10YR8/4	外面 11 内面 12	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.5×7.5)。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
6 1062	円筒	高 (32.0) 底 13.4	テラス 埴輪列 No6	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 14 内面 13	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.2×6.0)。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
7 1063	円筒 胎土No3	高 37.0 口 28.0 底 14.5	テラス 埴輪列 No7	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 11 内面 13	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×6.0)。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
8 1064	円筒	高 (31.2) 底 14.3	テラス 埴輪列 No8	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③橙5YR7/8	外面 11 内面 12	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.4×6.8)。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
9 1065	円筒	高 (34.0) 底 13.3	テラス 埴輪列 No9	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 6 内面 6	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×7.2)。 内面 左上がり斜め刷毛後に基部は丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部に篋記号「×」
10 1066	円筒	高 (26.0) 底 15.0	テラス 埴輪列 No10	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 7 内面 7	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (7.0×8.5)。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
11 1067	円筒	高 37.6 口 30.0 底 15.2	テラス 埴輪列 No11	①細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙7.5YR7/6	外面 11 内面 14	外面 縦刷毛。半円透孔 (5.6×7.1)。 内面 左上がり斜め刷毛。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	口縁部に三角形透孔
12 1068	円筒	高 37.0 口 22.9 底 15.7	テラス 埴輪列 No.12	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 19 内面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×7.4)。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色塗彩。篋記号「×」
13 1069	円筒	高 (15.2) 底 13.2	テラス 埴輪列 No13	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 14	外面 雑なC種横刷毛。剝離が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
14 1070	円筒	高 34.4 口 25.9 底 13.7	テラス 埴輪列 No14	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙7.5YR8/6	外面 14 内面 12	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.5×6.9)。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
15 1071	円筒	高 31.8 口 23.4 底 14.4	テラス 埴輪列 No15	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×7.0)。 内面 左上がり斜め刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色塗彩。小円形透孔
16 1072	円筒 胎土No5	高 (28.8) 底 14.1	テラス 埴輪列 No16	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/6	外面 17	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.3×8.0)。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	

17 1073	円筒	高 口 底	36.4 25.8 13.6	テラス 埴輪列 No17	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙7.5YR8/6	外面 12 内面 9	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.3×6.2)。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
18 1074	円筒	高 底	(27.2) 15.3	テラス 埴輪列 No18-2	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 14 内面 10	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (7.2×7.2)。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩
19 1075	円筒	高 底	(22.4) 14.4	テラス 埴輪列 No19	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 8 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
20 1076	円筒	高 口 底	35.6 27.8 14.7	テラス 埴輪列 No20	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③鈍橙5YR7/4	外面 11 内面 11	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×6.5)。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
21 1077	円筒	高 底	(33.6) 14.6	テラス 埴輪列 No21	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 14 内面 17	外面 2・3段にB種横刷毛。横長の円形透孔 (7.2× 6.8)。内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
22 1078	円筒	高 底	(18.0) 15.6	テラス 埴輪列 No22	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	外面 14 内面 12	外面 B種刷毛。剥離が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	黒斑が認め られる
23 1079	円筒	高 口 底	36.4 26.7 14.0	テラス 埴輪列 No23	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③橙7.5YR7/6	外面 13 内面 10	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.2×6.4)。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。	
24 1080	円筒	高 底	(25.6) 14.9	テラス 埴輪列 No24	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 6	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×7.0)。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部に篋 記号「×」
25 1081	円筒 胎土No4	高 口 底	34.4 24.3 14.9	テラス 埴輪列 No25	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR7/6	外面 15 内面 14	外面 縦刷毛。口縁部を除きB種横刷毛。横長の円 形透孔 (6.5×7.5)。内面 左上がり斜め刷毛後に縦 方向指ナデ。底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩。篋記 号「×」
26 1082	円筒	高 口 底	36.8 27.1 14.8	テラス 埴輪列 No26	①細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③黄橙7.5YR8/8	外面 12 内面 11	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.5×6.7)。内面横 方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。底面 右回り接合。 植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩
27 1083	円筒	高 底	(27.2) 14.3	テラス 埴輪列 No27	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	外面 15 内面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.5×7.1)。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
28 1084	円筒	高 口 底	35.0 23.6 13.2	テラス 埴輪列 No28	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 11 内面 11	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.5×6.0)。 内面 横方向刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩。篋記 号「㊦」
29 1085	円筒	高 底	(32.0) 14.3	テラス 埴輪列 No29	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③灰黄褐10YR5/2	外面 14 内面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.3×7.1)。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
30 1086	円筒	高 底	(19.2) 13.6	テラス 埴輪列 No30	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 17	外面 縦刷毛。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
31 1087	円筒	高 底	(30.2) 15.3	テラス 埴輪列 No31	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/3	外面 11 内面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.2×6.2)。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
32 1088	円筒	高 口 底	35.2 25.7 13.9	テラス 埴輪列 No32	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③鈍橙10YR7/3	外面 13 内面 10	外面 縦刷毛。円形透孔 (6.1×6.1)。 内面 横方向刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
33 1089	円筒	高 口 底	36.0 27.3 14.8	テラス 埴輪列 No33	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙7.5YR8/4	外面 12 内面 9	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.3×6.8)。内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。底面 左回り接 合。植物圧痕。	
34 1090	円筒	高 口 底	36.2 27.8 15.1	テラス 埴輪列 No34	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③鈍橙5YR7/4	外面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.1×7.8)。 内面 横方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
35 1091	円筒	高 口 底	33.8 22.7 13.3	テラス 埴輪列 No35	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙7.5YR8/4	外面 14 内面 10	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.2×5.4)。 内面 横方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
36 1092	円筒	高 底	(26.8) 15.5	テラス 埴輪列 No36	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。横長の円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	

37 1093	円筒	高 底	(26.8) 11.0	テラス 埴輪列 No.37	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③黄橙7.5YR8/8	外面 17 内面 14	外面 縦刷毛。縦長の半円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
38 1094	円筒	高 底	(22.4) 14.2	テラス 埴輪列 No.38	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③黄橙7.5YR8/8	外面 7	外面 縦刷毛。横長の円形透孔。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
39 1095	円筒	高 口 底	36.8 26.1 14.7	テラス 埴輪列 No.39	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③黄橙7.5YR5/8	外面 12 内面 11	外面 縦刷毛。横長の円形透孔(5.6×6.5)。 内面 横方向刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
40 1096	円筒	高 底	(16.0) 13.8	テラス 埴輪列 No.40	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8		外面 縦刷毛。剥離が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
41 1097	円筒	高 底	(18.4) 14.2	テラス 埴輪列 No.41	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 9	外面 縦刷毛。剥離が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
42 1098	円筒	高 口 底	37.4 28.0 14.9	テラス 埴輪列 No.42	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 12 内面 13	外面 縦刷毛。横長の円形透孔(6.1×7.3)。 内面 横方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
43 1099	円筒	高 底	(19.2) 14.7	テラス 埴輪列 No.43	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	外面 7 内面 9	外面 縦刷毛。剥離が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
44 1100	円筒	高 底	(13.0) 14.2	テラス 埴輪列 No.44	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③黄橙7.5YR8/8	外面 6	外面 縦刷毛。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
45 1101	円筒	高 口 底	35.0 27.0 13.7	テラス 埴輪列 No.46	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③黄橙7.5YR8/8	外面 12 内面 12	外面 縦刷毛。横長の円形透孔(6.1×7.0)。 内面 横方向刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
46 1330	円筒	高 底	(17.3) 17.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/4	外面 6 内面 6	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
47 1331	円筒	高 口 底	36.0 21.7 12.7	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	外面 10 内面 9	外面 縦刷毛。横長の円形透孔(6.0×7.5)。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩。篋記 号「×」
48 1332	円筒	高 口 底	37.3 21.8 13.8	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 14 内面 15	外面 縦刷毛。横長の円形透孔(7.0×7.8)。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩。篋記 号「×」
49 1333	円筒 胎土No.6	高 口 底	35.0 34.5 13.9	テラス 埴輪列 No.31・32・51・ 52	①細砂を多く含む ②還元焰・硬質 ③灰5Y1/6	外面 14 内面 11	外面 縦刷毛。円形透孔。 内面 横方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	焼歪みが著 しい
50 1334	朝顔	高	(12.8)	周堀覆土中	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙7.5YR8/4	外面 13 内面 14	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。	
51 1335	円筒	高	(23.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③淡赤橙2.5YR7/4	外面 7 内面 6	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。	口縁部赤色 塗彩
52 1336	朝顔	高 底	(53.2) 14.5	周堀覆土中	①細砂を多く含む ②還元焰・硬質 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 内面	外面 縦刷毛。大小の横長の円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
53 1337	朝顔	高 底	(49.5) 16.9	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 内面	外面 縦刷毛。横長の円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	肩部以上に 赤色塗彩

3号墳出土遺物観察表(第167図)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 587	土師器 坏	口 11.7	北側周堀 No.48	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	内外面共に剥離が著しい。 外面 体部手持ち篋削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	
2 588	土師器 坏	口 12.2	北側周堀 No.48	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	内外面共に剥離が著しい。 外面 体部手持ち篋削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	

3 589	土師器 坏	口 13.0	北側周堀 No48・78	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	内外面共に剥離が著しい。 外面 体部手持ち篋削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	
4 590	土師器 坏	口 12.8	北側周堀 覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	内外面共に剥離が著しい。内斜口縁。 外面 体部手持ち篋削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	
5 591	土師器 甕	口 11.4	北側周堀 覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍い黄橙10YR7/2	外面 体部篋ナデ。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	
6 592	土師器 高坏	坏部欠損 底 11.1	北側周堀 No.48	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面の剥離が著しい。 外面 篋ナデ。3方向に径7mmの穿孔。 内面 ナデ。	
7 593	土師器 高坏	坏部欠損 底 14.3	北側周堀 No48・49	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	内外面共に剥離が著しい。 外面 篋ナデ。 内面 ホゾ接合。ナデ。	
8 594	土師器 高坏	坏部欠損 底 13.5	北側周堀 No49	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面の剥離が著しい。 外面 篋ナデ。 内面 ナデ付け接合。ナデ。	
9 595	土師器 高坏	脚部欠損 口 15.8	北側周堀 No49	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	内外面共に剥離が著しい。 外面 体部手持ち篋削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	10と同一個 体か
10 596	土師器 高坏	坏部欠損 底 13.0	北側周堀 No49	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面の剥離が著しい。 外面 篋ナデ。 内面 ホゾ接合。ナデ。	9と同一個 体か

4号墳出土埴輪観察表(第171図・図版121)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1102	円筒	高 35.4 口 19.3 底 13.8	周堀 No1	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 13 内面 10	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔(5.5×4.5)。基部板 押え調整。内面 縦方向刷毛。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
2 1103	円筒	高 (20.0) 底 12.7	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。基部板押え調整。内面 縦方向刷毛 後に雑な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
3 1104	円筒	高 (25.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。基部板押え調整。 内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
4 1105	円筒	高 (6.5) 底 11.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 15 内面 11	外面 縦刷毛。基部板押え調整。 内面 縦方向刷毛。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
5 1106	円筒	高 (7.7) 底 12.5	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 12 内面 16	外面 縦刷毛。基部板押え調整。 内面 縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
6 1107	円筒	高 (12.8) 底 13.1	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 8 内面 11	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
7 1108	朝顔	高 (37.6) 底 13.1	周堀 No2	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 9 内面	外面 縦刷毛。横長の円形透孔(4.0×5.3)。 内面 縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
8 1109	朝顔	底 16.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	外面 9 内面 9	外面 縦刷毛。肩部横方向刷毛。基部に粘土板製作 時の横刷毛が残る。内面 縦方向刷毛。底面 右回 り接合。植物圧痕。	図上復元

4号墳出土形象埴輪観察表(第172図)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1110	形象 人物頭部	高 (5.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		内外面共にナデ調整。頂部には何か剝がれた痕跡が 残る。女性か?	
2 1111	形象 家形	高 (6.0)	周堀 No3	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4		内外面共にナデ調整。家形埴輪の壁の一部と考えら れる。	

3 1112	形象 家形	高 (3.5)	周堀 No1	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐7.5YR5/6	外面 16 内面 14	内外面共に刷毛調整。表面に篋描きの鋸歯文が認められる。家形埴輪の屋根の一部と考えられる。	
4 1113	形象 人物腰部	高 (5.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	外面 8	外面 縦刷毛。内面 縦方向指ナデ。半身像の人物埴輪の衣服の裾。性別不明。	
5 1114	形象 家形	高 (4.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 14	内外面共に刷毛調整。裏面は剝離が著しい。表面に篋描きの弧文が2条認められる。家形埴輪の屋根の一部と考えられる。	
6 1115	形象 家形	高 (6.0)	周堀 No2	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 10 内面 14	内外面共に刷毛調整。表面に篋描きの弧文が2条認められる。家形埴輪の屋根の一部と考えられる。	

4号墳出土遺物観察表 (第173図、図版146・147)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 597	須恵器 坏蓋	口 15.1 高 5.0	前庭部	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。口縁部横ナデ。焼締まり、降灰釉が掛かる。	図上復元
2 598	須恵器 高坏	口 10.5	前庭部	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y4/1	右回転ロクロ整形。体部の2条凸帯間に列点刺突を施す。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
3 599	須恵器 小型壺	胴 8.3	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転ロクロ整形。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
4 600	須恵器 高坏	高 (12.3)	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。体部が2段になる。脚部の3方向に長方形透孔。	
5 601	須恵器 高坏	底 10.2	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	右回転ロクロ整形。長脚の3方向に二段透孔。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
6 602	須恵器 平瓶	口 5.8 高 11.5	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。底部内面に8箇所篋状の刺突がある。口縁部3段接合。	
7 603	須恵器 平瓶	口 7.8 高 12.8	前庭部	①礫を少し含む ②還元焰・やや軟質 ③灰10Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。口縁部3段接合。2条の沈線を施す。	
8 604	須恵器 長頸瓶?	胴 15.2	前庭部	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。肩部に列点刺突を施す。	
9 605	須恵器 平瓶	頸 4.0	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ7.5Y6/2	右回転ロクロ整形。体部3段接合。頸部に沈線が1条巡る。	
10 606	須恵器 平瓶	口 8.5	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。一部に手持ち篋削り痕跡が残る。体部3段接合。頸部から1段開いて口縁部に至る。	
11 607	須恵器 提瓶	口 11.6 高 30.6	前庭部	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。底面に明瞭なカキ目が残る。	
12 608	須恵器 横瓶	胴 18.7	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転ロクロ整形。底面手持ち篋削り。焼締まり、降灰釉が掛かる。	

4号墳出土遺物観察表 (第174図、図版156)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 727	圭頭大刀 把頭	長さ 70	集石中	金銅製。径22×43mmの倒卵形を呈する。幅8mmの縁金の中央には幅1mm程の沈線が認められる。列点文は内側から打ち出しているが、意匠は不明。木質部に釘が遺存。	
2 728	鉄器 刀装具	長さ 47	主体部 No5	鞘尻金具。径18×24mmの倒卵形を呈する。	
3 729	刀子	長さ 26	主体部 No1	平造。幅2.5mmの平棟で鋒はフクラヤや付く。	

4 730	ガラス玉	7.3×5.2 重さ 0.394	石室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	
5 731	滑石製品	長さ 45 重さ 10.03	周堀中 No 2	有孔円盤。厚さ4mmで、径1.5mmの孔が2個認められる。	
6 732	滑石製品	長さ 40 重さ 5.03	周堀中 No 3	有孔円盤。厚さ2.5mmで、径1.5mmの孔が1個認められる。	

5号墳出土土輪観察表〈第177図・図版121・122〉

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1116	円筒	高 (14.3) 口 19.5	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/4		外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 縦方向指ナデ。 内外面に剥離が著しい。	
2 1117	円筒	高 (15.0) 口 21.5	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 10 内面 12	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。	
3 1118	円筒	高 (15.6) 底 12.0	西側周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12	外面 縦刷毛。削りによる基部調整。内面 縦方向指ナデ。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
4 1119	円筒 胎土No 9	高 (16.8) 底 11.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR	外面 10	外面 縦刷毛。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
5 1120	朝顔	高 (6.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 8	外面 縦刷毛。 内面 剥離が著しい。	
6 1121	朝顔	高 (7.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 6	外面 縦刷毛。 内面 縦～横方向指ナデ。	
7 1122	形象 人物顔	高 (4.1)	西側周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR6/6		左目の一部と鼻。刺突により鼻孔を表現している。	
8 1123	形象 人物頸部	高 (4.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		粘土玉を貼り付けて一連の首飾りを表現している。	
9 1124	形象 人物顔	高 (3.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		右顎部分。	
10 1125	形象 人物顔	高 (5.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6		左顎と口の一部。	
11 1126	形象	高 (5.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		表面に線刻が認められる。家形土輪の屋根の一部と考えられる。	
12 1127	形象 人物右腕	高 (7.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 8	腕の付け根付近の破片であるが、手は胸の近くに置かれていたと考えられる。	
13 1128	形象 人物	高 (5.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		上げ髻。左右不明。	
14 1129	形象 人物右頬	高 (6.9)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6		顎の盛り上がりと右目の一部。	
15 1130	形象 人物耳	高 (7.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		粘土を盛り上げて耳朵を作り、別の粘土玉を貼り付けて耳飾りを表現している。左右不明。	
16 1131	形象 人物	高 (6.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 14	左肩～胸付近の破片。2連の首飾りを表現した粘土玉の剥離痕が認められる。	
17 1132	形象 人物右腕	高 (11.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 14	腰の近くまで手を下げて何かを握っていた状態を表現している。	18とセットと考えられる

18 1133	形象 人物左腕	高 (12.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10	腰の近くまで手を下ろし掌を体に付けていた状態を表現している。	17とセットと考えられる
19 1134	形象 人物頭部	高 (6.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		表面の剝離が著しく、前後不明。	20とセットと考えられる
20 1135	形象 人物	高 (6.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		潰し島田髷の破片。	19とセットと考えられる

5号墳出土遺物観察表〈第178図、図版148〉

番号	器種	残存法 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 609	須恵器 提瓶	頸部 3.6	周堀覆土中	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・やや軟質 ③暗オリーブ灰5GY4/1	右回転ロクロ整形。2条の沈線が認められる。	
2 610	須恵器 蓋	口 9.1	周堀覆土中	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	右回転ロクロ整形。天井部回転削り。体部と肩部に2条の沈線が巡る。	
3 611	須恵器 縁	肩部破片	周堀覆土中	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY5/1	右回転ロクロ整形。肩部の沈線の下部に列点刺突が施される。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
4 612	須恵器 縁	口縁部破片	周堀覆土中	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY5/1	右回転ロクロ整形。2条の沈線の上部に細線が施される。焼締まる。	
5 613	須恵器 縁	口縁部破片	周堀覆土中	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転ロクロ整形。ラッパ状に開く口縁部の上下に細線が施される。焼締まる。	6と同一個体か
6 614	須恵器 縁	頸部破片	周堀覆土中	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗オリーブ灰5GY4/1	右回転ロクロ整形。刀子状工具による細線が認められる。焼締まる。	5と同一個体か
7 615	須恵器 甕	口 20.5	周堀覆土中	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	外面 体部平行叩き。口縁部の2条沈線の上下に15本1単位の櫛描波状文が巡る。内面 青海波文。焼締まる。	
8 616	須恵器 甕	口 25.4	周堀覆土中	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY5/1	外面 体部叩き。口縁部2条沈線の上下及び口唇部に6条1単位の櫛描波状文が巡る。内面 青海波文。焼締まり、降灰釉が掛かる。	

6号墳出土埴輪観察表〈第183図、図版123〉

番号	器種	法 量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/ 2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1136	円筒 胎土No11	高 40.0 口 21.2 底 12.4	周堀覆土中	①礫・細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/4	外面 11	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔(6.5×5.7)。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部内面に 寛記号 「×」
2 1137	円筒	高 (30.0) 口 22.3	周堀覆土中	①礫・細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/3	外面 10 内面 9	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。	
3 1138	円筒 胎土No10	高 (25.2) 口 21.3	周堀覆土中	①礫・細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR7/4	外面 8 内面 8	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔(7.5×6.2)。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。	
4 1139	形象 家?	高 (9.5)	周堀覆土中	①礫・細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 14	裏面の剝離が著しい。表面に寛描き細線が認められる。家形埴輪の屋根の一部と考えられる。	

6号墳出土遺物観察表〈第184図、図版156〉

番号	器種	残存法 法 量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 733	鉄鎌	38.5×17.5 重さ 2.8	玄室中 No 1	無茎長三角形鎌。鎌身の中央部に穿孔が認められる。	
2 734	鉄鎌	24.5×14.5 重さ 1.2	玄室中 No 3	無茎長三角形鎌。逆刺部欠損。矢柄の痕跡が残る。鎌身の中央部に穿孔が認められる。	

3 735	鉄鏝	33×21 重さ 3.0	玄室中 No 2	無茎長三角形鏝。先端部欠損。矢柄の痕跡が残る。鏝身の中央部に穿孔が認められる。
4 736	鉄器	25×34	玄室中 No 4	刀身の剝離したものの可能性が考えられるが詳細は不明。
5 737	銅製品	長さ 42 重さ 4.06	北東周堀墳丘 境	和釘状製品。先端部欠損。
6 738	ガラス玉	3.5×1.8 重さ 0.033	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は、加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
7 739	ガラス玉	4×2.8 重さ 0.057	玄室中	ピーコックブルー。管切法による製作。両断面は、加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
8 740	ガラス玉	4.2×2.3 重さ 0.057	玄室中	橙色。管切法による製作。両断面は、加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
9 741	ガラス玉	4.4×2.5 重さ 0.064	玄室中	薄緑。管切法による製作。両断面は、加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
10 742	ガラス玉	3.9×2.4 重さ 0.036	玄室中	若竹色。管切法による製作。両断面は、加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。

7号墳出土埴輪観察表 (第193図・図版123)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1140	円筒 胎土No12	高 (13.3) 底 11.2	テラス 埴輪列 No1	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		外面 縦刷毛。削りによる基部調整。 内面 縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
2 1141	円筒	高 (13.2) 底 11.4	テラス 埴輪列 No2	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10	外面 縦刷毛。基部板押え。内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。粘土板製作時の横刷毛が僅かに残る。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
3 1142	円筒 胎土No13	高 (13.2) 底 11.8	テラス 埴輪列 No3	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 11 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
4 1143	円筒	高 (10.2) 底 13.2	テラス 埴輪列 No4	①礫・細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR6/4	外面 12	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
5 1144	円筒 胎土No14	高 (12.3) 底 14.9	テラス 埴輪列 No5	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面 10	外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。粘土板製作時の横刷毛が残る。底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
6 1145	円筒	高 (11.2) 底 12.2	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
7 1146	円筒	高 (13.7) 底 14.4	北東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 接合不明。細かい植物圧痕。	
8 1147	形象 基部?	高 (13.5) 底 15.3	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
9 1148	円筒	高 (13.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 12	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 縦方向刷毛。	
10 1149	円筒	高 (8.9)	南東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。	
11 1150	円筒	高 (4.4)	南東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 7 内面 6	外面 縦刷毛。 内面 指ナデ。	
12 1151	円筒	高 (5.1)	南東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10 内面	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に指ナデ。	
13 1152	円筒	高 (5.5)	南東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍赤褐5YR5/4	外面 11 内面 13	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。	
14 1153	円筒	高 (4.1)	北東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR6/4	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。	

15 1154	朝顔	高 (6.3)	北東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に指ナデ。	
16 1155	朝顔	高 (9.1)	北東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明褐7.5YR5/6	外面 10 内面 9	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に指ナデ。	

7号墳出土形象埴輪観察表〈第194図・図版123・124〉

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1156	形象 髷	高 (20.6)	南東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12 内面 11	内外面共に刷毛調整。表面中央部の透孔の周囲に円形の線刻と放射状態の線刻が認められる。	
2 1157	形象 髷	高 (23.2)	南東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面 13 内面 13	内外面共に刷毛調整。表面中央部の透孔の周囲に円形の線刻と放射状態の線刻が認められる。外縁部に赤色塗彩。	
3 1158	形象 靴	高 (4.6)	北東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12 内面 14	内外面共に刷毛調整。表面に線刻による鎌が認められる。	
4 1159	形象 靴	高 (11.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12	表面に粘土紐を貼り付けた4本の鎌が認められる。裏面には補強に使用した粘土の剝離痕が平行して認められる。	
5 1160	形象 大刀	高 (9.2)	北東側	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10	表面には鈴が貼り付けられ、裏面には補強に使用した粘土の剝離痕が認められる。大刀の勾金の上端部と考えられる。	
6 1161	形象 基部	高 (66.2) 底 15.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 11	外面 縦刷毛。内面 丁寧な指ナデ。凸帯の近くに円形の透孔。形象埴輪の基部と考えられるが種別を特定できる資料は無い。	
7 1162	形象 盾	高 (10.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		内外面共にナデ調整。直線状の表面に線刻が3本認められる。盾形埴輪の右上隅と考えられる。	
8 1163	形象 盾	高 (8.3)	南東周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6		内外面共にナデ調整。表面に弧状の線刻が2条認められる。盾形埴輪の右下隅部と考えられる。	
9 1164	形象 人物	高 (7.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	内面 10	表面に線刻が認められる。人物埴輪の衣服表現の一部と考えられる。裏面には半円形に近い剝離痕が認められる。	

7号墳出土遺物観察表〈第195・196図・図版157・158〉

番号	器種	残存 法量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 743	鉄鎌	長さ 134.5 重さ 9.4	玄室中 No 1	片丸造柳葉形長頸鎌。棘状区。茎部長23mm。鎌身先端部欠損。	
2 744	鉄鎌	長さ 134 重さ 9.1	玄室中	片丸造柳葉形長頸鎌。棘状区。茎部先端欠損。	
3 745	鉄鎌	長さ 119 重さ 6.6	玄室中	長頸鎌。鎌身部欠損。棘状区。茎部長24mm。	
4 746	鉄鎌	長さ 112 重さ 8.7	玄室中	長頸鎌。鎌身部欠損。棘状区。茎部長22mm。	
5 747	鉄鎌	長さ 76.5 重さ 6.6	玄室中	長頸鎌。鎌身部欠損。棘状区。茎部長15mm。	
6 748	鉄鎌	長さ 99.5 重さ 6.7	玄室中 No 2	片丸造柳葉形長頸鎌。茎部欠損。鎌身9×21mm。	
7 749	鉄鎌	長さ 159 重さ 10.7	玄室中	片丸造柳葉形長頸鎌。棘状区。茎部長42mm。鎌身9×26mm。	
8 750	鉄鎌	長さ 156.5 重さ 10.2	玄室中	長頸鎌。鎌身部の剝離が著しい。棘状区。茎部長45mm。	
9 751	鉄鎌	長さ 129 重さ 9.4	玄室中	長頸鎌。鎌身部欠損。台形区。茎部長57mm。	
10 752	鉄鎌	長さ 106 重さ 7.4	玄室中	片丸造柳葉形長頸鎌。棘状区。茎部欠損。鎌身11×29mm。	

11 753	鉄鏃	長さ 82 重さ 5.9	玄室中	長頸鏃。鏃身部欠損。棘状区。茎部長42mm。	
12 754	鉄鏃	長さ 53 重さ 3.4	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏃。茎部欠損。鏃身 9×19mm。	
13 755	鉄鏃	長さ 82 重さ 5.0	玄室中	片切刃造方頭形鏃。鏃身先端部が僅かに欠損。12×17mm。頸部無区。	
14 756	刀子	長さ 38	玄室中	平造。棟幅 3mm。鋒は端部欠損するが、元張ってフクラ枯れる。	15と同一個体か？
15 757	刀子	長さ 58	玄室中	平造。区はなだらか。端部欠損。	14と同一個体か？
16 758	刀	長さ 124	玄室中	刀の茎部破片。	
17 759	鉄器	長さ 43	玄室中	刀の区部の可能性が考えられるが詳細は不明。	
18 760	刀	長さ 419	玄室中	平造小刀。棟幅6mmの平棟で、背区幅 3mmで、刃区はなだらか。背区の下部に径 4mmの鑷本孔が認められる。鋒はフクラやや付く。	
19 761	刀	長さ 720	玄室中	平造大刀。棟幅 8mmの平棟で、背区幅 2mm・刃区幅 5mmで共に直。茎の中央部に鉄目釘が残る。径 5mmの鑷本孔が認められる。	
20 762	刀	長さ 22	玄室中 No 3	刀の茎部破片。鉄目釘が残る。	
21 763	鉄器 刀装具		玄室中 No 7	径40×56mmの倒卵形を呈すると考えられる。側面に銀象嵌が認められるが、意匠は不明。	
22 764	ガラス玉	8.4×6.9 重さ 0.625	玄室中	プルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	

8号墳出土埴輪観察表《第199図・図版125》

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1165	円筒	高 39.0 口 21.9 底 13.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/8	外面 9 内面 11	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔(5.5×4.5)。基部板押え。内面 縦方向指ナデ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	口縁部内面に窠記号「ㄣ」
2 1166	円筒	高 (16.0) 底 13.6	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 9 内面 10	外面 縦刷毛。基部板押え調整。内面 左上がり斜め刷毛後に雑な縦方向指ナデ。底面 接合方向不明。	
3 1167	円筒	高 (10.8) 口 21.7	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 8	外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛後に雑な縦方向指ナデ。	
4 1168	円筒	高 (13.2) 底 13.1	北側周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 12	外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛後に雑な縦方向指ナデ。底面 接合方向不明。	
5 1169	円筒 胎土No15	高 (9.3) 底 10.2	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10	外面 縦刷毛。基部板押え調整。内面 縦方向指ナデ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
6 1170	円筒	高 (12.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 12	外面 縦刷毛。内面 横方向刷毛。縦方向指ナデ。	
7 1171	朝顔	高 (12.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10 内面 12	外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。	
8 1172	朝顔	高 (12.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5/6	外面 12 内面 12	外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。	
9 1173	朝顔	高 (8.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5/6	外面 9	外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛。	口縁部内面に窠記号「ㄣ」
10 1174	形象 人物	高 (6.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		頸部破片。首飾り4個が認められる。	
11 1175	形象	高 (7.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		人物埴輪の衣服の表現と考えられる。	

12 1176	形象 靴	高 (7.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		線刻により3本の矢が表現されている。	
13 1177	形象 靴	高 (5.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR6/4	外面 14	幅7mm程の粘土紐を貼り付けて2本の矢が表現されている。	
14 1178	形象 家	高 (7.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	内面 10	屋根或は壁の表現と考えられる。	

8号墳出土遺物観察表〈第200図・図版148〉

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 618	土師器 坏	口 12.5 高 3.4	南側周堀	①砂粒を多く含む ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	外面 底部～体部手持ち寛削り。口縁部横ナデ。 内面 丁寧なナデ。口縁部横ナデ。	
2 619	須恵器 甕	口 (21.8)	南側周堀	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/2	外面 体部平行叩き。5条の細線が5段巡る。口縁部凸帯の上下に7～8条1単位の櫛描波状文が2段ずつ巡る。内面 青海波文。	

9号墳出土埴輪観察表〈第206図・図版125〉

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1338	朝顔	高 (47.6) 底 14.5	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR7/6	外面 9 内面 6	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔(5.2×4.7)。基部板押し調整。粘土板製作時の横刷毛が残る。内面 縦方向刷毛。底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
2 1339	朝顔	高 (37.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/8	外面 9	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔(5.6×5.2)。内面 左上がり斜め刷毛後に雑な縦方向指ナデ。	

9号墳出土埴輪観察表〈第207図・図版126・127〉

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1179	形象 家	長 19.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		壁材の隅部と考えられる。	
2 1180	形象 家	高 (17.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		切妻屋根の上部と考えられる。	
3 1181	形象 家	高 (11.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10	屋根材の一部。	
4 1182	形象 家	高 (10.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10	屋根材の一部。	
5 1183	形象 家	高 (10.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		屋根材の一部。	
6 1184	形象 家	高 (14.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍赤褐5YR5/4	外面 10	屋根材の一部。	
7 1185	形象 家	高 (20.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10	屋根～壁材の一部で、方形の入り口が表現されている。	
8 1186	形象	高底 (6.7) 7.3	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10 内面 16	種別不明。	
9 1187	形象	高 (5.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6		大刀の矢視の接合部分の可能性が考えられるが、種別不明。	

10 1188	形象 人物?	高 (6.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		人物埴輪の衣服表現の一部の可能性が考えられる。	
11 1189	形象 盾	高 (6.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 12 内面 14	右上隅部の破片。	

9号墳出土遺物観察表(第208・209図、図版148～150)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 620	須恵器 坏蓋	口 13.4	南西部周堀 No. 4・6	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰白2.5Y8/1	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。	
2 621	須恵器 坏	口 13.0 底 8.0 高 3.0	南西部周堀 No.17	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。	
3 622	須恵器 坏	口 14.4 底 9.2 高 3.9	南西部周堀	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
4 623	須恵器 平瓶	底 10.2 胴 20.0 頸 4.6	南西部周堀 No.27	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ7.5Y6/2	右回転ロクロ整形。外面 底部～体部下半は回転篋削り。肩部凸帯上部に5～6条1単位の櫛描波状文が巡る。内面回転によるナデ。	被熱により 軟化
5 624	須恵器 平瓶	胴 14.2	南西部周堀	①砂粒を少し含む ②還元焰・硬質 ③灰白5Y7/2	右回転ロクロ整形。肩部の1条沈線間に8条1単位の櫛描波状文が巡る。降灰釉が厚く掛かる。	
6 625	須恵器 提瓶?	最大径 13.0	南西部周堀	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰5Y6/1	右回転ロクロ整形。外面 カキ目が残る。内面 回転によるナデ。焼締まる。	
7 626	須恵器 高坏	最大径 10.6	南西部周堀	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ7.5Y5/2	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
8 627	須恵器 高坏	高 (7.9)	南西部周堀 No.4	①砂粒を含む ②還元焰・やや軟質 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。透孔は認められない。	
9 628	須恵器 平瓶	胴 21.2 頸 6.2	南西部周堀	①緻密 ②還元焰・軟質 ③灰白10Y7/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。	器表が摩耗 している
10 629	須恵器 平瓶	胴 21.9 頸 8.2	南西部周堀 No.8・23 No.19～21	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ5Y6/2	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。3段接合。焼締まり、降灰釉が厚く掛かる。円形浮文は1個のみ。	
11 630	須恵器 蓋	つまみ	南西部周堀	①砂粒を多く含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り後、径3.5cm・高さ2.0cmのつまみを貼り付ける。焼締まる。	
12 631	須恵器 蓋	口 15.0	南西部周堀 No.13 No.15～17	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	右回転ロクロ整形。肩部に1条の沈線が巡る。天井部は1段低くなる。焼締まる。	つまみ復元
13 632	須恵器 短頸壺	口 10.0 高 16.5 底 12.1	南西部周堀 No.10・13 No.15・16	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転ロクロ整形。体部回転篋削り。肩部に1条の沈線が2本巡る。底面は高台貼り付け後、強いナデ。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
14 633	須恵器 短頸壺	胴 19.8	南西部周堀	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・やや軟質 ③灰オリーブ5Y6/2	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。肩部に浅い沈線が2条巡る。底面は高台貼り付け後、強いナデ。	
15 634	須恵器 壺	口 14.6	南西部周堀 No.27・29 No.56	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰5G5/1	外面 体部下半平行叩き。上半部は右回転による強いナデ。内面 青海波文。	
16 635	須恵器 提瓶	口 9.0	石室内部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・やや軟質 ③灰オリーブ5Y6/2	右回転ロクロ整形。	
17 636	須恵器 提瓶	口 15.0 底 6.2 高 36.0	南西部周堀 No.4・6 No.8	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	外面 平行叩き。口縁部に沈線が2条巡る。内面 青海波文。焼締まり、降灰釉が掛かる。	

18 637	須恵器 提瓶	口 9.2 高 24.8	南西部周堀 No.3・5 No.6・8	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	右回転ロクロ整形。体部3段接合。外面に明瞭なカキ目が残る。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
-----------	-----------	-----------------	---------------------------	----------------------------------	--	--

9号墳出土遺物観察表 (第210図、図版158・159)

番号	器種	残存 法量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 765	鉄鏃	長さ 23.5 重さ 0.7	玄室中	無茎長三角形鏃。幅12.5mm。矢柄の痕跡が残る。	
2 766	鉄鏃	長さ 34	玄室中	長頸鏃。鏃身部・茎端部欠損。台形区。	
3 767	鉄器	長さ 29	玄室中	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。管部に木質付着。	
4 768	鉄器	長さ 30	玄室中	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。軸の一端欠損。管部に木質付着。	
5 769	鉄器 刀装具		玄室中	刀子の鞘口金具と考えられる。長さ9mmで、径15×21mmの倒卵形を呈すると考えられる。	
6 770	鉄器 刀装具		玄室中 No.19	鐙縁金具と考えられる。厚さ3.5mmで、23.5×39mmの倒卵形を呈する。	
7 771	鉄器 刀装具		玄室中 No.3	鍔付足金物。径27.5×31mmの楕円形を呈すると考えられる。	
8 772	刀子	長さ 41	玄室中 No.4	平造。刃幅10mm。幅3.5mmの平棟で、鋒はフクラやや付く。	
9 773	刀	長さ 50	玄室中 No.9	小刀の茎部破片。径4mmの鉄目釘が残る。	
10 774	刀	長さ 108	玄室中	刀身部の剥離が著しい。直の両区造で、区幅3mm。	
11 775	土玉	9.4×7.1 重さ 0.714	玄室中 No.18	黒。土製品と考えられる。	
12 776	土玉	9.5×7.2 重さ 0.715	玄室中 No.27	黒。土製品と考えられる。	
13 777	ガラス玉	12×8.5	玄室中 No.15	グリーン・白。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。表面銀化。鉛ガラス。表面の一部剥離。	
14 778	ガラス玉	10.5×7.0	玄室中 No.5	白。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。表面銀化。鉛ガラス。	
15 779	ガラス玉	10.5×6.5	玄室中 No.6	白。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。表面銀化。鉛ガラス。表面の一部剥離。	
16 780	ガラス玉	9.3×6.2 重さ 1.004	玄室中 No.26	コバルトグリーン。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。鉛ガラス。表面の殆ど剥離。	
17 781	ガラス玉 破片		玄室中	コバルトグリーン。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。鉛ガラス。	
18 782	ガラス玉 破片		玄室中	コバルトグリーン。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。鉛ガラス。	
19 783	ガラス玉 破片		玄室中	コバルトグリーン。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。鉛ガラス。	

11号墳出土埴輪観察表 (第220～224図・図版127～130)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1190	円筒 胎土No.17	高 (22.4) 底 13.0	テラス 埴輪列 No.1	①礫・細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/3	外面 11 内面 11	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
2 1191	円筒 胎土No.18	高 (21.6) 底 15.9	テラス 埴輪列 No.2	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12 内面 12	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
3 1192	円筒	高 (17.2) 底 13.9	テラス 埴輪列 No.3	①礫・細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/4	外面 13 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
4 1193	円筒 胎土No.19	高 (20.0) 底 16.5	テラス 埴輪列 No.4	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 16 内面 12	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	

5 1194	円筒	高底 (15.6) 16.4	テラス 埴輪列 No.5	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 15 内面 14	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
6 1195	円筒	高底 (19.2) 16.0	テラス 埴輪列 No.6	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/6	外面 13 内面 12	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
7 1196	円筒	高底 (22.4) 15.9	テラス 埴輪列 No.7	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12 内面 14	外面 縦刷毛。内面 横～左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
8 1197	円筒	高底 (20.0) 15.9	テラス 埴輪列 No.8	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 15 内面 15	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
9 1198	円筒	高底 (21.6) 16.4	テラス 埴輪列 No.9	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 13	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 剥離が著しい。縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
10 1199	円筒	高底 (21.2) 15.5	テラス 埴輪列 No.10	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 14 内面 13	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
11 1200	円筒	高底 (22.0) 16.2	テラス 埴輪列 No.11	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 13 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
12 1201	円筒	高底 (22.8) 15.9	テラス 埴輪列 No.12	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10 内面 11	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
13 1202	円筒	高底 (22.8) 15.6	テラス 埴輪列 No.13	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 13 内面 13	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
14 1203	円筒	高底 (16.8) 15.6	テラス 埴輪列 No.14	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 13 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
15 1204	円筒	高底 (15.6) 15.9	テラス 埴輪列 No.15	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4	外面 14 内面 13	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
16 1205	円筒	高底 (17.6) 15.0	テラス 埴輪列 No.16	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/4	外面 13 内面 11	外面 縦刷毛。 内面 横～左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
17 1206	円筒	高底 (20.4) (13.2)	テラス 埴輪列 No.17	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR7/3	外面 12 内面 8	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
18 1207	円筒	高底 (20.8) 13.6	テラス 埴輪列 No.18	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/3	外面 11	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
19 1208	円筒 胎土No.20	高底 (20.0) 14.7	テラス 埴輪列 No.19	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR7/4	外面 12 内面 13	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
20 1209	円筒	高底 (19.2) 14.4	テラス 埴輪列 No.20	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 14 内面 13	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
21 1210	円筒 胎土No.21	高底 (22.8) 14.7	テラス 埴輪列 No.21	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 8 内面 7	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
22 1211	円筒	高底 (26.0) 16.8	テラス 埴輪列 No.22	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/4	外面 14 内面 11	外面 縦刷毛。 内面 横～左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。粘土幅5.5cm。植物圧痕。	
23 1212	円筒	高底 (20.0) 15.8	テラス 埴輪列 No.23	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 13 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
24 1213	円筒	高底 (16.0) 15.2	テラス 埴輪列 No.24	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 13	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 剥離が著しい。縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	

25 1214	円筒	高 底	(24.8) 16.0	テラス 埴輪列 No25	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③黄橙7.5YR7/8	外面 16 内面	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 剥離が著しい。縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
26 1215	円筒	高 底	(26.8) 16.0	テラス 埴輪列 No26	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/6	外面 14 内面 12 底面	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 剥離が著しい。左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
27 1216	円筒	高 底	(26.0) 15.8	テラス 埴輪列 No27	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 13 内面 底面	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 剥離が著しい。縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
28 1217	円筒	高 底	(21.6) 15.9	テラス 埴輪列 No28	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 16 内面 底面	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 剥離が著しい。縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
29 1340	円筒	高 口 底	55.0 38.3 23.5	南西部周堀	①礫・細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙10YR8/3	外面 7 内面 8 底面	外面 縦刷毛。2・3段目に円形透孔。口縁部赤色塗 彩。内面 横～左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。粘土板2枚使用か？植物圧痕。	
30 1341	円筒	高 底	(26.0) 17.2	南西部周堀	①礫・細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙7.5YR8/4	外面 13 内面 11 底面	外面 縦刷毛。3段目に透孔。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
31 1342	朝顔	高	(10.0)	周堀覆土中	①礫・細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③浅黄橙7.5YR8/3	外面 7 内面 7	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。	
32 1343	朝顔	高	(27.8)	南西部周堀	①礫・細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③鈍黄橙10YR7/4	外面 12 内面 9	外面 縦～左上がり斜め刷毛。 内面 縦長の円形透孔(6.5×5.5) 内面 左上がり斜め刷毛後に強い縦方向指ナデ。	
33 1344	朝顔	高	(29.5)	南西部周堀	①礫・細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③鈍黄橙10YR7/3	外面 6 内面 6	外面 縦～左上がり斜め刷毛。 内面 横長の円形透孔(6.5×5.2)。肩～頸部に赤色塗彩。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。	

11号墳出土遺物観察表(第225図・図版150)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 638	須恵器 坏蓋	口 19.0	南東部周堀 No41	①緻密 ②還元焰・やや軟質 ③灰黄2.5Y7/2	右回転クロコ整形。	9号墳の遺物の可能性が高い
2 639	土師器 高坏	口 18.4	南東部周堀	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	外面 丁寧なナデ。 内面 放射状暗文。	27号住の遺物の可能性が高い
3 640	土師器 高坏	小破片	南東部周堀	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③赤褐10Y4/3	外面 体部下半手持ち篋削り。 内面 丁寧なナデ。	27号住の遺物の可能性が高い
4 641	土師器 高坏	脚部破片	南東部周堀	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	脚部内面に接合時のナデつけ痕跡が明確に残る。	27号住の遺物の可能性が高い
5 642	土師器 甕	口 16.7	南東部周堀	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③にぶい赤2.5YR5/4	外面 手持ち篋削り。口縁部横ナデ。 内面 体部上半篋削り。口縁部横ナデ。	27号住の遺物の可能性が高い
6 643	須恵器 甕	口 20.3	南東部周堀 No23・31・ 32・36・38	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰5GY6/1	外面 平行叩き。口唇部に列点刺突。 内面 青海波文。	9号墳の遺物の可能性が高い
7 1335	須恵器 羽釜	口 21.4	周堀覆土中	①砂粒を多く含む ②還元焰・やや軟質 ③灰オリーブ5Y6/2	右回転クロコ整形。体部下半縦方向篋削り。	

12号墳出土埴輪観察表(第235図)

番号	器種	法 量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1218	円筒	高 底	(10.4) 20.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 14 内面 12 底面	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。
2 1219	円筒	高	(19.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 12 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。

3 1220	円筒	高 (26.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。	
4 1221	朝顔	高 (7.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 15	外面 縦刷毛。 内面 横方向指ナデ。	
5 1222	円筒	高 (12.7)	西側周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 12 内面 14	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 縦方向指ナデ。	

12号墳出土埴輪観察表 (第236図・図版130~132)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1223	形象 馬	高 (7.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		左頬。口の切り込みと径12mmの鼻孔が認められる。 鼻面までふさぐタイプ。	
2 1224	形象 馬	高 (8.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		右回転クロコ整形類。口の切り込みが認められる。 鼻面をふさいだ粘土の剝離痕が有る。	
3 1225	形象 馬	高 (11.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12	人物の右頬。口の切り込みが僅かに残り、赤色塗彩 が認められる。	
4 1226	形象 馬	高 (7.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		頬。素環鏡板と引手の表現が認められるが、左右不 明。	
5 1227	形象 馬	高 (10.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		左頬。轡の引手の端部と面繫の辻金具の表現が認め られる。赤色塗彩が残る。	
6 1228	形象 馬	高 (7.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		左頬。轡の引手の端部の表現が認められる。赤色塗 彩が残る。	
7 1229	形象	高 (4.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		立髪。	
8 1230	形象	高 (5.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/4		立髪。	
9 1231	形象	高 (8.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/4		立髪。	
10 1232	形象 胎土№80	高 (30.0)	東南部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4		胸繫と2個の馬鐸及び右足の付け根の一部の表現が 認められる。赤色塗彩が残る。	
11 1233	形象	高 (20.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		右腰部。鞍と杏葉の表現が認められる。赤色塗彩が 残る。	
12 1234	形象	高 (15.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		左腰部。鞍と三鈴杏葉の表現が認められる。	
13 1235	形象 胎土№23	高 (20.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		腹部。左右の足の付け根及び性器の表現が認められ る。	
14 1236	形象	高 (15.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		頸部付近の破片と考えられる。	
15 1237	形象	高 (4.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明黄褐		不明。	
16 1238	形象	高 (5.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		不明。	

17 1239	形象	高 (6.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/6		尾。筒状の粘土を絞り込んでいる。	
18 1240	形象	高 (9.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6		尾。筒状の粘土を絞り込んでいる。	
19 1241	形象	高 (8.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR6/4		輪鏡。左右不明。	
20 1242	形象	高 (7.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		辻金具。部位不明。赤色塗彩が残る。	

12号墳出土埴輪観察表《第237図・図版132・133》

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/ 2 cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1243	形象 人物	高 (9.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6		顔。性別不明。鼻と両目及び口の表現の一部が認められる。赤色塗彩が残る。鼻孔は認められない。	
2 1244	形象 人物	高 (7.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6		顎。赤色塗彩が残る。	
3 1245	形象 人物	高 (3.9)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR3/4		顔。鼻と両目の表現の一部が残る。鼻孔は認められない。	
4 1246	形象 人物	高 (5.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/3		女性像の胸部破片。	
5 1247	形象 人物	高 (4.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/4		耳。穿孔した周囲に粘土紐を貼付けて耳朶を表現している。左右不明。	
6 1248	形象 人物	高 (5.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR6/4		上げ髷。左右不明。	
7 1249	形象 人物	高 (12.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6		下げ髷。右側か？。	
8 1250	形象 人物	高 (9.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		左腕。手首に2個の鈴の表現が残る。姿態不明。	
9 1251	形象 人物	高 (8.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR7/3		左腕。姿態不明。	
10 1252	形象 人物	高 (7.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		左腕。胸の付近に掌を置くと考えられる。11と対の可能性有り	
11 1253	形象 人物	高 (16.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好③鈍黄 橙10YR7/4		右腕。胸の付近に掌を置くと考えられる。	10と対の可能性有り
12 1254	形象 人物	高 (9.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③淡黄2.5YR8/3		右腕。胸の付近に掌を置くと考えられる。	13と対の可能性有り
13 1255	形象 人物	高 (10.9)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR7/4		左腕。胸の付近に掌を置くと考えられる。	12と対の可能性有り
14 1256	形象 人物	高 (4.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR7/4		右掌。	
15 1257	形象 人物	高 (5.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6		腕の付け根部分。左右不明。	

16 1258	形象 人物	高 (4.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明黄褐10YR7/6		腕の付け根部分。右腕の可能性が高い。	
17 1259	形象 人物	高 (10.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR7/4	外面 18	倚座像の腰部の可能性が考えられるが、詳細不明。	

12号墳出土土輪観察表 (第238図・図版133)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/ 2 cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1260	形象 家	高 (12.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		切妻屋根の棟部の破片。赤色塗彩が残る。	
2 1261	形象 家	高 (4.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		鯉木。	
3 1262	形象 不明	高 (8.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/4		不明。	

12号墳出土遺物観察表 (第239~242図・図版160~165)

番号	器種	残存 法量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 784	鉄鏃	40.5×25 重さ 4.9	玄室中	無茎五角形鏃。	
2 785	鉄鏃	22.5×22 重さ 3.1	玄室中 No. 56	無茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。	
3 786	鉄鏃	33×23.5 重さ 3.9	玄室中 No. 28	無茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。	
4 787	鉄鏃	24.5×17 重さ 1.1	玄室中 No. 10	無茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。	
5 788	鉄鏃	32×21.5 重さ 2.0	玄室中 No. 45	無茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。	
6 789	鉄鏃	25.5×18.5 重さ 1.7	玄室中 No. 40	無茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。	
7 790	鉄鏃	38.5×22.5 重さ 3.0	玄室中 No. 38	無茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。重扶りの逆刺。	
8 791	鉄鏃	38.5×22.5 重さ 4.7	玄室中 No. 33	無茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。重扶りの逆刺。	
9 792	鉄鏃	33×26 重さ 3.6	玄室中 No. 3	無茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。重扶りの逆刺。	
10 793	鉄鏃	24×21 重さ 1.9	玄室中 No. 22	無茎五角形鏃。重扶りの逆刺。	
11 794	鉄鏃	26×23.5 重さ 2.3	玄室中	無茎五角形鏃。重扶りの逆刺。	
12 795	鉄鏃	19.5×22 重さ 1.4	玄室中 No. 32	無茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。	
13 796	鉄鏃	35.5×21.5 重さ 2.9	玄室中	無茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。重扶りの逆刺。	
14 797	鉄鏃	25.5×13 重さ 1.3	玄室中 No. 34	無茎五角形鏃。	
15 798	鉄鏃	19.5×19 重さ 1.2	玄室中	無茎五角形鏃。	
16 799	鉄鏃	35×25.5 重さ 4.6	玄室中	短茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。重扶りの逆刺。	
17 800	鉄鏃	38×35 重さ 5.1	玄室中 No. 4	短茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。重扶りの逆刺。	
18 801	鉄鏃	31×19.5 重さ 1.6	玄室中	短茎五角形鏃。鏃身の中央部に穿孔。重扶りの逆刺。	
19 802	鉄鏃	22.5×33.5 重さ 2.5	玄室中	短茎五角形鏃。重扶りの逆刺。	

20 803	鉄鏃	30×24.5 重さ 1.7	玄室中 No29	短茎五角形鏃。重快りの逆刺。	
21 804	鉄鏃	35.5×19.5 重さ 1.95	玄室中 No9	短茎五角形鏃。重快りの逆刺。	
22 805	鉄鏃	84×12	玄室中 No5	片丸造柳葉形長頸鏃。頸部に独立した逆刺を持ち、区部に口巻金具が認められる。	
23 806	鉄鏃	57×10	玄室中 M-8	片丸造柳葉形長頸鏃。頸部に独立した逆刺を持つ。	
24 807	鉄鏃	43×8.5	玄室中 No39	片丸造柳葉形長頸鏃。	
25 808	鉄鏃	52×13.5	玄室中	長頸鏃。頸部に独立した逆刺を持ち、区部に口巻金具が認められる。	
26 809	鉄鏃	68×13	玄室中 No17・50	長頸鏃。頸部に独立した逆刺を持ち、区部に口巻金具が認められる。	
27 810	鉄鏃	65×13	玄室中 No57	長頸鏃。頸部に独立した逆刺を持ち、区部に口巻金具が認められる。	
28 811	鉄鏃	34×12	玄室中	長頸鏃。区部に口巻金具が認められる。	
29 812	鉄鏃	48.5×11	玄室中 No14	長頸鏃。区部に口巻金具が認められる。	
30 813	鉄鏃	107×9	玄室中	片丸造長頸鏃。鏃身部・と茎の端部欠損。台形区。	
31 814	鉄鏃	69×7	玄室中 No2	長頸鏃。台形区。	
32 815	鉄鏃	46.5×9	玄室中	長頸鏃。台形区。矢柄の痕跡が認められる。	
33 816	鉄鏃	25×8	玄室中 No15	片丸造三角形長頸鏃。頸部以下欠損。	
34 817	鉄鏃	18.5×8	玄室中	片丸造三角形長頸鏃。頸部以下欠損。	
35 818	鉄鏃	22×9.5	玄室中 No51	片丸造柳葉形長頸鏃。頸部以下欠損。	
36 819	鉄鏃	21×8.5	玄室中 No49	片丸造柳葉形長頸鏃。頸部以下欠損。	
37 820	鉄鏃	22×9	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏃。頸部以下欠損。	
38 821	鉄鏃	22×7.5	玄室中	片丸造片刃形長頸鏃。頸部以下欠損。	
39 822	鉄器 刀装具	15×11	玄室中	刀子の柄口金具と考えられる。	
40 823	鉄器	長さ 27	玄室中	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれている。	
41 824	鉄器	長さ 29	玄室中	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれている。	
1 825	鉄器	76×12	前室中 M-6 M-29	幅5.5mm・厚さ1.5mmの鉄帯に、頭部を銀装して径4mmの鉄製円頭鉾が密に打たれている。長さ約9mmの鉾の脚には木質が残る。鞍の装飾に使用された可能性が有る。	形状は様々であるが検出された破片の総延長は98.35cm
2 826	鉄器	77.5×10	前室中 M-23	幅5.5mm・厚さ1.5mmの鉄帯に、頭部を銀装して径4mmの鉄製円頭鉾が密に打たれている。長さ約9mmの鉾の脚には木質が残る。鞍の装飾に使用された可能性が有る。	
3 827	鉄器	6.5×74	前室中 M-6 M-29	幅5.5mm・厚さ1.5mmの鉄帯に、頭部を銀装して径4mmの鉄製円頭鉾が密に打たれている。長さ約9mmの鉾の脚には木質が残る。鞍の装飾に使用された可能性が有る。	
4 828	鉄器	21×40	前室中 M-19	幅5.5mm・厚さ1.5mmの鉄帯に、頭部を銀装して径4mmの鉄製円頭鉾が密に打たれている。長さ約9mmの鉾の脚には木質が残る。鞍の装飾に使用された可能性が有る。	
5 829	鉄器	19×27	前室中 M-6 M-29	16~23mmの間隔を空けた鉄板を両頭の鉾で連結している。鉾には木質が付着しているが、用途不明。	
6 830	鉄器	21×40	前室中 M-19	小型の鉾。	
7 831	鉄器 馬具	41×62.5	前室中 M-30	鞍。端部欠損。一本の材を中央から折り曲げ、端部をT字形に開いて刺金と軸とを作り、緑金の間に挟み込んでいる。	
8 832	鉄器 馬具	66.5×40	前室中 M-9	鞍。端部を折り曲げて鞍に固定したと考えられる。	
9 833	鉄器	44.5×64.5	前室中 No28	鉾具。緑金の間に挟み込んだ軸に鉄棒を挿めて刺金としている。	

10 834	鉄器	29×47.5	前室中 M-3	鉸具。環状の縁金の一辺に鉄棒を揃めて刺金としている。	
11 835	鉄器		前室中	鉸具。環状の縁金の一辺に鉄棒を揃めて刺金としている。	
12 836	鉄器	17.5×28.5	前室中 M-25	責金具。断面甲丸形の鉄棒の上面に縄目が刻まれており、銀の薄板が被せられている。2個が錆付いていることから、使用時にも二重にして用いた	
13 837	鉄器	26×14	前室中 No12	責金具。断面甲丸形の鉄棒の上面に縄目が刻まれており、銀の薄板が被せられている。	14とセットで使用か？
14 838	鉄器	26×6	前室中 No12	責金具。断面甲丸形の鉄棒の上面に縄目が刻まれており、銀の薄板が被せられてい	13とセット
15 839	鉄器	32×27.5	前室中 M-8	不明。裏面に2本の銚の痕が残る。	
16 840	鉄器	14.5×24.5	前室中 M-22	爪形飾り金具。鉄地金銅張。径5mmの銀被円頭銚2個で留める。	
17 841	鉄器	16×24	前室中 M-26	爪形飾り金具。鉄地金銅張。径5mmの銀被円頭銚2個で留める。	
18 842	鉄器 馬具	19×30.5	前室中	鞍座金具。心葉形の下部に円頭銚3個と2個の穿孔の一部が認められる。	
19 843	馬具	16×14.5	前室中 M-13	爪形飾り金具。鉄地金銅張。径5mmの銀被円頭銚で留める。左上隅の面取りが大きく、やや不整形。	
20 844	鉄器	18×19.5	前室中 M-27	鉄地金銅張。花形の飾り金具。中央に銚の痕が残る。	
21 845	鉄器	22×20.5	前室中	不明。周縁部欠損。1本の銚痕が残る。	
22 846	金銅製品	26×15	前室中	旧態は筒状を呈していたと思われるが、潰れており、用途不明。	
23 847	鉄器 馬具	62×62	前室中 M-21	無脚半球形杏葉。鉄地に金銅板を被せ、銀を被せた8個の花形銚で留めて、列点文を施している。中央に二重の6葉文を刻み、周縁部に列点波状文を巡らしている。	
24 848	鉄器 馬具	59×59	前室中 M-2	無脚半球形杏葉。鉄地に金銅板を被せ、銀を被せた8個の花形銚で留めて、列点文を施している。中央に二重の6葉文を刻み、周縁部に列点波状文を巡らしている。	
25 849	鉄器 馬具	61×59.5	前室中 M-11	無脚半球形杏葉。鉄地に金銅板を被せ、銀を被せた8個の花形銚で留めて、列点文を施している。中央に二重の6葉文を刻み、周縁部に列点波状文を巡らしている。	
26 850	鉄器 馬具	108.5×110	前室中 M-14	無脚半球形雲珠。鉄地に金銅板を被せ、銀を被せた8個の花形銚で留めて、列点文を施している。中央に一重の6葉文を刻み、周縁部に列点波状文を巡らしている。	
27 851	鉄器 馬具		前室中	木製壺錠は欠けているが、鉸具と10連の兵庫鎖からなる錠鞆。兵庫鎖の中間にC字形の金具を入れる。	
28 852	鉄器 馬具	44.5×106.5	前室中 No1	錠に付く鉸具と兵庫鎖。鉸具は縁金の間に通した軸に刺金を揃めている。	
29 853	鉄器 馬具	137×37	前室中 M-1 M-4	木製壺錠の飾り金具か。内側から文様を打ち出している。	
30 854	鉄器 馬具	115.5×17.5	前室中	木製壺錠。先端が細くなり3本の銚が残る。	
31 855	鉄器 馬具	19.5×144.5	前室中 No8	木製壺錠。先端が細くなり3本の銚が残る。	
32 856	鉄器 馬具		前室中 M-24	角状兵庫鎖立開素環鏡板付轡。長さ約181mmの二連銜の先環に径74.2～77.1mmの鏡板を取り付け、別造の引手壺を持った引手と兵庫鎖の立開を付ける。左銜が長い。	全体的に右側がやや大

12号墳出土遺物観察表《第243～245図、図版151・152》

番号	器種	残存法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 644	須恵器 坏蓋	口高	15.0 4.3	副室 No36	①黒色鈳物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY6/1	右回転クロコ整形。天井部回転篋削り。内面 回転によるナデ。	2とセットをなす
2 645	須恵器 坏身	口高	13.0 5.4	副室 No3	①黒色鈳物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY6/1	右回転クロコ整形。底部回転篋削り。内面 回転によるナデ。	1とセットをなす

3 646	須恵器 坏蓋	口 高	14.8 4.4	副室 No31	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	4とセット をなす
4 647	須恵器 坏身	口 高	12.8 5.2	副室 No12	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	3とセット をなす
5 648	須恵器 坏蓋	口 高	12.0 4.3	副室 No37	①緻密 ②還元焰・硬質 ③明オリーブ灰	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。 薄緑色の釉が掛かる。	6とセット をなす
6 649	須恵器 坏身	口 高	10.7 4.7	副室 No29	①緻密 ②還元焰・硬質 ③明オリーブ灰 2.5GY7/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。 薄緑色の釉が掛かる。他のものは降灰釉だが、5と共に刷毛塗り状である。	5とセット をなす
7 650	須恵器 坏蓋	口 高	14.0 3.7	副室 No34	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰N5/	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	8とセット をなす
8 651	須恵器 坏身	口 高	12.0 4.7	副室 No11	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰N5/	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	7とセット をなす
9 652	須恵器 坏蓋	口 高	13.8 4.3	副室 No27	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY6/1	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	10とセット をなす
10 653	須恵器 坏身	口 高	11.8 4.7	副室 No. 6	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY6/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	9とセット をなす
11 654	須恵器 坏蓋	口 高	13.8 4.0	副室 No28	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	12とセット をなす
12 655	須恵器 坏身	口 高	12.3 5.2	副室 No14	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	11とセット をなす
13 656	須恵器 坏蓋	口 高	13.8 4.5	副室 No30	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰7.5GY6/1	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	14とセット をなす
14 657	須恵器 坏身	口 高	12.1 4.7	副室 No. 4	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰7.5GY6/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	13とセット をなす
15 658	須恵器 坏蓋	口 高	14.0 4.8	副室 No17	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰N6/1	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	16とセット をなす
16 659	須恵器 坏身	口 高	11.6 4.7	副室 No2	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰N6/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	15とセット をなす
17 660	須恵器 坏蓋	口 高	14.3 4.7	副室 No33	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	18とセット をなす
18 661	須恵器 坏身	口 高	12.3 5.1	副室 No. 13	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	17とセット をなす
19 662	須恵器 坏蓋	口 高	14.3 5.3	副室 No. 18	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰7.5GY5/1	右回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	20とセット をなす
20 663	須恵器 坏身	口 高	12.1 5.0	副室 No1	①黒色鉍物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰7.5GY5/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。 内面 回転によるナデ。	19とセット をなす
21 664	須恵器 線	口 高	13.6 14.1	副室 No38	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰N4/	右回転ロクロ整形。体部下半手持ち篋削り。体部の孔の周囲は平である。体部と口縁部に細かな櫛波状文を施す。	
22 665	土師器 高坏	口 底 高	12.0 9.0 13.0	副室 No20	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	脚部に三角形透孔を3方向に穿つ。 外面 体部・脚部は丁寧な篋ナデ。口縁部横ナデ。 内面 丁寧なナデ。	

23 666	土師器 高坏	口 底 高	12.5 9.0 12.9	副室 No26	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	脚部に三角形透孔を3方向に穿つ。 外面 体部・脚部は丁寧な篋ナデ。口縁部横ナデ。 内面 丁寧なナデ。
24 667	土師器 高坏	口 底 高	12.0 9.1 12.9	副室 No39	①緻密 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/6	脚部に三角形透孔を3方向に穿つ。外面 体部・脚部は丁寧な篋ナデ。口縁部横ナデ。 内面 丁寧なナデ。
25 668	土師器 直口壺	口 高	10.2 17.1	副室 No24	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR3/3	外面 体部下手持ち篋削り。体部上半～頸部丁寧な篋ナデ。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。
26 669	土師器 直口壺	口 高	12.9 19.6	副室 No23	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 体部手持ち篋削り。口縁部丁寧な篋ナデ。口唇部は強い横ナデ。 内面 ナデ。底面に篋の痕跡が残る。

12号墳出土遺物観察表〈第243～245図・図版151・152〉

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 670	土師器 高坏	底 9.0	東側周堀中	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	外面 丁寧な篋ナデ。 内面 脚部も丁寧にナデている。	
2 671	土師器 甕	口 底 高	18.8 6.6 33.2	東側周堀中	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	外面 底部・体部縦方向の手持ち篋削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。口縁部横ナデ。

14号墳出土遺物観察表〈第251図・図版153〉

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 672	須恵器 提瓶	口 8.0	前庭右側石 組み付近	①白色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗緑灰10G4/1	右回転クロコ整形。口縁部1条の沈線を施す。焼締まり、 降灰釉が掛かる。	
2 673	土師器 壺	底 5.5	周堀覆土中	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 底部・体部手持ち篋削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	
3 674	須恵器 甕	口 40.4	周堀覆土中	①黒色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗緑灰10G4/1	頸部補強帯を持つ。2条の沈線で区画し、7～8条1単位 の櫛描波状文を施す。口唇部は強い横ナデ。 焼締まり、降灰釉が掛かる。	
4 675	須恵器 甕	口 31.0	周堀覆土中	①黒色鉾物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗緑灰10G4/1	頸部補強帯を持つ。1条の沈線で区画し、8条1単位 の櫛描波状文を施す。頸部に縦方向の櫛目が残る。口唇部は強 い横ナデ。焼締まり、降灰釉が掛かる。	

14号墳出土遺物観察表〈第252・253図・図版166・167〉

番号	器種	残存 法量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 857	鉄鏃	53.5×24.5 重さ 5.6	玄室中 No 4	無茎長三角形鏃。鏃身の中央部に穿孔が認められる。矢柄の痕跡が残る。	
2 858	鉄鏃	40×29 重さ 7.2	玄室中	無茎長三角形鏃。鏃身の中央部に穿孔が認められる。	
3 859	鉄鏃	長さ 52	玄室中	平造長三角形短頸鏃。鏃身端部欠損。	
4 860	鉄鏃	長さ 31	玄室中	長頸鏃。棘状区。鏃身部・茎端部欠損。	
5 861	鉄鏃	長さ 53	玄室中	長頸鏃。棘状区。鏃身部・茎端部欠損。	
6 862	鉄鏃	長さ 90	羨道部	長頸鏃。棘状区。鏃身部欠損。茎端部欠損。	
7 863	鉄鏃	長さ 26	玄室中 No66	長頸鏃。鏃身部欠損。無区。鏃身幅7.5mm。	
8 864	鉄鏃	長さ 15	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏃。鏃身部下半欠損。	
9 865	鉄鏃	長さ 27	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏃。浅い逆刺。鏃身12×20.5mm。	
10 866	鉄鏃	長さ 40	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏃。撫区。鏃身11×19mm。	

11 867	鉄鏝	長さ 36	玄室中 No 9	両丸造柳葉形長頸鏝。鏝身端部欠損。	
12 868	鉄鏝	長さ 32	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏝。鏝身の剝離が著しい。	
13 869	鉄鏝	長さ 72	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏝。無区。鏝身幅9.0mm。	
14 870	鉄鏝	長さ 55	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏝。無区。鏝身幅8.5mm。	
15 871	鉄鏝	長さ 56	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏝。鏝身部の剝離が著しい。	
16 872	鉄鏝	長さ 41	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏝。鏝身先端・頸部下半欠損。	
17 873	鉄鏝	長さ 69	玄室中 No8	長頸鏝。鏝身の剝離が著しい。	
18 874	鉄鏝	長さ 40	玄室中	長頸鏝。鏝身部・茎端部欠損。	
19 875	鉄鏝	長さ 36	玄室中 No47	長頸鏝。台形区。鏝身部・茎端部欠損。	
20 876	鉄器	長さ 30	玄室中 No20	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。	
21 877	鉄器	長さ 35	玄室中 No20	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。管は殆ど残っていない。	
22 878	鉄器	長さ 26	玄室中 No20	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。軸の一端欠損。	
23 879	鉄器	長さ 26	玄室中 No20	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。管は殆ど残っていない。	
24 880	鉄器	長さ 30	玄室中 No20	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。軸の一端欠損。	
25 881	鉄器 刀装具		玄室中 No46	長さ15.5mmで、径30×37mmの倒卵形を呈する。鏝と考えられる。	
26 882	鉄器 刀装具		玄室中 No74	鞘尻金具。径24×33mmの楕円形の円盤に、長さ11mmの釧目釘が2本付く。	
27 883	鉄器 刀装具		玄室中 No12	鏝。厚さ5mmで、径38×45mmの倒卵形を呈する。側面に銀象嵌が認められるが、意匠は不明。	
28 884	耳環	27×30 重さ 22.3	玄室中 No61	径7mmの銅棒に筒状の金の薄板を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、2.5mm程の切れ目を持つ球状に曲げたもの。	
29 885	耳環	20×22 重さ 10.1	玄室中 No14	径4×7.5mmの楕円形の銅棒に筒状の金の薄板を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、1.5mm程の切れ目を持つ球状に曲げたもの。	
30 886	馬具	120×140	玄室中 No15・19	有脚半球形雲珠。鉄地金銅張。周縁部に3条の沈線が認められ、楕円形を呈すると考えられる。頂部に花卉文が認められるが全体の意匠は不明。	
31 887	馬具	75×55	玄室中 No 5	有脚半球形雲珠。鉄地金銅張。周縁部に3条の沈線が認められ、楕円形を呈すると考えられる。頂部に花卉文が認められるが全体の意匠は不明。4脚か？	
32 888	馬具	25×26	玄室中 No 3	有脚半球形雲珠。鉄地金銅張。楕円形を呈すると考えられる。	
33 889	馬具	80×80	玄室中 No23	九曜文花形杏葉。鉄地金銅張。径6.5mmの金被円頭釘で留めているが、錆化のために浮き上がって下地と金銅板がずれている。	
34 890	馬具	22×32	玄室中 No 2	爪形飾り金具。鉄地金銅張。径7.5mm・長さ11mm程の金被円頭釘2個。	
35 891	紡錘玉	79×9 重さ 0.804	玄室中 No13	アイボリー。水晶製。片側穿孔。	
36 892	ガラス玉	11.1×10 重さ 1.73	玄室中 No13	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	
37 893	ガラス玉	9.7×8.6 重さ 1.138	玄室中 No. 94	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	
38 894	ガラス玉	9×6.2 重さ 0.753	玄室中 No13	ブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	
39 895	ガラス玉	8.2×5.4 重さ 0.575	玄室中 No13	ウルトラマリン。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	
40 896	ガラス玉	8.1×7.2 重さ 0.881	玄室中 No77	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	
41 897	ガラス玉	8.2×5.6 重さ 0.610	玄室中 No13	ブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	

42 898	ガラス玉	8.8×5.2 重さ 0.547	玄室中 No97	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
43 899	ガラス玉	8.1×6.2 重さ 0.644	玄室中 No83	ブルシャンプルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
44 900	ガラス玉	8.1×6.2 重さ 0.580	玄室中 No95	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
45 901	ガラス玉	8.3×6.1 重さ 0.654	玄室中 No13	ブルシャンプルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
46 902	ガラス玉	8.6×5.8 重さ 0.568	玄室中 No98	ブルシャンプルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
47 903	ガラス玉	8.1×6 重さ 0.592	玄室中 No99	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
48 904	ガラス玉	8.3×5.1 重さ 0.55	玄室中 No41	ウルトラマリン。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
49 905	ガラス玉	8.2×4.8 重さ 0.524	玄室中 No96	ウルトラマリン。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
50 906	ガラス玉	8.4×4.2 重さ 0.492	玄室中 No42	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
51 907	ガラス玉	7.7×5.0 重さ 0.483	玄室中 No13	ブルシャンプルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
52 908	ガラス玉	7.2×7.4 重さ 0.608	玄室中 No12	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
53 909	ガラス玉	7.8×6.8 重さ 0.63	玄室中 No90	ブルシャンプルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
54 910	ガラス玉	7.6×6.3 重さ 0.554	玄室中 No13	ブルシャンプルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
55 911	ガラス玉	8.1×5.9 重さ 0.581	玄室中 No70	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
56 912	ガラス玉	8.6×5.1 重さ 0.526	玄室中 No92	ブルシャンプルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
57 913	ガラス玉	8×5.1 重さ 0.509	玄室中 No102	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
58 914	ガラス玉	7.4×4.8 重さ 0.401	玄室中 No93	ブルシャンプルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
59 915	ガラス玉	6.9×4.8 重さ 0.323	玄室中 No84	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
60 916	ガラス玉	6.5×3.9 重さ 0.233	玄室中 No40	ブルシャンプルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
61 917	ガラス玉	5.5×4.4 重さ 0.201	玄室中 No91	ピーコックブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
62 918	ガラス玉	4.8×3.5 重さ 0.122	玄室中 No39	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。

15号墳出土遺物観察表 (第257図・図版167)

番号	器種	残存法 量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 919	鉄器 刀装具		玄室中 No2	径約44×36mm・長さ26mmの倒卵形の鏝の破片と考えられる。鞘口側の一端が僅かに外側に折り返されている。	
2 920	耳環	29.35×27.40 重さ 24.9	玄室中 No1	径6.5×8.2mmの楕円形の銅棒に筒状の金の薄板を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、2.5mm程の切れ目を持つ塊状に曲げたもの。	
3 1356	鉄刀	長さ 132.0	玄室中	平造小刀。平棟で、棟区は直で2mm。径3mmの鏝本孔が認められる。茎に柄の木質が僅かに残る。	

17号墳出土埴輪観察表 (第266～268図・図版134～136)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1263	円筒 胎土No24	高 33.2 口 21.5 底 12.0	テラス 埴輪列 No.2	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR7/6	外面 12 内面 10	外面 縦刷毛。半円透孔(4.0×4.0)。内面 縦～左上がり斜め刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
2 1264	円筒	高 (19.6) 底 13.3	テラス 埴輪列 No.3	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 9 内面 12	外面 縦刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	

3 1265	円筒	高底	(13.6) 12.0	テラス 埴輪列 No.4	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/4	外面 10 内面 11	外面 縦刷毛。基部板押え。内面 縦方向刷毛後に丁寧な指ナデ。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
4 1266	円筒	高底	(21.6) 13.3	テラス 埴輪列 No.5	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 12 内面 7	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
5 1267	円筒	高底	(17.2) 12.6	テラス 埴輪列 No.6	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 12 内面 12	外面 縦刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
6 1268	円筒	高底	(16.0) 14.1	テラス 埴輪列 No.7	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR7/6	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
7 1269	円筒	高底	(16.4) 13.9	テラス 埴輪列 No.9	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/8	外面 9 内面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
8 1270	円筒	高底	(10.8) 12.8	テラス 埴輪列 No.10	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 7 内面 7	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
9 1271	円筒	高底	(18.0) 12.6	テラス 埴輪列 No.13	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/8	外面 9 内面 14	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
10 1272	円筒	高底	(21.6) 13.6	テラス 埴輪列 No.14	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/8	外面 8 内面 7	外面 縦刷毛。内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
11 1273	円筒	高底	(20.4) 13.7	テラス 埴輪列 No.15	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 8 内面 11	外面 縦刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
12 1274	円筒 胎土No.25	高底	(29.2) 13.5	テラス 埴輪列 No.16	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 11 内面 9	外面 縦刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
13 1275	円筒	高底	(12.4) 13.4	テラス 埴輪列 No.17	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
14 1276	円筒	高底	(18.8) 14.1	テラス 埴輪列 No.18	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 9 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
15 1277	円筒	高底	(15.2) 11.7	テラス 埴輪列 No.20-1	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 11 内面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
16 1278	朝顔	高	(25.8)	テラス 埴輪列 No.11	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 8 内面 8	外面 縦刷毛。縦長の透孔。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な指ナデ。	肩部に2条の篋記号
17 1279	円筒	高口底	41.2 20.8 15.0	石室内	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/8	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。縦長の透孔 (6.1×5.0)。基部調整。 内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部に2条の篋記号
18 1280	円筒	高口底	36.4 24.4 13.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 13 内面 11	外面 縦刷毛。縦長の透孔 (5.2×5.0)。 内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
19 1281	円筒 胎土No.26	高口底	36.8 20.8 12.4	義道部	①礫・細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 12 内面 13	外面 縦刷毛。縦長の透孔 (5.0×4.6)。基部調整。 内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	胴部に2条の篋記号
20 1345	朝顔	高	(9.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 12	外面 縦刷毛。折り返し口縁。 内面 横方向刷毛。	
21 1346	朝顔	高底	(56.0) 13.7	周堀覆土中	①礫・細砂を含む ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 10 内面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
22 1347	円筒	高底	(22.0) 13.9	前庭	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6	外面 7 内面 6	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	

23 1348	円筒	高底 (26.0) 13.5	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR6/8	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。縦長の透孔。基部調整。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
24 1349	形象基部	高底 (33.6) 15.8	前庭	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐7.5YR5/8	外面 13 内面	外面 縦刷毛。縦長の透孔。 内面 丁寧な指ナデ。基部調整。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
25 1350	円筒	高底 (17.2) 14.1	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 13 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
26 1351	円筒	高口 (26.4) 20.5	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。縦長の透孔 (4.2×4.0)。 内面 縦方向刷毛後に雑な縦方向指ナデ。	
27 1352	円筒	高底 33.0 13.3	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面 10 内面 8	外面 縦刷毛。横長の透孔 (4.0×4.4)。 内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
28 1353	円筒	高底 18.8 14.5	石室内	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 9 内面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	

17号墳出土土輪観察表 (第269図・図版137)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (ノ2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1282	形象人物	高 (12.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12	右腕。	2と対の可能性が高い
2 1283	形象人物	高 (22.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12	左腕及び腰部。柄の表現が一部残る。	1と対の可能性が高い
3 1284	形象人物髻	高 (10.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 10	左側の下げ髻。	4と対の可能性が高い
4 1285	形象人物	高 (7.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8		右側の下げ髻。	3と対の可能性が高い
5 1286	形象人物	高 (8.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR7/3		腕。左右・姿態不明。	
6 1287	形象人物	高 (4.9)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		耳。粘土紐で耳朶を表現し、11×2cmの長方形の穿孔及び2箇所刺突が認められる。	
7 1288	形象人物	高 (7.0)	石室内	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12	衣服の裾部。性別不明。	
8 1289	形象家	高 (11.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 6	壁材の一部と考えられる。	
9 1290	形象家	高 (13.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 7 内面 7	壁材の一部と考えられる。	

17号墳出土遺物観察表 (第270・271図・図版153・154)

番号	器種	残存量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 676	須恵器坏蓋	口 18.0	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・やや軟質 ③オリブ灰2.5GY5/1	右回転クロコ整形。天井部回転篋削り。	
2 677	須恵器坏	口 17.4 底 12.3 高 4.0	羨道部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリブ灰5GY6/1	右回転クロコ整形。底面 回転篋削り。	
3 678	須恵器高坏	口 10.0 底 10.8 高 4.5	前庭部 №70	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰白10Y7/1	右回転クロコ整形。体部下回転篋削り。体部が2段になる。	

4 679	須恵器 高坏	底 11.8	前庭部 No12・13・ 15・21・24・ 38	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗オリーブ灰5GY4/1	右回転ロクロ整形。三角形透孔を3方向に穿つ。脚部外面にカキ目調整。焼締まり、降灰釉が掛かる。
5 680	須恵器 高坏	底 10.2	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。3方向に透孔を穿つ。脚部端部を凸帯状に盛り上げる。
6 681	須恵器 高坏	底 11.0	前庭部 No71	①緻密 ②還元焰・硬質 ③暗緑灰10G4/1	右回転ロクロ整形。三角形透孔を3方向に穿つ。焼締まり、降灰釉が掛かる。
7 682	須恵器 高坏	底 14.4	前庭部	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗オリーブ灰5GY4/1	3方向に透孔を穿つ。2条の沈線を施す。
8 683	土師器 高坏	脚部	羨道部	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	3方向に透孔を穿つ。体部と脚部の接合部に隙間がある。
9 684	土師器 壺	胴 16.0	前庭部	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	内外面ともナデ調整。
10 685	須恵器 甕	口縁部破片	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗緑灰10GY4/1	2条沈線で区画し、6～8条1単位の櫛描波状文を施す。焼締まり、降灰釉が掛かる。
11 686	須恵器 甕	口縁部破片	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY6/1	2条沈線で区画し、6条1単位の櫛描波状文を施す。焼締まり、降灰釉が掛かる。
12 687	須恵器 甕	口縁部破片	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ5Y6/2	9条1単位の櫛描波状文を施す。
13 688	須恵器 甕	口縁部破片	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ7.5Y6/2	10条1単位の横櫛描文を施す。
14 689	須恵器 甕	口縁部破片	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ7.5Y6/2	10条1単位の櫛描波状文を施す。振幅が小さい。
15 690	須恵器 横瓶	口 14.1 高 27.2	前庭部 No1・26・ 50	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY6/1	
16 691	須恵器 台付 長頸壺	口 11.3 底 11.3 高 26.8	前庭部 No29・46	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/2	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。肩部に2条の沈線を施す。降灰釉が掛かる。
17 692	須恵器 高坏	口 15.3	テラス盛土	①緻密 ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転篋削り。体部が2段になる。3方向に透孔を穿つ。焼締まる。
18 693	須恵器 高坏	脚部 底 9.6	テラス盛土	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰N5/	3方向に透孔を穿つ。焼締まり、緑色の降灰釉が厚く掛かる

17号墳出土遺物観察表（第272図、図版167・168）

番号	器種	残存 法 量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 921	鉄鏃	長さ 166 重さ 11.8	玄室中 No 8	長頸鏃。鏃身部は欠損しており、茎部から折れ曲がっている。	
2 922	鉄鏃	長さ 71.5	玄室中	長頸鏃。茎部と棘状の区のみが残る。茎部長63mm。	
3 923	鉄鏃	長さ 137 重さ 13.3	玄室中 No 4	長頸鏃。鏃身部欠損。棘状の区を持つ。	
4 924	鉄鏃	長さ 104 重さ 10.9	玄室中 No 6	長頸鏃。鏃身部欠損。台形状の区を持つ。	
5 925	鉄鏃	長さ 125.5 重さ 5.8	玄室中 No 9	片丸造柳葉形長頸鏃。茎部欠損。	
6 926	鉄鏃	長さ 161.5 重さ 11.2	玄室中 No 5	長頸鏃。鏃身部欠損。	

7 927	鉄鏃	長さ 69.5 重さ 5.0	玄室中 No 7	片丸造柳葉形長頸鏃。基部欠損。	
8 928	鉄鏃	長さ 68.5 重さ 4.7	玄室中 No12	長頸鏃。鏃身部欠損。	
9 929	鉄鏃	長さ 34 重さ 1.6	玄室中 No12	片丸造柳葉形長頸鏃。基部欠損。	
10 930	刀子	長さ 166.5 重さ	玄室中 No 3	平造。平棟で刃幅19mm。僅かに反りが有り、鋒は元張ってフクラ枯れる。直の棟区が僅かに有り、茎に柄の下地と思われる繊維の巻き付けが認められる。	
11 931	刀装具	径 33×46 重さ	玄室中 No 1	柄頭の縁金具。厚さ約0.5mmの金銅板で、倒卵形に成形する。断面形はC字形を呈する。	13とセットになるか？
12 932	鉄器 刀装具	径 27.5×37	玄室中 No 2	鐔縁金具。厚さ2mmの鉄板で、倒卵形に成形する。長さ13mm。	
13 933	刀装具	10×13 重さ 0.83	玄室中 No 1	柄頭の懸通孔に用いられた鳩目金具。厚さ約0.5mmの金銅板で成形する。	11とセットになるか？
14 934	耳環	29.60×26.75 重さ 19.4	玄室中 No 2	径6.3mmの銅棒に筒状の金の薄板を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、2.5mm程の切れ目を持つ塊状に曲げたもの。	
15 935	耳環	31.55×28.50 重さ 22.9	玄室中 No 4	径7.8mmの銅棒に筒状の金の薄板を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、2.5mm程の切れ目を持つ塊状に曲げたもの。14よりもやや大きい。	

19号墳出土土輪観察表《第278図・図版137・138》

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1291	円筒	高 (16.4) 底 16.8	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 14	外面 縦刷毛。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。細かい植物圧痕。	
2 1292	円筒	高 (10.4) 底 14.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 10	外面 縦刷毛。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
3 1293	円筒	高 (12.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 7 内面 8	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛～横方向刷毛。	
4 1294	朝顔	高 (16.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	内面 16	内外面に共に剝離が著しい。外面 縦刷毛？。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。	
5 1295	形象 人物 女子頭部	高 (15.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 14	2連の首飾り・耳環の表現が認められる。頸部に赤色塗彩が残る。	
6 1296	形象 人物 頭部？	高 (7.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		線刻による円と鋸歯文が認められる。	
7 1297	形象 人物	高 (11.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		下げ髻の剝離痕が認められるので、男子像の右側であると考えられる。頸部及び頬に赤色塗彩が残る。	
8 1298	形象 人物	高 (6.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6		額部。目の表現が認められるが左右不明。赤色塗彩が残る。男子像の可能性が高い。	
9 1299	形象 人物	高 (3.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6		耳朶と耳飾りの玉1個の表現が認められる。	
10 1300	形象 人物	高 (8.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 14	下げ髻の剝離痕が認められるので、男子像の可能性が高い。	
11 1301	形象 家	高 (9.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 14	壁材の隅部破片。	
12 1302	形象 家	高 (6.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		壁材の下端部破片。	

21号墳出土埴輪観察表《第283～288図・図版138～144》

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/ 2 cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1303	円筒	高 (14.0) 底 19.5	テラス 埴輪列 No. 1	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR7/6	外面 10	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
2 1304	円筒	高 (9.6) 底 21.4	テラス 埴輪列 No. 2	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③赤橙10R6/6	外面 12	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
3 1305	円筒	高 (21.6) 底 17.5	テラス 埴輪列 No. 3	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/4	外面 10	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
4 1306	円筒	高 (21.6) 底 18.8	テラス 埴輪列 No. 5	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR8/4	外面 11	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
5 1307	円筒	底 (19.7)	テラス 埴輪列 No. 6	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
6 1308	円筒 胎土No31	高 (24.4) 底 19.8	テラス 埴輪列 No. 7	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR7/6	外面 11	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
7 1309	円筒	高 (9.6) 底 17.0	テラス 埴輪列 No. 8	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③淡赤橙2.5YR7/4	外面 10	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
8 1310	円筒 胎土No32	高 (16.8) 底 18.1	テラス 埴輪列 No. 9	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4	外面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
9 1311	円筒	高 (47.6) 底 27.1	テラス 埴輪列 No.10	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③淡赤橙2.5YR7/4	ナデ調整	外面 ナデ調整。黒斑が認められる。 内面 輪積み痕を縦方向ナデで消す。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
10 1312	円筒 胎土No29	高 43.2 口 33.4 底 22.2	テラス 埴輪列 No.13	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/3	外面 8 内面 8	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (9.0×7.0)。 内面 縦方向指ナデ。口縁部横方向刷毛。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
11 1313	円筒	高 46.8 口 36.3 底 25.2	テラス 埴輪列 No.14	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR6/3	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。2段目にB種横刷毛。2・3段目に 円形透孔 (5.6×6.1)。内面 縦方向指ナデ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	口唇部に5 個の刻み
12 1314	円筒	高 47.6 口 30.9 底 24.9	テラス 埴輪列 No.16	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4	外面 9 内面 10	外面 縦刷毛。基部を除きB種横刷毛。2・3段目 に円形透孔 (7.5×7.7)。内面 縦方向指ナデ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	口縁部に3 条の寛記号
13 1315	円筒	高 48.4 口 31.8 底 22.7	テラス 埴輪列 No.17	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR7/4	外面 8 内面 8	外面 縦刷毛。2・3段目にB種横刷毛。2・3段 目に円形透孔 (6.9×7.5)。内面 縦方向指ナデ。 底面 粘土板3枚接合。植物圧痕。	口唇部に9 個の刻み
14 1316	円筒	高 46.4 口 31.8 底 21.9	テラス 埴輪列 No.18	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 10 内面 14	外面 縦刷毛。2段目にB種横刷毛。2・3段目に 円形透孔 (6.7×7.2)。内面 縦方向指ナデ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	凸帯に15個 の刻み
15 1317	円筒	高 (28.0) 底 23.8	テラス 埴輪列 No.21	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 8	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 縦方向指ナデ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
16 1318	円筒 胎土No30	高 47.2 口 34.0 底 23.5	テラス 埴輪列 No.23	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR7/4	外面 10 内面 8	外面 縦刷毛。2・3段目にB種横刷毛。2・3段 目に円形透孔 (5.6×6.3)。内面 縦方向指ナデ。 底面 粘土板3枚接合。植物圧痕。	口縁部に5 条の寛記号
17 1319	円筒 胎土No79	高 47.6 口 30.7 底 23.3	テラス 埴輪列 No.24	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 7 内面 8	外面 縦刷毛。基部を除きB種横刷毛。2・3段目 に円形透孔 (7.6×6.1)。内面 横～左上がり斜め刷 毛。基部縦方向指ナデ。底面 粘土板2枚接合。	
18 1320	円筒	高 (9.6) 底 26.0	テラス 埴輪列 No.25	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
19 1321	円筒	高 (15.2) 底 22.4	テラス 埴輪列 No.26	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③赤橙10YR6/8	外面 8	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナデ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	

20 1322	円筒	高 (20.8) 底 22.1	テラス 埴輪列 No27	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄橙10YR7/4	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 横～左上がり斜め刷毛。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
21 1323	朝顔	高 (20.2)	テラス 埴輪列 No 4	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍赤橙10R6/4	外面 11 内面 13	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。	
22 1324	円筒	高 (33.6) 口 41.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	ナデ調整	外面 ナデ調整。 内面 縦～横方向篋ナデ。	
23 1325	円筒	高 (41.5)	埴丘斜面	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4	ナデ調整	外面 ナデ調整。円形透孔(4.0×3.8)。 内面 縦～横方向篋ナデ。	
24 1326	円筒	高 48.0 底 30.8	埴丘斜面 No28	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	ナデ調整	外面 ナデ調整。 内面 縦～横方向篋ナデ。 底面 右回り輪積み痕。植物圧痕。	
25 1327	朝顔	高 (34.6)	埴丘斜面 No20	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	ナデ調整	外面 ナデ調整。 内面 縦～横方向篋ナデ。	
26 1328	朝顔	高 (50.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4	ナデ調整	外面 ナデ調整。 内面 縦～横方向篋ナデ。	
27 1329	朝顔	高 (67.2) 底 24.6	埴丘斜面 No28	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	ナデ調整	外面 ナデ調整。 内面 縦～横方向篋ナデ。 底面 右回り輪積み痕。植物圧痕。	

21号埴出土遺物観察表〈第289図、図版154〉

番号	器種	残存法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 695	土師器 鉢	口 底 高	31.3 8.1 23.7	張出部西側 No22	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③明褐7.5YR5/6	外面 体部縦方向篋削り。口縁部横ナデ。 内面 篋ナデ後にナデ。	
2 696	土師器 壺	底	7.4	張出部東側 No15	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面 体部縦方向篋削り。口縁部横ナデ。 内面 篋ナデ。 焼成後に肩部に外側から穿孔。	

22号埴出土遺物観察表〈第290図、図版154・168〉

番号	器種	残存法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 697	土師器 高坏	口 底 高	17.1 12.5 12.8	覆土中	①砂粒を多く含む ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR5/4	外面 体部下半手持ち篋削り。黒斑有り。 内面 丁寧なナデ。	
2 936	鉄鎌	長さ	12.2	北西部		先端部が欠損しているが曲刃鎌。基部には、3.5cm幅の刃に対してほぼ直角に着柄のための折り返しが付く。柄の径は2cm程と考えられる。	
3 937	鉄斧	長さ	8.6	北西部		有袋有肩鉄斧。着柄のための袋部の合わせ目は丁寧な作っている。基部は3.3×2.3cmの楕円形状を呈する。刃部幅5.3cm。	
4 938	鉄刀	長さ	84.5	北壁際		平造大刀。平棟で、僅かに反りを持ち、鋒はフラ付く。刃区は直で8mm。茎尻から2/3付近に径3mmの目釘穴。一部に鞘の木質が残る。	

(2) 住 居

17号住居出土遺物観察表〈第298図、図版171〉

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 255	甕	口縁部～胴部上 位破片	埋没土	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は外反弱く立ち上がる。	口縁部は櫛描波状文を充填する。4段か。頸部には6条1単位2連止の簾状文が巡る。胴部上位には7条1単位の櫛描波状文が1段施文される。	被熱。
2 257	甕	口縁部～胴部上 位破片	埋没土	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は短く、先端は折り返し口縁。	頸部には9条1単位、間隔のあいた2連止簾状文を施す。胴部上位には櫛描波状文が1段みえる。	
3 256	甕	口縁部～胴部上 位1/4残存 口 11.1 高 (4.2)	中央部 + 5 No10	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部はくの字状に屈曲、短く立ち上がる。口縁部は刷毛目後横撫で。胴部外面は横方向の刷毛目。		磨滅している。
4 258	壺か	底部1/2残存 底 (8.2)	北部 +14 No 2	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/4	脚部は大きく張るか。外面は篋撫で。		炭素吸着。
5 259	壺か	底部 底 7.2	南東部 +27 No11	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6			炭素吸着。
6 262	甕か	底部1/3残存 底 (5.4)	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6			被熱。
7 263	甕	口縁部～胴部上 位 口 (14.2) 高 (9.2)	中央部 +15 No 9	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 7/3	口縁部はくの字状に屈曲、短く立ち上がり、先端は外側へつままれる。口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向に器面調整後、横方向の刷毛目。		被熱。
8 254	壺	胴部中位～底部 1/3残存 高 (15.5)	2号炉内、西 部 床直 No15・16	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/4	胴部は球形で大きく張る。内外面とも丁寧な篋削り、篋撫で。		炭素吸着。
9 261	台付甕	胴部下位～台部 上位 高 (5.8)	中央部 床直 No 7	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 6/4	大きく張る胴部に低い台部が取り付くと思われる。外面は刷毛目。胴部内面は篋撫で。脚部内面は刷毛目後、指頭による撫で。		内面に炭素吸着。
10 260	高杯	杯部下位～脚部 高 (9.1)	中央部 +2.5 No 6	①礫大のチャート・ 細砂の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 7/4	杯部の口縁部分は狭小な底面から稜をなして斜め上方に立ち上がるか。脚部の上位は細く柱状を呈する。徐々に径を増し、下位は大径の裾部分を有したか。外面は丁寧な磨き。脚部内面は篋撫で。		
11 35	台石	32.8・23.0 9.0	埋没土	粗粒安山岩 10079	器面にごくわずかに磨耗が認められる。		
12 36	打製石斧	9.6・4.8 2.6	埋没土	硬質泥岩 150	片面に自然面を残し、2辺に刃をつける。		

21号住居出土遺物観察表《第300・301図、図版171》

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 506	杯 胎土No75	ほぼ完形 口 12.0 高 5.2	P1内 床直 No3	①精選、凝灰岩・輝 石の細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口径に比較して器高が低く偏平 である。口縁部は内湾して立ち 上がり、先端は尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は 不定方向の篋削り。内面は非 常に丁寧な撫で、磨き。その 上に棒状工具による磨きが放 射状に施される。	内外面の一部に炭素吸 着。
2 507	杯 胎土No74	完形 口 12.8 高 5.1	南東部 +3.5 No12	①精選、凝灰岩細砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は緩やかに内湾して立ち 上がる。先端は尖りぎみである。	外面の先端を横撫で。以下は 不定方向に丁寧な篋削り。内 面は丁寧な撫で後放射状に棒 状工具による磨き。	内外面の一部に炭素吸 着。
3 509	杯	ほぼ完形 口 11.9 高 5.4	南東部 +3 No8	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	深みがあり、椀状を呈する。先 端は緩やかに内湾して立ち上 がり尖る。	外面の先端は幅広い横撫で。 以下は丁寧な篋削り、撫で。 内面は丁寧な撫で。一部に指 頭圧痕。	内外面の一部に炭素吸 着。
4 513	杯	1/3残存 口 (11.2) 高 (5.9)	P1内 +5 No10	①チャート・石英の 粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は斜め外方に立ち上がり、 先端で弱く内湾する。先端は尖 る。底部は不安定である。	外面は粗雑な撫で後、口縁部 に横撫で。下半は弱い篋削り 後撫でか。内面は丁寧な撫で。	
5 508	杯	ほぼ完形 口 14.0 高 5.5	中央部 +3 No.16	①細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 4/4	口縁部は緩やかに内湾、先端は 直立ぎみに立ち上がる。	外面は先端を横撫で、以下は 不定方向に篋削り、撫で。内 面は丁寧な撫で。一部に指頭 圧痕。	内面に黒色 の付着物。
6 516	杯	破片 口 (14.2) 高 (4.8)	埋没土中	①赤色粘土粒の粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部は内湾して立ち上がる。	口縁部は横撫で。内外面は丁 寧な撫で。	一部に炭素 吸着。
7 511	杯	完形 口 13.5 高 5.2	南東部 +3 No2	①凝灰岩細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部はいわゆる内斜口縁で、 内返りぎみに立ち上がり先端は 尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は 削り後丁寧な篋撫で。内面も 丁寧な篋撫で。一部に工具圧 痕。	一部に炭素 吸着。
8 510	椀	完形 口 12.7 高 6.2	南東部 +3 No9	①精選、凝灰岩細砂 少量 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は短く、いわゆる内斜口 縁。先端は尖る。底部は狭小な 平坦面を持つ。	口縁部と胴部上位は横撫で。 胴部下半は不定方向の篋撫で。 内面は丁寧な篋撫で。一部に 工具圧痕。	内外面の一部に黒色 の付着物。
9 517	鉢	完形 口 8.0 高 5.9	南東部 床直 No7	①比較的精選、赤色 粘土粒・凝灰岩の細 砂を少量 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/8	小径。口縁部は丸みをもって斜 め上方に立ち上がる。底部は狭 小で不安定である。	口縁部は横撫で。外面は丁寧 な撫で。一部に成形痕。内面 は撫で後棒状工具による磨き。	内面に黒色 の付着物。
10 505	鉢	ほぼ完形 口 12.8 高 7.9	P1内 +4 No4・5・6・ 11	①チャートの礫・粗 砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は弱く張り、内湾ぎみに 立ち上がる。先端は丸みを帯び る。底部は不安定な平底である。	外面は先端を横撫で。以下は 不定方向に削り、撫で。底部 外面は削り。内面は不定方向 の撫で。	外面に炭素 吸着。
11 515	鉢	口縁部1/4残存 口 (12.9) 高 5.4	南東部 +3.5 No11	①細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4	口縁部は斜め上方に向けて立ち 上がる。底部は狭小の平底と思 われる。	口縁部先端は横撫で。以下は 斜方向の篋削りあるいは粗雑 な撫で。個体の可能	炭素吸着。 514と同一 性がある。
12 514	鉢か	口縁部1/3残存 口 (14.5) 高 (3.5)	南東部 +3.5 No11・19	①細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/8	粘土紐の接合が粗雑で、器面に 凹凸が生じている。口縁部は斜 め上方に立ち上がり先端は尖る。	口縁部先端は横撫で。以下は 篋削り後不定方向に篋撫で。 内面は撫で。	一部に炭素 吸着。
13 502	壺	ほぼ完形 口 17.4 高 28.1	南東部 床直 No1	①チャートの礫・粗 砂・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部はくの字状に屈曲して立 ち上がり、先端は内側に丸く肥 厚する。胴部は丸みをもって張 り、最大径を中位に持つ。底部 は平底。	口縁部は横撫で。胴部外面は 上半を下から上方方向に2～3 回に分けて篋削り。下半は斜 め下方方向に篋削り、撫で。内 面は丁寧な撫で。	外面の一部 に炭素吸着。

番号	器種	残存量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
14 503	甌	1/2残存 口 (21.9) 高 23.5	中央部 床直 No18	①チャートの礫・粗砂・輝石 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/6	口縁部は短く、弱く外傾する。胴部は上位に最大径を持ち、底抜きの底部に向かって徐々に細くなる。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜方向に3回に分けて篋削り、篋撫で。内面は3回に分け、方向を違えて篋撫で。その上に磨きも施したか。	外面に炭素吸着。
15 504	小型甕	口縁部1/3残存 口 (9.5) 高 13.2	中央部 + 9 No. 19	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	口縁部は極めて短く、外傾弱く立ち上がる。胴部は球状を呈する。	口縁部は横撫で。胴部外面は上位を縦方向、下位は斜方向に篋撫で。内面は横方向に撫で。一部に指頭圧痕。	
16 47	母岩	6.0・6.5 5.3	埋没土	頁岩 337	小型の円礫から剥片を取ったもの。		
17 46	剥片石器	4.0・6.6 1.0	中央部 No22	黒色安山岩 28	端部に使用痕がある。		

27号住居出土遺物観察表 (第303・304図、図版172・173)

番号	器種	残存量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 536	杯	口縁部3/4残存 口 11.8 高 6.6	南東部 + 5 No 7	①チャート・輝石・金雲母の粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/8	口縁部は斜め上方に向かって立ち上がった胴部に内湾ぎみに続く。底部は狭小な平底。	口縁部は横撫で。胴部外面は粗雑な篋撫でか。内面も撫でが施されるが、工具の圧痕が顕著に認められる。	一部に炭素吸着。全体に荒れている。
2 533	鉢	ほぼ完形 口 13.2 高 6.3	南西部 床直 No32	①チャート・赤色粘土粒の粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/8	成形が粗雑で器形の歪みが著しい。口縁部は幅2cm程が折り返し状の複合口縁。底部は狭小な平底。	器面は荒れて観察が困難である。口縁部は横撫で。胴部にも撫でが施されたと思われるが、それ以前の削りの痕跡を器面に残す。	熱を受けているか。変色、変質。
3 531	鉢	完形 口 12.9 高 5.8	南東部 + 3 No 8	①石英・チャートの粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/8	口縁部は弧状に膨らみを帯びて斜め上方に立ち上がる。底部は狭小な平底。	口縁部は横撫で。胴部外面は刷毛状工具による撫で。内面は横方向に篋撫で。一部に指頭圧痕。	
4 534	小型広口壺	3/4残存 口 9.8 高 7.7	P 1 内 + 5 No14	①チャートの粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は短く直立ぎみに外傾する。胴部は弱く張って丸みをもつ。底部は安定した平底。	口縁部から胴部上位は横撫で。胴部外面の上位は撫で。下位は篋削り。内面は撫で。下位から底面には工具圧痕。	炭素吸着。
5 538	鉢	2/3残存 口 13.4 高 5.9	南東部 床直 No. 15	①赤色粘土粒・輝石の細砂 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/8	口縁部は弧状に立ち上がり、先端は弱い稜を持って肥厚する。底部は非常に狭小。	口縁部は横撫で。胴部は篋削り後篋撫で。口縁部の下位には指頭圧痕。	器面は荒れている。
6 530	鉢	完形 口 12.3 高 5.8	南東部 床直 No24	①チャートの礫・石英の細砂 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/8	口縁部はやや膨らみをもって斜め上方に立ち上がる。底部は狭小な平底。	口縁部は横撫で。胴部外面は篋削り後篋撫でか。内面は横方向に弱い篋撫で。	一部に炭素吸着。
7 540	小型粗製土器	口縁部欠損 高 (2.5)	北西部 +12 No31	①細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	胴部は上位がやや細く、丸底の底部に続く。	器面に成形時の篋削り痕を残す。内外面とも粗雑な撫で。	炭素吸着。
8 535	小型壺	口縁部1/2残存 口 7.3 高 6.6	埋没土	①粗砂多量 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は短く、くの字状に外傾する。胴部は球状で、狭小で不安定な底部に続く。	口縁部は内外面とも横撫で。胴部外面は撫でているが、下半は非常に粗雑な整形で器形に歪みを生じさせている。内面にも粗雑な撫で、指頭圧痕。	外面の一部に炭素吸着。
9 529	小型広口甕	ほぼ完形 口 10.3 高 9.5	P 2 内 No21	①チャートの礫・輝石の細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は短く、くの字状に屈曲し立ち上がる。胴部は上位で張り、丸底の底部に続く。	口縁部は横撫で。胴部外面の最上位は横撫で。中位から底部は篋削り、篋撫で。内面は篋撫で。	内面に黒色の付着物。

番号	器種	残存量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
10 537	罎	完形 口 8.1 高 8.9	埋没土	①赤色粘土粒の粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部は長く直線的に延びる。胴部は横長の球形を呈し胴部最大径と口径はほぼ等しい。底部は不安定な平底。	器面が荒れており観察は困難である。口縁部は横撫で後内面には棒状工具による縦方向の磨き。外面も同様の整形と思われる。胴部外面は上半が撫で、下半が篋削りである。内面は指頭による撫で。	
11 532	高杯	杯部のみ 口 17.8 高 (7.1)	南東部 No19・20	①赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	杯部は弧状に立ち上がり、先端が外側につままれて尖る。	口縁部は横撫で。内外面とも丁寧な撫で。内面はその上に棒状工具による不定方向の磨き。	ピット内と+15が接合。一部に炭素吸着。内面は荒れている。
12 520	高杯 胎土No78	杯部のみ 口 19.8 高 (7.6)	P 1 内 No16・17・18・ 19・20	①精選、赤色鉱物粒・細砂 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR7/8	杯部は底面から丸みをもって立ち上がり外傾する。先端はやや内側にかえる。	口縁の先端は横撫で。それ以下は丁寧な撫で後、縦方向に棒状工具による磨き。底面内側にも棒状工具による磨き。	破碎後熱を受けたのか一部に炭素吸着。
13 522	高杯 胎土No76	杯部のみ 口 17.8 高 (5.5)	南東部 床直 No 2	①精選、チャートの礫少量 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁は外傾して立ち上がり、先端は弱くかえる。	口縁の先端は横撫で。中位以下は内外面とも斜方向の撫で後棒状工具による縦方向の磨き。底面にも磨き。	内面は荒れている。
14 541	高杯	口縁部1/3残存 口 (18.8) 高 (5.7)	南東部 + 8 No 2	①凝灰岩・黒雲母粗砂 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	脚部から水平に開いた底面は屈曲し、斜め上方に外反する口縁部に続く。	口縁部は先端を横撫で。下半は斜方向の篋撫で。内面は撫で後丁寧な磨き。底面も篋撫で。	一部荒れて剥離している。
15 524	高杯	杯部1/3残存 口 17.7 高 14.5	南東部 床直 No 9	①チャート・赤色粘土粒の粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/8	杯部は底面から稜をなして口縁に移り、斜め上方に強く外反する。脚部は下位に向けて緩やかに開き、下位は内面に稜をなして大きな裾をつくる。	杯部・脚部とも篋撫でが施されるが、杯部底面は成・整形とも粗雑である。脚部内面上位には杯部接合のためのほぞ状の突起がみられ、指頭整形痕が顕著である。	杯部内面は剥離顕著。
16 523	高杯 胎土No77	杯部口縁1/2残存 口 高	P 内 床直 No12	①精選、緻密、細砂 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	杯部は水平に開いた底面から稜をもって斜め上方に強く外反して立ち上がる。柱状の脚部は裾が大きく開く。	脚部内面の上半に一部粘土紐の接合痕を認める他は杯部、脚部とも丁寧な撫で、磨きが施され、杯部内外面、脚部下位の外面には棒状工具による磨き。	
17 521	高杯	脚部1/4残存 口 19.5 高 15.4	P 2 内 No18・23	①赤色粘土粒・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	杯部は下位に不明瞭な稜をしながら外傾強く立ち上がる。脚部は柱状を呈し、下位で屈曲、裾方向に大きく開く。	杯部の口縁部分は横撫で。底部分は撫で。脚部外面も撫で。	
18 525 526	高杯	杯部1/3残存 口 18.0 高 14.1	南東部 床直 No 6・11・13	①チャートの粗砂・金雲母の細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	杯部は水平に開く底面から弱い稜を経て、口縁が斜め上方に立ち上がる。柱状の脚部は緩やかな膨らみを持ち、下端近くで裾が大きく開く。	器面が荒れており観察が困難である。脚部内面の上半に、指頭による撫で、篋削りがあるほかは、丁寧な篋撫でと思われる。	
19 543	小型壺	口縁部～胴部上位2/3残存 口 (12.1) 高 (7.0)	南東部 + 8 No 1・2	①精選、白色軽石細砂少量 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部はくの字状に屈曲、斜め上方に長く立ち上がる。	器面が荒れており観察は困難であった。口縁部は横撫でか。	
20 940	壺	口縁部1/2残存 口 (20.2) 高 (7.1)	埋没土	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は中位に強い稜をつくるいわゆる複合口縁。先端も外面に稜をなして尖る。	内外面とも丁寧な横撫で。	
21 527	甕	口縁部 口 15.2 高 (3.5)	南東部 + 4 No11	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部はくの字状に短く屈曲して立ち上がる。	内外面とも横撫で。	

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
22 519	甕	口縁部は1/4 胴部は2/3残存 口 (15.4) 高 22.1	P 2 内 No22	①石英・チャートの粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は短く外反する。胴部は球状を呈し、狭小な底部に続く。	口縁部は横撫で。下半に一部刷毛目。胴部外面は上～中位を斜から縦方向、下位を斜方向に篋削り。内面は篋撫でか。	被熱による変色。一部に炭素吸着。
23 528	甕	胴部上位～下位 1/3残存 高 (18.6)	南東部 + 6 No10	①チャートの粗砂多量 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	胴部は球状に張り、最大径を中位に持つと思われる。底部は狭小な平底。	外面は篋削り後篋撫で。内面も篋撫で。上位に斜方向の篋削り。	被熱による変色。底部外面に靱圧痕。
24 518	壺	完形 口 19.2 高 34.7	P 1 内 No20	①チャートの礫・粗砂を多量 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部はくの字状に立ち上がり、中位に弱い稜を持つ。内面も受け口状を呈する。胴部は球状で最大径を中位に持つ。底部は不安定な平底。	口縁部は斜方向の刷毛目後上半を横撫で。胴部外面は刷毛目後4回程に分けて篋削り。内面は丁寧な撫で。	内外面の一部に炭素吸着。

(3) 土 坑

2号土坑出土遺物観察表〈第306図〉

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 942	埴	1/2残存 口 (6.1) 高 11.0		①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は内湾して立ち上がる。胴部はやや偏平な球形を呈する。底部は小径の平底。	外面は篋撫で後丁寧な磨き。口縁部内面は撫で。	炭素吸着。

3号土坑出土遺物観察表〈第306図〉

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
2 941	埴	1/2残存 口 11.2 高 (15.1)		①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は屈曲後斜め上方に長く立ち上がる。脚部は球形を呈する。	器面の剥離が著しく観察が困難であるが、内面の上位に口縁部との接合痕が残る。	

4号土坑出土遺物観察表〈第306図〉

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
3 943	埴	口縁部1/3残存 口 (10.7) 高 5.4	No 1	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は屈曲後短く外反する。体部は浅く、丸底。	口縁部は横撫で。体部外面は篋撫でか。	器面は荒れている。

(4) 墓

10号墓出土遺物観察表〈第307図〉

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 959	壺	ほぼ完形 口 17.1 高 32.6		①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/3	口縁部は屈曲後外反して立ち上がる。胴部は球形で大きく張る。底部は周縁が高台状を呈する。	外面は斜方向に刷毛目を施し、口縁部のみ撫で。口縁部内面にも刷毛目が残る。	内外面の一部に炭素吸着。

3. 平安時代の遺構出土遺物

(1) 住 居

31号住居出土遺物観察表〈第310図、図版175〉

番号	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形	成・整形の特徴	備 考
1 548	杯 土師器	1/3残存 口 (12.2) 高 4.0	中央部 +9 №47・掘り方	①精選されているが 粗砂も多量 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がる。 先端に弱い稜をなす変換点がある。 全体に器内は厚い。	外面は口縁部先端を横撫で。 以下も撫で。底部は篋削り後 撫でか。内面は撫で。	やや荒れて いる。
2 550	杯 須恵器	ほぼ完形 口 12.6 高 3.2	中央部 床直 №46・掘り方	①長石・チャートの 粗砂少量 ②還元焰・軟質 ③灰白7.5Y8/1	口縁部は底部から弱く丸みをも って外傾する。先端は更に斜 め上方につままれたように延び る。口径と底径の比率は1： 0.41。	右回転ロクロ成形。底部は回 転糸切り離し後無調整。口縁 部は内外面とも横撫で。	一部に炭素 吸着。
3 551	杯 須恵器	ほぼ完形 口 11.8 高 3.4	北西部 床直 №2・カマド・ 貯蔵穴	①粗砂少量 ②還元焰・軟質 ③灰白10Y7/1	口縁部は内湾ぎみに立ち上がり、 先端は更に外側につままれる。 口径と底径の比率は1：0.46。	右回転ロクロ成形。底部は回 転糸切り離し後無調整。粗雑 で底面に粘土粒が付着する。 口縁部は横撫で。	一部に炭素 吸着。
4 547	杯 土師器	完形 口 12.8 高 3.8	南西部 床直 №1	①石英・チャートの 粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部は短く、斜め上方に立ち 上がり先端は尖る。口径と底径 の比率は1：0.69。	器面の荒れが著しく観察が困 難である。内面は横方向の撫 でと思われる。	
5 552	杯 須恵器	2/3残存 口 13.2 高 3.4	南東部 +4 №.45・掘り方	①白色鉾物粒・細砂 少量 ②還元焰・軟質 ③灰白7.5Y7/	口縁部は斜め上方に立ち上がる。 口径と底径の比率は1：0.50で 底部が広い形状である。	右回転ロクロ成形。底部は回 転糸切り離し後無調整。	炭素吸着。 底部をはじ め器面の磨 減が著しい。
6 553	高台付碗か 須恵器	破片 口 14前後か 高 (5.5)	掘り方埋土	①精選、細砂少量 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	右回転ロクロ成形。口縁部は斜 め上方に立ち上がるが、深みの ある形状を呈していたと思われ る。先端は内側がそげて尖る。	右回転ロクロ成形。外面に成 形痕が顕著に認められる。	内面黒色処 理。
7 549	蓋 須恵器	完形 口 18.1 高 3.7	カマド・貯蔵 穴 №6・11・22・ 29・33・42	①精選、黒色鉾物粒 ②還元焰・良好 ③灰N6/	天井部は偏平で膨らみは弱い。 口縁部の先端は短く内折する。 つまみは中央がへこみリング状 を呈する。	左回転ロクロ成形。回転糸切 り離し後つまみを取り付けて おり、つまみの周辺に糸切り 離し痕がみられる。天井部上 半は回転をとまなう篋削り調 整。	
8 546	甕 土師器	口縁部～胴部上 位3/4残存 口 19.8 高 (7.4)	貯蔵穴・カマ ド №2・13・14・ 15・24・26・ 37	①白色鉾物の細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部は直立して立ち上がり、 中位で外反する。胴部は緩やか に膨らむか。	口縁部は横撫で。胴部外面は 横方向の篋削り。内面は撫で。	
9 545	甕 土師器	完形 口 20.2 高 27.2	カマド・貯蔵 穴 №8・17・18・ 19・21・28・ 30・31・38・ 41	①細砂多量 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部は内傾ぎみに立ち上がり、 中位で強く屈曲、外反する。胴 部は最大径を上位に持つが、張 り出しは弱い。底部は狭小な平 坦面を持つ。	口縁部は横撫で。胴部外面は 上位を斜め、あるいは横方向 の篋削り。中位以下を斜方向 の篋削り。内面は横方向の撫 で。	外面に炭素 吸着。

群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第153集

少林山台遺跡

〈遺物観察表編〉

少林山砂防施設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成5年3月19日 印刷

平成5年3月26日 発行

編集・発行／群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村大字下箱田784-2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社